

【付録】

- ① 2019 年度 全学入学前教育プログラム実施報告書
- ② 2020 年度 全学初年次教育「自立と体験 1」授業実施報告書
- ③ 2020 年度「自立と体験 2」授業実施報告書
- ④ 2020 年度「自立と体験 3A」授業実施報告書
- ⑤ 2020 年度「自立と体験 4」授業実施報告書
- ⑥ 2020 年度「キャリアデザイン A」授業実施報告書
- ⑦ 2020 年度「キャリアデザイン B」授業実施報告書
- ⑧ 2020 年度 明星教育センター自校教育事業報告

2019年度 全学入学前教育プログラム実施報告書

Summary (概要)	
<p>2019年度全学入学前教育プログラムは、例年どおり(1)スタートアップ講習、(2)通信教育(eラーニング)、(3)フォローアップ講習、(4)スクーリング、(5)特別講座の五つを計画した。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大が懸念されたことにより3月以降に実施予定だった項目については中止せざるを得なかったため、今年度は(1)(2)(4)の実施にとどまった。</p>	
(1) スタートアップ講習	<p>入学予定者同士および在学生との関わりを持たせることで入学後の大学生活をイメージする機会になり、「大学生活への夢や期待を高める」という目的が達成された。</p>
(2) 通信教育	<p>昨年度同様、株式会社ワオ・コーポレーションに委託し実施。高い課題達成率(通信教育を実施した全ての科目において95%を超)となり、学習に真剣に取り組む姿勢がみられ、「学び続けることの重要性を認識させる」という目的が達成された。また、プレテストと修了テストの比較からスコアが概ね向上していることがわかり、「基礎学力を向上させる」という目的が達成できた。</p>
(4) スクーリング	<p>スクーリングの一環である「やる気応援プロジェクト講座」を2月に実施した。昨年に引き続きパソコン講座への参加者が多く、入学前にパソコンに慣れておきたいという意欲が向えた。合格者の希望する講座を提供することができ、「学ぶ意欲を引き出す」という目的が達成できた。また、英語のプレイスメントテストの成績上位者を対象とした「English Program」(ネイティブ講師が3日間にわたりのAll Englishで行うプログラム)も実施した。Basicコースの途中離脱者があったことに課題は残るが、参加者の満足度は高く「学ぶ意欲を引き出す」という目的が達成できた。</p>
<p>2020年度の課題として、新型コロナウイルス感染症が再び流行する可能性があることを踏まえ、対面ではなく「オンライン」で行えるよう、プログラム全体を再構築する必要がある。</p>	

1 目的

2019年度の全学入学前教育プログラムは、従前どおり以下の点を目的として実施した。

- (1) 大学生活への夢や期待を高める
- (2) 学ぶ意欲を引き出す
- (3) 基礎学力を向上させる
- (4) 学び続けることの重要性を認識させる

2 実施概要

2-1 プログラムの構成

入学予定者に対して(1)スタートアップ講習、(2)通信教育(eラーニング)、(3)フォローアップ講習、(4)スクーリング、(5)特別講座の五つを実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大が懸念されたことから(3)フォローアップ講習と(5)特別講座、及び(4)スクーリングの一環である「やる気応援プロジェクト講座」(3月)は中止した。

実施日程及び各プログラムの概要は、以下の表1、表2の通りである。

2-2 実施日程(表1)

	7・8・9・10月	11月	12月	1月	2月	3月
対象者 (合格入試区分)		AO9月 AO10月	AO11月、指定校、スポーツ・文化、卒業生子女			
大学全体のプログラム	学科主任説明会 (7/23、7/25)	①～⑤				
スタートアップ講習担当職員向け説明会		12日(火)	3日(火)			
(1)スタートアップ講習 ※1	プレテスト問題検討	24日(日)	15日(日)			
(2)通信教育 ※1	eラーニングコンテンツ検討					
(3)フォローアップ講習 ※1						19日(木) 【中止】
(4)スクーリング ※1						【講座中止】
(5)特別講座 ※1 ※2						19日(木) 【中止】

※1 AO9月・AO10月・AO11月入試合格者、推薦入試合格者(指定校推薦、スポーツ・文化活動特別、卒業生子女特別、明星高校特別推薦(希望者のみ))

※2 一般入試(前期、中期)、大学入試センター試験利用など

2-3 各プログラムの概要(表2)

	目的	対象	実施日	主な実施内容	
スタートアップ講習	・年内合格者が入学までの期間を有効に使うための動機付けを行う	AO・推薦入試合格者	第1回2019年11月24日 第2回2019年12月15日	・(1)～(4)のプログラムを実施	
	(1)プレテスト			・通信教育のレベル分けを行う	・英語、国語・数学(数的処理・数学)
	(2)大学生活スタート講座			・入学前の準備を確認する ・通信教育実施への動機付けを行う	・自己紹介、大学生活準備度チェックなどのグループワーク ・通信教育ガイダンス ・校歌の紹介
(3)学科交流会	・入学する学科の教員や在校生と接し大学生活のイメージをつくる			・学科毎に各教室に分かれて実施 ・内容は学科のプログラムにより異なる	
(4)保護者説明会	・入学予定者の保護者に明星大学を理解してもらい、入学までの準備への協力を求める	上記の保護者		・大学の歴史、現状、教育理念、教育方針、入学前プログラムに関する説明、及びDVD上映 ・在学生スピーチ	

通信教育 (e ラーニング)	・入学後の学習に必要な基礎学力の 修得 ・学習習慣の獲得	AO・推薦入試合格 者	2019年12月 ～2020年2 月	【必修科目】 国語、英語、数学(数的処理、数学)、 小論文 【選択科目】 物理、化学、力学(学科、コースによ って異なる)
フォローアップ講 習【中止】	・入学後の学習に支障をきたさない ようにフォローする ・学習ステーションについて知る	「通信教育」への取 り組みが不十分な 入学予定者	2020年 3月19日 (木)	・大学生活で学習を自己管理する意味を 考えさせるためのグループワーク
スクーリング 【一部講座(3 月)中止】	・通信教育をサポートする ・大学生活の準備を促し、学習への意 欲付けを行う	AO・推薦入試合格 者	2020年 2月～3月	・「やる気応援プロジェクト講座」 「English Program」と称した、大学生 活を送る上で有益な講座 ・通信教育の課題に関する質問をしたい 場合やさらに勉強したい場合の学習ス テーションの開放
特別講座【中止】	・一般入試合格者に対して入学前教 育の機会を提供する ・大学での学びの入口を体験し、発想 を広げる	一般入試合格者(前 期・中期)、センタ ー利用入試合格者、 AO・推薦入試合格 者	2020年3月 19日(木)	・大学の授業の体験 ・受講した授業を他のグループメンバー に報告、それを題材とした大学での学 びについての考察

3. 実施結果

3-1. スタートアップ講習

2019年11月24日(日)、12月15日(日)に実施した(表3)。

参加者は合計1,153名(対象者1,150名、参加率90.3%)で、参加率は2018年度より2.9ポイント減少した。

<参考>2018年度:対象者1,109人、参加者1,072名、参加率93.2%

表3 スタートアップ講習の対象者・参加者

※明星高校特別推薦・併願は希望者のみ						
	実施日	対 象	対象者(a)	参加者(b)	参加率 (b/a)	保護者出席状況 (上段:組、下段:人)
1	2019年 11月24日(日)	AO9月、AO10月	447人	421人	94.2%	420(組) 479(人)
2	2019年 12月15日(日)	AO11月、指定校、ス ポーツ・文化活動特 別、卒業生子女特別	706人	620人	87.8%	508(組) 626(人)
合 計			1,153人	1,041人	90.3%	928(組) 1,205(人)

(1) プレテスト

英語・国語・数学(数的処理・数学)の3科目について、スタートアップ講習時に実施した。

アンケート集計(出席者1,205名中回答者1,048名)によると、「自分の今の学力を確認できたか?」という質問に対し、98.3%が「はい」と回答した。アンケートの自由記述をみると、「自分その科目の基礎をどれくらい理解できているかが分かった」、「自分はどこができないのか、グラフや数字が採点後すぐに出たので、しっかり確認できた」、「もう少しe-learningで勉強しようと思った」等の意見があった。入学予定者にとって、現在の自分の学力を確認し、「通信教育」を受ける動機づけの機会になったと思われる。

(2) 大学生生活スタート講座

以下の進行で、ほぼ例年通り実施した。

- ① 導入
- ② 自己紹介
- ③ 「大学生生活準備度」チェック
- ④ 通信教育ガイダンス(eラーニング委託業者が担当)
- ⑤ 校歌紹介
- ⑥ 振り返り

アンケート集計によると、「大学生生活スタート講座のグループ学習はどうだったか?」という質問に対し、「よかった」「まあまあよかった」という回答が99.7%であった。アンケートの自由記述をみると、「大学生活が始まる前に少しだが、知り合いを作れて良かった」「同じ目標を持った人と話せて嬉しかった」、「様々な人と話ができ、さらに明星大学で学びたいと思えるようになった」等の肯定的な意見が多かった。入学予定者にとって、入学後の大学生活への期待を高める機会になったと思われる。

(3) 学科交流会

各学科の教員および在校生の協力を得て実施した。

アンケート集計によると、「学科交流会はどうだったか?」という質問に対し、「よかった」「まあまあよかった」という回答が99.0%であった。アンケートの自由記述をみると、「入学後の生活が想像できたので良かった」、「先輩方の話を聞いてイメージをふくらませることができた」、「とても役に立つ事を聞けた」等の肯定的な意見が多かった。入学予定者同士及び在校生との関わりは、入学予定者にとって入学後の大学生活をイメージする良い機会になったのではないかとと思われる。

(4) 保護者説明会

明星大学の歴史・現状・教育理念・教育方針および入学前教育プログラムについての理解を促し、入学までの保護者への協力を求める内容で実施した(①～④)。

- ① DVD上映/教育理念・方針の説明
- ② 入学前教育プログラムの概要説明
- ③ 大学事務局からの説明(入学後の学生生活を円滑にスタートさせるための保護者へのお願い)
- ④ 在学生からスピーチ

アンケート集計(出席者928組中回答者877組)によると、「保護者説明会はいかがでしたか?」という質問に対し、98.7%が「とても参考になった」「やや参考になった」と回答し、高い評価を得ることができた。

3-2 通信教育

eラーニングにより実施した。詳細は、委託業者(株式会社ワオ・コーポレーション)による「2019年度大学生対象 明星大学 入学前教育 結果報告書」を参照のこと。

(1) 実施科目(表5)

必修科目:英語、国語、小論文、数学(数的処理・数学)
選択科目:物理、化学、力学

表5 学部・学科別実施科目

学部・学科	英語	国語	小論文	数学	物理	力学	化学
理工	総合理工	○	○	○	数学 ※2	※2	※2
人文	国際コミュニケーション	○	○	○	数的処理		
	日本文化	○	○	○	数的処理		
	人間社会	○	○	○	数的処理		
	福祉実践	○	○	○	数的処理		
経済	経済	○	○	○	数的処理		
情報	情報	○	○	○	数学		
教育	教育	○	○	○	※1 ※2	※2	
経営	経営	○	○	○	数的処理		
デザイン	デザイン	○	○	○	数的処理		
心理	心理	○	○	○	数的処理		
建築	建築	○	○	○	数的処理		

※1 理系コース：数学、理系コース以外：数的処理

※2 コース・学系により実施

(2) 2018年度からの変更点(表6)

英語は、プレテストの結果から3段階に分けて、レベル別の課題を実施した。
英語、国語、数学については、単元の終了毎に実施するテストについて、正答率が4割以上でない次の単元に進めないこととした。

表6 通信教育の変更点

	2019年度	2018年度
実施科目	・変更なし	【必修】英語、国語・小論文、数的処理・数学 【選択】物理、化学、力学
提出方法	・変更なし	・eラーニングで実施 ・ポータルサイトとして明星LMSを活用
レベル別対応	英語はプレテストの結果から3段階に分けてレベル別の課題を実施した	英語はプレテストの結果から4段階に分けてレベル別の課題を実施した
進捗管理	英語、国語、数学については、単元の終了毎に実施するテストについて、正答率が4割以上でない次の単元に進めないこととした	単元の終了毎に実施するテストについて、正答率に関係なく学習を進めることができる
費用負担	あり(15,000円)	あり(10,000円)

(3) 課題達成率および実施結果

今年度の科目別の課題達成率をみると、英語95.3% (昨年度比プラスマイナス0)、国語95.9% (同プラス0.1ポイント)、数的処理96.1% (同プラス0.4ポイント) などとなっている(表7)。入学予定者それぞれのeラーニングによる学習状況をモニターし、学習が滞り気味の者については、電話、メール、郵便等での励ましによる脱落防止対策(委託業者が実施)を丁寧に講じたことが高い課題達成率の維持に寄与していると考えられる。

さらに、スタートアップ講習で実施したプレテストの得点と、通信教育終了後に実施した修了テストの得点を比較すると、科目によってばらつきはあるものの、全7科目(英語、国語、数的処理、数学、物理、力学、化学)で得点が上昇した。

表7 科目別課題達成率(%)

科目	2019年度 対象者1,153名(a)	2018年度 対象者1,149名(b)	(a)-(b)	(参考) 2017年度 対象者1,064名
英語	95.3	95.3	0	89.6
国語	95.9	95.8	-0.1	91.7
数的処理	96.1	95.7	-0.4	90.2
数学	91.4	93.9	2.5	77.3
物理	96.6	96.6	0	100.0
力学	100.0	94.7	5.3	73.3
化学	98.2	100.0	1.8	73.8

※小論文の提出率は 第1回97.3%、第2回96.4%であった。(2018年度は第1回96.6%、第2回96.8%)

3-3 フォローアップ講習

2019年2月28日時点において通信教育に対する取り組みが不十分だった入学予定者を対象に、3月19日(木)に実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大が懸念されたことから開催を中止した。

3-4 スクーリング

(1) やる気応援プロジェクト講座(2月)

各講座30名定員で募集をかけたが、各講座30名以上の申込があり関心の高さがうかがえた。特に、パソコン講座は昨年度同様に100名以上の申し込みがあり、急遽アシスタント講師を増やし対応した。参加者に授業後に書いてもらった振り返りシートの記述には、以下のものがあつた。

- ・今回のパソコン講座では、実際のレポートを模倣したものを少しずつですが作れたので、仕組みを理解できて良かった。自分のタイピング能力の低さに気づけたので、これから改善していきたいと思いました。
- ・コミュニケーション力向上講座に参加しました。今まで関わったことのない人たちと関わる機会を設けていただいたことで、自分の話す際の癖や他者との話すコツ等、見識を広げることができました。
- ・TOEICトライ講座に参加し、TOEICのしくみについて知れて良かったです。高校レベルの文法はある程度できていましたが、分詞等が苦手であると改めて認識しました。入学までの間に頑張ってみようと思います。

上記の記述を含め、振り返りシートには、講座に対して肯定的な感想が多く、満足度の高さがうかがえる。

なお、申込人数および参加人数は次の通り。

日にち	講座内容		申込人数	参加人数
2月12日(水)	TOEIC® トライ講座	1限 TOEIC®ってなに?	18	13
		2限 TOEIC®を始める前に!!英語の基礎力UP!文法編	22	18
		3限 TOEIC®を始める前に!!英語の基礎力UP!英文編	21	16
2月17日(月)	コミュニケーション力向上講座	1限 好印象な話し方	40	32
		2限 英語は怖くない!!意外と伝わる英会話	36	30
		3限 「正しく伝える」話し言葉と書き言葉	28	22
2月18日(火)	パソコン基礎講座	1限 PC操作の基本を学ぶ	75	69
		2限 レポート作成に活かせるWordの基礎・基本	84	77
		3限 初めてでも安心!Excelの基礎・基本	73	66
		4限 自分がつく!Excelの使い方	64	58
3月 9日(月)	表現力UP講座	1限 文章力UP	18	
3月10日(火)	柔軟な思考力講座	1限 問題を見つける力を身に付ける	55	
		2限 分析力を身に付ける	54	
		3限 論理的思考力を身に付ける	54	
3月11日(水)	TOEIC® トライ講座	1限 TOEIC®ってなに?	39	
		2限 TOEIC®を始める前に!!英語の基礎力UP!文法編	45	
		3限 TOEIC®を始める前に!!英語の基礎力UP!英文編	43	
3月16日(月)	パソコン基礎講座	1限 PC操作の基本を学ぶ	80	
		2限 レポート作成に活かせるWordの基礎・基本	87	
		3限 初めてでも安心!Excelの基礎・基本	83	
		4限 自分がつく!Excelの使い方	75	
3月17日(火)	表現力UP講座	1限 作文とレポート、論文、ここが違う!	94	
		2限 文章力UP	76	
		3限 SNSに潜む危険!!表現と情報リテラシー	43	
3月18日(水)	大学スタート講座	1限 ルールやマナー	77	
		2限 時間の上手な使い方	89	
		3限 ノートやメモの取り方	86	
3月23日(月)	コミュニケーション力向上講座	1限 好印象な話し方	22	
		2限 英語は怖くない!!意外と伝わる英会話	23	
		3限 「正しく伝える」話し言葉と書き言葉	22	
合 計			1,626	401

コロナウィルス感染症拡大の影響を考慮し、中止

(2) English Program (2月)

英語のプレテストの成績上位者に対し実施した。プレテストの結果をもとに、受講生の点数に応じて「Advance コース」および「Basic コース」に分けて、3日間連続の講座の案内をした。Advance コースは参加者の意識も非常に高く、最後のプレゼンテーションもやりきったが、Basic コースでは英語に苦手意識を感じている生徒が日を追うごとに参加しなくなったのではないかと推測する。次年度はBasic コースの生徒を途中で離脱させないプログラムを検討したい。なお、対象人数および参加人数は次の通り。

Advanceコース

日にち	講座内容					対象人数	参加人数
	9:00~10:20	10:30~11:20	11:30~12:20	13:00~13:50	14:00~14:50		
Day1 2月20日(木)	お互いの自己紹介 アイスブレイキングア クティビティ	講師出身国の紹介1 ～日本と文化の違い～	留学生によるキャリア プランプレゼンテー ション	スモールグループディ スカッション1 高校時代に達成した3 つの事について話す	留学生に大学を案内	28	27
Day2 2月21日(金)	スモールグループディ スカッション2	スモールグループディ スカッション2	キャリア探索プロジェクト 留学生のキャリアについて、より詳しく聞 き、自分自身のキャリア探索のヒントとする	英語プレゼンテーショ ンの基本と実践		28	24
Day3 2月22日(土)	プロジェクト ～地域社会や、国際社会にいかに関与するか 例)東京オリンピックにおけるボランティア 計画	プレゼンテーション準 備	1人1人によるプレゼンテーショ ン トピック：将来のキャリアと、その達成に向 けて大学生活をどう有意義に過ごすか ラップアップ			28	17

Basicコース

日にち	講座内容					対象人数	参加人数
	9:00~10:20	10:30~11:20	11:30~12:20	13:00~13:50	14:00~14:50		
Day1 2月20日(木)	お互いの自己紹介 アイスブレイキングア クティビティ	講師出身国の紹介1 ～日本と講師出身国の 文化の違いを知る	自分自身について英語 で語る1 家族/趣味/好きなこ と/強いこと等	ストーリーテリング1 絵を見てストーリーを 考えて発表	ロールプレイ1 海外疑似体験 レストランにて	41	36
Day2 2月21日(金)	講師出身国の紹介2 ～日本と講師出身国の 文化の違いを知る	自分自身について英語 で語る2 ライフマップ	自分自身について英語 で語る3 春休みの予定/大学で チャレンジしたいこと 等	ノンバーバルコミュニ ケーション 英語プレゼンテーショ ンの基本と実践	プレゼンテーション準 備 トピック：大学生活へ の期待	41	30
Day3 2月22日(土)	ストーリーテリング2 絵を見てストーリーを 考えて発表	ストーリーテリング2 海外疑似体験 絵を見て発表	ロールプレイ2 海外疑似体験 観光地を訪問	プレゼンテーション準 備	1人1人によるプレゼ ンテーション ラップアップ	41	14

(3) 学習ステーションの利用

2月は「やる気応援プロジェクト講座」への出席が多かったためか、学習ステーションの利用はなかった。3月はコロナウィルス感染症の影響で開室時間を縮小して開室したが、来校自体を控える傾向にあったため利用はなかった。

3-5 特別講座 (テーマ:「大学での学びを体験する」)

AO・推薦入試合格者、一般入試(前期・中期)合格者を対象とする特別講座を3月19日(木)に実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大が懸念されたことから開催を中止した。

4. 課題

次にあげる2つの課題を中心に取り組みたい。

- ① プログラムの内容を精選する
大学の予算編成方針として2020年度全学入学前教育プログラムは、全額受益者負担での対応となった(2020年度予算額0円)。従って2020年度は2019年度のプログラムの内容をより精選して実施することが必要となる。
- ② プログラム全体を「オンライン化」という観点で再構築する
コロナウィルス禍の社会状況においても柔軟に対応できるようにするため、2020年度については「オンラインを軸とした全学入学前教育プログラム」の再構築を検討する。

以上

2020年度 全学初年次教育「自立と体験1」実施報告書

Summary (概要)

・2020年度は、新型コロナ感染防止のため、非対面での授業実施となり、授業内容の変更、オンライン上でのアクティブラーニング実践のための様々な工夫、担当教員への追加サポートを行った。(LMSのみで学習目標が達成できるようにし、さらに学習を深める「+α」としてZoom利用授業取り入れた(本文 p.2 参照)

・LMS課題提出を出席としたことにより出席率は91.6%と高かったが、単位修得率は93.2%(昨年95.2%)と5回以上の欠席者は160名であった。担当教員は48名で、事前研修はオンデマンド配信で実施した。SA・SA コーチは配置しなかった(本文 p.3-5 参照)

・明星 LMS 上で初回授業時と最終回授業時にアンケートを実施した。教育目標達成度について、「卒業後にしたいこと」「学生時代にするべきこと」の設問に肯定的に答えた学生は、今年は初回から高く、最終回に向けてやや伸びた。初回から高かったのは、入学した学生の特質、コロナ禍で自己を見つめなおす機会の増加の2つの可能性が考えられる。(本文 p.5-7 参照)

・自己評価に関する質問から、学生たちは、動画教材で大学の歴史や教育の特徴を知ったが、図書館については知る機会がなかった。「意見を述べる」「他者の話を聴く」力は、授業前から身につけており、授業を通してさらに伸びた。「規律を守って学習活動ができませんか」の肯定的回答は、初回と最終回で例年ほど減少せず、学生たちは最後まで規律を守った受講態度で授業に取り組んでいた。(本文 p.7-9 参照)

・授業の特徴の「少人数クラス」「他学部・他学科の学生との交流」「グループでの学習活動」は、肯定的回答が昨年より減少したものの、85%以上の学生が役に立ったと答えた。

・「課題に取り組むことにより学びが深まりましたか」のみ昨年より肯定的回答が増えた。

・一番印象に残った授業の上位3つは、「自分の特徴を知る」「卒業生から学ぶ」「これからの大学生活を描く」であった。「自分を知る」や「卒業後や大学生活について考える」ことに関心が高い。(本文 p.9-11 参照)

・担当教員は、「学生たちが不安から前向きな態度に変わった」「大学生活の目標を見出した」「レポート課題の質・量の個人差が大きい」と感じている。非対面授業でも学生の行動目標/到達目標が「達成できた」と答えた教員は59%であった。(本文 p.16-17 参照)

・Zoom 利用授業を実施した教員は66.7%で、利用回数は1~5回であった。Zoom 利用が学生の学びのために「効果があった」と答えた教員は76.7%だった。「どちらとも言えない」が20%で、授業運営上の課題を挙げている人が多かった。Zoom 利用授業と LMS のみ授業との比較では、「少人数クラス」「他学部・他学科の学生との交流」「グループでの学習活動」に関して、Zoom 利用と LMS のみとの差が大きかった。(本文 p.11-13 参照)

・次年度の授業実施については、次のように考えられる。①可能であれば対面授業を実施。②対面が難しい場合は Zoom を初回から積極的に導入。③今年度の実施内容から、次年度に継続できるものを検討する。④LMS 課題への対応が難しい学生に対するサポートを検討する。

・次年度の授業内容・方法を検討するにあたっては、LMS 課題と対面または Zoom 授業の接続を、十分に検討していきたい(本文 p.13-14 参照)

1. 授業概要

1.1 教育目標

明星大学に学ぶ学生としての自己理解を助け、各自の理想や目的を明確にしていくこと

1.2 行動目標・到達目標

他者との関わりを通して自己理解を深め、明星大学で学ぶ自分自身を理解すること

1.3 授業内容(2019年度からの変更点)

2020年度の授業内容は表1のとおりである。新型コロナ感染防止のため、非対面での授業実施となり、大きく変更が必要となった(詳細は添付資料1を参照)。

表1 2020年度「自立と体験1」授業内容一覧

回	授業日	授業名	回	授業日	授業名
1	4月24日25日	オリエンテーション①	7	6月5日6日	自分や相手の大切さを知る
2	5月1日2日	オリエンテーション②	8	6月12日13日	ルールやマナーを考える②
3	5月8日9日	新しい環境で他者と出会う 大学での学びを考える	9	6月19日20日	明星大学を紹介する
			10	6月26日27日	卒業生から学ぶ
4	5月15日16日	明星大学を知る	11	7月3日4日	自分の特徴を知る
5	5月22日23日	聴いて相手を理解する	12	7月10日11日	これからの大学生活を描く
6	5月29日30日	ルールとマナーを考える①	13	7月17日18日	未来の自分へのメッセージ

※実施しなかった授業は「話し合いを体験する」「図書館にふれる」「大学職員に取材する」である。

※実施した授業も、内容を変更して実施した。

授業実施にあたっての主な変更点は、以下のとおりである。

(1) 非対面授業への対応(授業内容の変更)

・第7回(6月5日6日)までは、当初の授業順序を変更し、LMSでの実施が可能な授業回を中心に実施した。第8回以降は、LMS課題のみで学習目標が達成できるように、授業を組み合わせる。またより学習を深めたい学生向けの「+α」として、ZoomとLMSを併用した授業案を作成し、希望する担当教員に提供した。

(2) オンライン上でのアクティブラーニング実践のための工夫

・レポート課題の設問を工夫し、振り返り、概念化を促す。
・担当教員に毎回のコメント(クラス全体または学生個別)を依頼する。
・レポートの相互閲覧をシステム化して、他者との関わりをつくる。
・掲示板・プロジェクト機能を活用し、他者との関わりをつくる。
・自校教育に関する映像教材を作成する。
・希望クラスにおいて、Zoom授業を併用して、学生同士の交流の場をつくる。

(3) 担当教員への追加サポート

・全クラスに共通のLMS教材(コースニュース・レポート課題)を一括して提供した。
・従来よりMEC教員が「グループリーダー」として10クラス程度を担当し、教員サポート体制を取っているが、今年度は担当クラス全ての課題設定等をグループリーダーが行った。
・Zoom授業を実施する教員向けに、参考教材(PPT)を提供。ブレイクアウト機能については練習会を実施した。練習会は全4回実施し、担当教員12名が参加した。

2. 実施結果

2.1 開講曜日・時限・設置クラス数等

1年生前期必修科目として70クラスを開講した。開講曜日・時限・設置クラス数は、金曜日1時限26クラス、金曜日2時限26クラス、土曜日1時限9クラス、土曜日2時限9クラスであった。授業は、各学部専任教員37名、明星教育センター教員8名、非常勤講師2名、明星中高教諭1名が担当した。1クラスあたりの履修学生数は30-31名であった。

2.2 履修者数

履修者数は2,105名(4月1日時点)であった。

2.3 出席率

2020年度はLMS課題の提出をもって、授業の出席とした。平均出席率は、表2の通り91.6%(2019年度87.1%)となった。図1のとおり、出席率は2019年度と比較してほぼすべての授業で高くなっている。ただしLMS課題の場合、後日提出されたレポート課題により出席となっているケースもある為、対面授業での出席とLMS課題提出での出席を、同様に比較することはできないと考えられる。

表2 「自立と体験1」各年度の出席率

2020年度	2019年度	2018年度	2017年度	2016年度	2015年度	2014年度	2013年度	2012年度	2011年度	2010年度
91.6%	87.1%	86.5%	86.5%	86.7%	85.5%	85.2%	84.5%	85.1%	84.9%	82.7%



図1 「自立と体験1」出席率の推移

2.4 単位修得率

2020年度の単位修得率は93.2%となった。2010年度以降の単位修得率の推移は、表3の通りである。2010年度の開講以来、2番目に低い単位修得率となった(補習も含む)。データを見ると、出席率は昨年より4.5%高かったが、5回以上欠席者は、昨年度の1.5倍となった(2020年度:160名、2019年度:104名)。このことが単位修得率の低下に繋がっていると考えられる。

表3 「自立と体験1」単位修得率

年度	2020	2019	2018	2017	2016	2015	2014	2013	2012	2011	2010
単位修得率(正規授業)	93.2%	95.2%	95.1%	94.0%	93.9%	92.1%	91.3%	91.5%	91.0%	88.5%	89.9%
単位修得率(補習を含む)	補習実施を中止				95.1%	93.4%	93.6%	93.8%	94.0%	91.4%	93.9%

2.5 担当教員向け研修

担当教員向け研修は、集合研修が実施できなかったため、動画を作成し3月9日~4月3日に視聴を依頼した。内容は、以下のとおりである。

表4 事前研修(事前説明会及び授業手法説明会)動画内容

【動画A】事前説明会:2020年度「自立と体験1」担当教員向け

	内容	時間
1	明星教育センター長挨拶	約50分
2	「自立と体験1」の特徴と意義	
3	SA/TAについて	
4	担当教員の役割/担当教員サポート体制	
5	気になる学生への対応	
6	明星教育センター事務室のサポート体制	
7	教案の見方・授業の概要	

【動画B】授業手法説明会:初めて「自立と体験1」をご担当いただく教員向け

内容	視聴の目的	時間
「自立と体験1」のグループ学習について	「自立と体験1」のグループ学習の基本的考え方と教員の関わり方を理解する	約30分
各回授業の導入と授業内で用いる授業手法(第1回~第4回)	各回授業の始め方と、授業内で用いる主な授業手法を理解する	

2.6 SA/TA・SA コーチの運用に関して

(1)SA/TA

2020年度のSA/TAとして76名の学生が内定していたが、授業を非対面で実施したため、配属無しとなった。それに伴い、事前研修も実施しなかった。それ以外の運用詳細は、表5のとおり。

(2)SA コーチ

2020年度のSA コーチとして、10名の学生が内定していたが、授業を非対面で実施したため、配属無しとなった。

表5 SA/TA 運用の詳細

日程	内容	詳細・2019年度からの変更点
2019年 7月24日-29日 9月10日-15日	SA 説明会 (第14回授業でチラシ配布)	9月の説明会を再開。 参加者169名
7月20日-9月22日	SA 申込書提出 (明星 LMS 経由)	①SA/TA を希望した理由 ②どんな SA/TA になりたいか 申込者130名
10月21日-30日 11月7日、8日	意思確認面接	勤務歴があり A 評価の学生は免除 申込書提出者全員と個別面接。
12月2日-12月13日	コミュニケーションスキルの 研修会 (希望者参加)	①ストロークスキル編2回 (参加者数54名) ②スピーチスキル編2回 (49名) ③ファシリテーションスキル編2回 (32名)
2020年1月7日-16日	雇用手続き	研修と切り離して実施。 雇用手続き者107名 (勤労奨学生除く)
3月30日-4月1日	勤務可能日提出 (雇用手続き者+勤労奨学生)	LMS 経由
4月3日	SA・SA コーチ内定者発表 ※延期	SA76名、SA コーチ10名 ※今後の見通しが立たず、発表延期
6月9日	SA 配属無しを連絡	

3. 授業評価

授業改善を目的として、初回授業時と最終回授業時に履修学生に対して「自立と体験1」オリジナルの学生アンケートを実施している。各設問の回答結果は、図2—図14である。今回は、主に対面授業(昨年度)とオンライン授業(今年度)との比較という観点から、2年間の比較をもとに、教育目標の達成、学生の自己評価、学生の反応について考察する(初年度である2010年度から11年間の経過については、添付資料2を参照)。

なお、今年度のアンケートは明星 LMS で実施したため個人が特定される形式で実施された。「このアンケートは、授業の改善を目的として実施するものであり、成績評価に影響することはありません」との説明を加えている。昨年度までのアンケートは手書き式で実施され、学部学科と担当教員名のみを記述する形式で実施した。またコロナ禍により授業日程が変更になったため、初回アンケートは4月24日に実施(当初予定は4月10日)、最終回アンケート(第13回授業時)は、7月17日に実施した。

3.1 教育目標の達成度について

教育目標(明星大学に学ぶ学生としての自己理解を助け、各自の理想や目的を明確にしていくこと)の達成度については、2つの設問で尋ねている。

「卒業後にしたいこと(進路)を考えていますか?」に「とてもそう思う」、「そう思う」と肯定的に回答した学生は、初回が74.6%(昨年度67.9%)、最終回が78.7%(昨年度74.6%)であり、4.1%増加した。初回、最終回ともに昨年度に比べて肯定的回答の割合が高いのは、もともとの学生のタイプである可能性と、コロナ禍の影響で進路について考える機会が多かったという可能性の二つが考えられる。最終回の自由記述欄では、「私は卒業後の進路が曖昧だったが、自立と体験の授業を受けて、将来について考えることができた」「実際に卒業生がどんな職業についているのかを知れて、自分の将来について考えるきっかけになった」「卒業生の声というのは今未来が不透明な私たちにとって、こころに刺さるものがありました」など、先を見通せない社会状況の中で、将来の進路について考えるきっかけを得た学生がいたことが見て取れる。

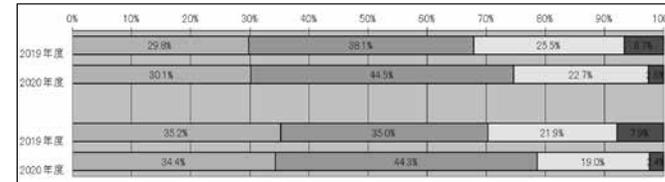


図2 卒業後にしたいこと(進路)を考えていますか?

■とてもそう思う ■そう思う ■あまりそう思わない ■全くそう思わない

※汎用はすべてのグラフで共有となっている。

※初回・最終回で実施した設問は、上段が初回、下段が最終回(13回)となっている。

次に「学生時代にすべきことを考えていますか?」への肯定的回答は初回92.4%(昨年度81.8%)、最終回94.8%(昨年度85.9%)であり2.4%増加した。「とてもそう思う」の回答が初回28.2%から、最終回35.4%へと7.2%増加していることから、この授業を受講したことで、初回において肯定的に回答している学生の中にも変化が見られたことが分かる。また、昨年度に比べて肯定的回答の割合が高いのは、もともとの学生のタイプである可能性と、コロナ禍の影響で授業開始が例年より2週間遅れるような非常事態の中で、大学で学ぶことの意味や目的を問われる状況だったという可能性の二つが考えられる。最終回の自由記述欄では、「大学生生活を、このような状況下でもきちんと考えるべきだと認識させられた」「これからの4年間を想像していなかったから自分の送りたい大学生生活を考えられて良かった」「これからの大学生活でやりたい事や目標を考えて書き出す事で、今やるべき事がはっきりと理解出来た」などがあり、この授業で4年間を考えるきっかけを得ていることが分かった。

全体としては、多くの学生が「卒業後にしたいこと」や「大学時代にすべきこと」について授業内で考えたといえる。学生にとって不安が募る社会状況の中で、自分自身のやりたいことややるべきことについて内省し、目的意識をもつ機会を提供したという点で、教育目標を達成できたと考えられる。

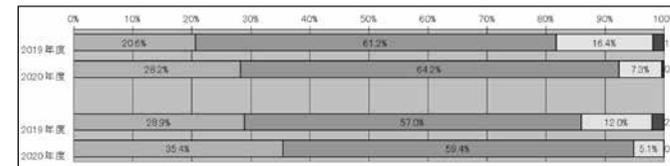


図3 学生時代にすべきことを考えていますか?

3.2 学生の自己評価について

6つの設問で学生に自己評価を尋ねている。

「**明星大学の歴史や教育の特徴を知っていますか？**」への肯定的回答は、初回40.2%（昨年度23.1%）から最終回70.9%（昨年度49.6%）と30.7%増加した。昨年度と比べて肯定的回答の割合が初回の時点で高い理由は不明である。昨年度と比べて肯定的回答がより増加しているのは、オンライン授業となつて自宅で学習する状況の中で、「大学のことを知りたい」という意識が高まっていたと考えられる。最終回の自由記述欄では、「まだ大学に行っていないため学校について知らないことが多かったが、紹介動画によって知ることができ、それが印象に残った」「学長からのメッセージを聞きとてもやる気が出た」など、「明星大学を知る」の授業で、動画「明星大学を知る」や学長メッセージ動画「新入生への期待」を視聴したことが、明星大学について知ることや学習の動機づけにつながったことが見て取れる。

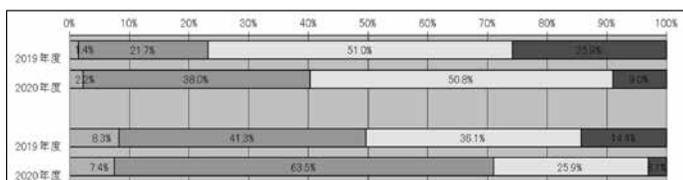


図4 明星大学の歴史や教育の特色を知っていますか？

「**大学の図書館の利用方法を知っていますか？**」への肯定的回答は、初回19.3%（昨年度49.6%）から最終回26.7%（昨年度88.9%）と7.4%の増加に留まっている。昨年度と比べ、初回と最終回の肯定的回答の割合が低いのは、大学に全く来られていなかったことが理由と考えられる。それでも最終回で割合が増加したのは、7月8日以降1年生も図書館への入館、閲覧席の利用等が可能になったことが理由の一つとして考えられる。

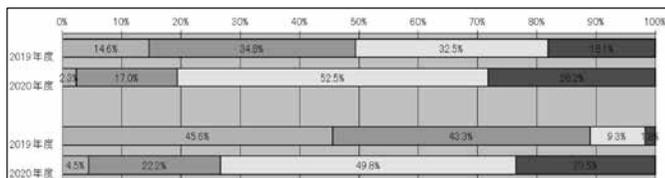


図5 大学の図書館の利用方法を知っていますか？

「**自分の意見を筋道立てて話すことができますか？**」への肯定的回答は、初回52.7%（昨年度43.2%）から最終回65.0%（昨年度68.4%）と12.3%増加した。昨年度と比べると、初回の時点では、半数以上の学生が「筋道立てて話せる」と思っていたが、最終回では肯定的回答の割合が昨年度より少なくなっているのは、対面授業がなくなり、自分の意見を他のクラスメンバーに話す機会が圧倒的に少なかったことが理由としてあげられる。

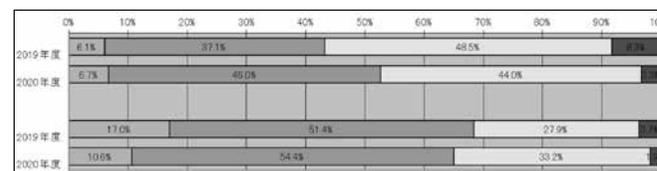


図6 自分の意見を筋道立てて話すことができますか？

「**敬意・関心を持って他者の話を聴くことができますか？**」への肯定的回答は、初回97.2%（昨年度92.8%）、最終回も97.2%（昨年度92.1%）と同程度の高い数値を示している。昨年度と比べても、肯定的な回答の割合は変わらず高い。先の図6や次の図8の結果と合わせて考えると、「話す、聴く、書く」といったコミュニケーションスキルにある程度自信のある学生が入学してきているといえる。ただし、対面授業とオンライン授業では学生は異なる体験をしており、「聴くことができる」という設問からどのようなイメージしているかが異なる可能性があり、同じものとしての比較は難しい。

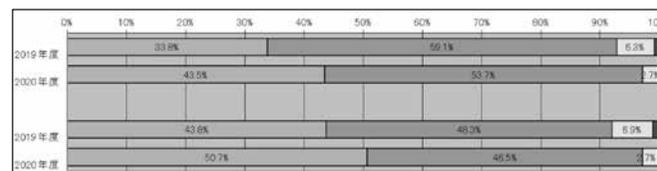


図7 敬意・関心を持って他者の話を聴くことができますか？

「**自分の意見を文章でわかりやすく表現できますか？**」への肯定的回答は、初回44.3%（昨年度34.8%）から最終回60.2%（昨年度60.4%）と16.1%増加となった。昨年度と比べると、LMSの課題で毎授業レポートを書いていたにもかかわらず、あまり増加することなく最終回で割合が逆転した。この理由としては、LMSの課題の多くが50字から100字程度のもので、400字以上のまとまった分量のレポートを書く機会がなかったことがあげられる。学生は、ある程度まとまった分量でないと、文章と思わないのかもしれない。

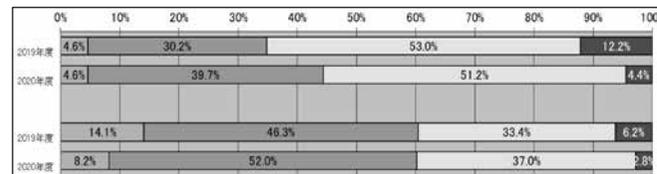


図8 自分の意見を文章でわかりやすく表現できますか？

「規律を守って学習活動ができますか？（無断欠席や遅刻しない、など）」への肯定的回答は、初回 96.0%（昨年度 92.6%）から最終回 90.6%（昨年度 71.4%）と昨年度に比べ 5.4%の低下に留まった。昨年度を含め、例年、この項目は大きく低下するの、あまり低下しなかったことから、学生は緊張感のなかで自宅学習をし、前期を終えたと考えられる。

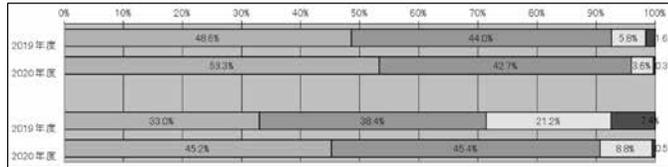


図9 規律を守って学習活動ができますか（無断欠席や遅刻しない、など）

3.3 学生の反応

(1) 授業の特徴に関する質問

「自立と体験1」の授業の特徴については最終回（第13回）の授業のみで5つの設問で尋ねている。

「【少数クラス】は役に立ちましたか？」への肯定的回答は、89.4%（昨年度 92.9%）、「【他学部・他学科の学生との交流】は役に立ちましたか？」への肯定的回答は、88.0%（昨年度 94.6%）、「【グループでの学習活動】は役に立ちましたか？」への肯定的回答は、85.9%（昨年度 95.2%）であった。それぞれ、対面授業の昨年度と比べると低い割合だが、LMS 上での学習が主だったことを考えると意外に低下していない。LMS 上でのクラスメンバーとの相互コミュニケーション、例えば、レポートの相互閲覧を促したことなどがプラスに影響した可能性がある。自由記述欄には、「他では体験できない、他学部の生徒との交流で様々な意見を知ることができて自分の考え方が広がったと感じる」「他学部と交流したことで自分にはない価値観や考え方に触れることができたのでとてもよかった」「他学部との交流ができて、他者と関わることの大切さを学ぶことができた」などの記述が見られた。

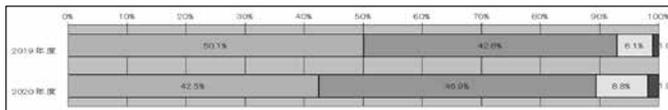


図10 「少数クラス」は役に立ちましたか？

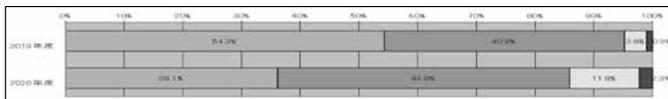


図11 「他学部・他学科の学生との交流」は役に立ちましたか？

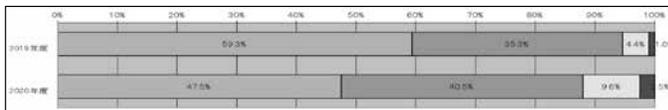


図12 「グループでの学習活動」は役に立ちましたか？

「【ポートフォリオ】は役に立ちましたか？」への肯定的回答は、85.5%（昨年度 84.8%）で、対面授業と非対面授業との違いは少なかった。

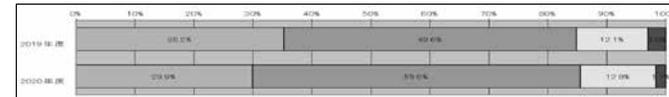


図13 「ポートフォリオ」は役に立ちましたか？

「【課題に取り組むことにより学びが深まりましたか？】への肯定的回答は、90.7%（昨年度 84.3%）で、昨年度より高い割合だった。毎授業で LMS でのレポート課題の提出があったことから、この分野で「学びの深まり」を学生は実感したと考えられる。

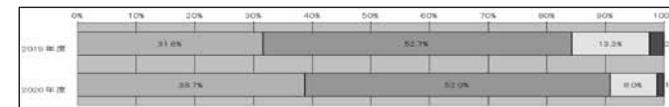


図14 提出課題に取り組むことにより学びが深まりましたか？

(2) 「一番印象に残った授業」

全13回の授業を通して「一番印象に残った授業を一つ選んでください」と尋ねた。学生が「一番印象に残った」と回答した第1位は「自分の特徴を知る（第11回）」で391名（26.0%）、第2位は「卒業生から学ぶ（第10回）」で390名（25.9%）、第3位は「これからの大学生活を描く（第12回）」の225名（15.0%）であった。昨年度は「【ためになった】と思う回の授業を選んでください」という設問だったため単純に比較はできないが、第1位は今年度と同様「自分の特徴を知る」であり、自己理解への関心は、社会状況の変化があっても変わらずに高い。また、第2位が「卒業生から学ぶ」、第3位が「これからの大学生活を描く」だったことについては、先に図2から考察したように、先を見通せない社会状況の中で、将来の進路への意識が高まり、「今何ができるか」から、今後の大学生活をイメージすることに意味や意義を感じた学生がいた可能性が考えられる。



3.4 担当教員による授業評価

今年度は、受講している学生以外では、担当教員への終了時アンケートを行った。以下にアンケート結果を抜粋し、授業評価について考察する。なお、今年度は LMS でアンケートを実施した。昨年度までは設問が異なるため、今年度の内容のみ取り上げる。

担当教員アンケートの回答率は 87.5% (48 名中 42 名) と高かった。

「授業を通して、**学生の様子に変化があったか**」については、「大いに変化があった」6 名、「少し変化があった」29 名と、変化を感じた担当教員は 83.3% となった。主な変化としては、Zoom 授業を開始した後の変化が多く記載されていた。また「不安から前向きな態度に変わった」「他の学生のレポートに刺激を受けた」「次第に大学生活の目標を見出していた」等の意見があった。

学生のレポート課題については、文章量が「ふつう」と答えたのが 80.9%、「多かった」14.3%、「少なかった」4.8%だった。回答の質は「高かった」が 31%、「ふつう」が 69%となり、「質が低かった」と答えた教員はいなかった。全体として、「ふつう」か回答内容(文章量・質)が「良かった」との判断であった。自由記述では個人差の大きさを指摘している回答が多く、非対面授業となつて、より学生個々の取り組み方に差が出ている印象がある。

今年度は非対面での授業実施となつたが、**学生の行動目標/到達目標の達成状況**については、「十分に達成できた」7%、「だいたい達成できた」52%、「どちらとも言えない」24%、「あまり達成できなかった」17%で、「全く達成できなかった」との回答は無かった。達成できたことは「自己理解」「自分と向き合い大学生活について考える」等があり、達成できなかったことは「他者との関わり」「大学に対する理解」等が挙げられていた。

明星 LMS に設定した課題についても尋ねた。難易度、課題の量ともに、90%ほどの教員が「適当」と回答しており、おおむね評価を頂いたと考えられる。学生の学びに繋がったと思う授業内容は、「ルールとマナーを考える」「卒業生から学ぶ」「自分の特徴を知る (PROG)」「明星大学を知る (学長メッセージ)」が挙げられた。特にコロナ禍に関連して 2 回にわたって実施した「ルールとマナー」は評価が高かった。また相互閲覧や相互コメント、Zoom 利用授業という授業の進め方が学びに繋がったという意見もあった。対面授業に戻っても LMS を効果的に活用するとよいという意見もあった。一方、「結果的に少し優等生像を求めすぎているのではないか」「世話を焼きすぎではないか」などの意見もあった。

レポート課題、コースニュース等は、明星教育センターから統一の書式を提供した。役に立ったという意見が多かったが、「説明が詳しくすぎる」「グループリーダーの手間が大きいのではないか」という意見もあった。コースニュース、レポート課題では、41.5%の教員が何らかの工夫・改善をして配信した。具体的な工夫としては、コースニュースを教員自身の言葉で語りかける、レポートの総評や教員のメッセージを追加する、授業に関連する資料を提供する等があった。

Zoom を利用した授業を実施した教員は、66.7% (48 人中 32 人)、アンケート回答者では(42 名中 30 名)71.4%だった。利用した授業の回数は、1 回 3 名、2 回 4 名、3 回 5 名、4 回 7 名、5 回 11 名であった。実施内容では、「自己紹介」「Zoom の練習」「大学生活の目標」は、半数以上の教員が行っていた。

Zoom 利用が学生の学びのためになったかを聞いたところ、「大いに効果があった」50.0%、「少し効果があった」26.7%、「どちらとも言えない」20.0%、「あまり効果は無かった」3.3%で、「効果は無かった」と回答した教員はいなかった。今年は Zoom を必須とすることができず、Zoom 授業の参加者が少なくなったクラスがあった。そのため授業運営が難しく、「どちらとも言えない」「あまり効果が無かった」という回答になったようだが、自由記述では、参加した学生同士が交流できたこと、対面に近い状況をつくることについては、肯定的な記述がほとんどだった。

4. Zoom 利用授業と LMS のみ授業との比較

前述のとおり、今年度は LMS 課題のみで教育目標が達成できるように授業を組み立てた。学生アンケートには、「LMS 課題を通して他学部の学生の意見を知ることができた」「相互閲覧で他の人のレポートが読める」という記述があり、LMS 課題を用いてアクティブラーニングを実現しようという試みは、一定の成果を挙げることができたと言えるだろう。これは担当教員のご努力によることも大きい。

しかし、「自立と体験1」の行動目標「他者との関わりを通して自己理解を深める」には、対面授業の効果が大きいことは言うまでもない。学生アンケートの「もっとこうだったらよかったこと」には、「対面が良かった」という記述が非常に多かった。さらに、「Zoom があったら良かったのでは」、そして「Zoom をもっと早く始めたら良かったのでは」、「Zoom のブレイクアウトでもっと多くの人と知り合いたかった」という記述もあり、学生たちがより対面に近い活動を求めていることが分かる。

学生アンケートを、Zoom を 2 回以上実施したクラス (50 クラス 1071 人) と LMS のみで授業を実施したクラス (17 クラス 434 人) に分けて分析したデータが、図 16-18 と添付資料 3 である。

差があったのは、「自立と体験1」の授業の特徴について尋ねた 3 つの質問であった。Zoom 利用クラスは、3 項目とも肯定的回答が 90%を超えている。Zoom を利用したことにより、「自立と体験1」で学生に提供したい学習の場を、より実現できたと言えるだろう。一方 LMS のみのクラスも、少人数クラス、他学部・他学科との学生の交流については、80%以上の学生が「役に立った」と評価している。これらのアンケートで学生が評価したポイントを明確にできれば、対面と比較して「不足していた点」「対面と同様に役に立った点」、また LMS だからこそ「役に立った点」が見えてくる可能性がある。

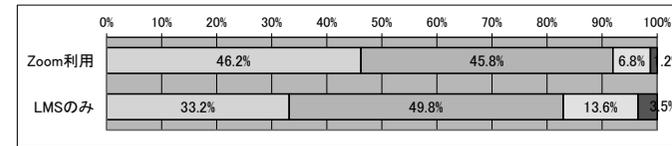


図 16 「少人数クラス」は役に立ちましたか？

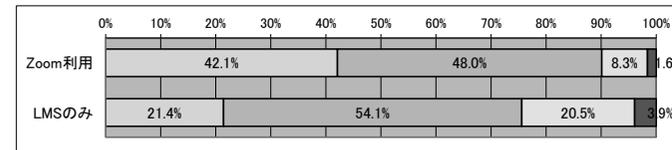


図 17 「他学部・他学科の学生との交流」は役に立ちましたか？

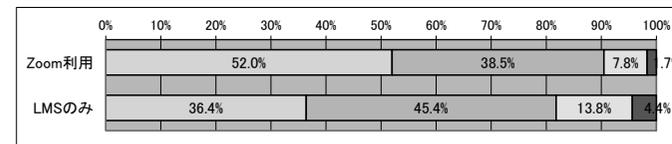


図 18 「グループでの学習活動」は役に立ちましたか？

5. 次年度に向けて

今年度の「自立と体験1」は、次のように総括できる。

- ①非対面での授業実施にあたり、授業内容・授業実施方法を変更した。それにより「自立と体験1」での学生の体験や学びは変化している可能性がある。それらを検証することが、次年度以降の授業内容・実施方法の検討には必要となる。
- ②上記の違いを勘案しても、LMS 課題での授業実施で、学習目標は一定程度達成できた。LMS のみでもレポートの量・質が低いと感じた教員は少なかった。
- ③課題レポートの質・量に関しては、学生間の差異が大きかった。また途中で脱落（5 回以上欠席）する学生も多かった。一部の学生（学習習慣が身につけていない学生）にとっては、LMS 課題での「自立と体験1」の受講は難しかった可能性がある。
- ④Zoom 授業は途中からの導入だったにも関わらず、「自立と体験1」の学習目標を達成するための効果が大きかった。しかし Zoom を利用した場合でも、昨年までの対面授業と比較すると学生の評価は低かった。

これらのことから、次年度の授業実施については、次のように考えられる。

- ①可能であれば、対面授業の実施が望ましい。
- ②対面授業が難しい場合は、Zoom を初回授業から積極的に取り入れて実施することが望ましい。
- ③LMS 課題の良さもあったと想定されるため、今年度のレポート課題内容や LMS の活用について、次年度に継続できるものを検討する必要がある。
- ④LMS 課題への対応が難しい学生に対してのサポートを検討する必要がある。

なお、今年度の Zoom 授業については、途中で Zoom の導入を決め、授業準備を行ったこともあり、LMS 課題との接続や Zoom 授業の進め方の工夫、学生への告知などについて改善の余地が残った。Zoom 利用については「上手く活用できれば効果的である」という意見が多かったことから、今年度の実践を次年度の準備に活かしたい。

また、対面授業でなければ実施できない授業内容は、先が見通せない状況にあっては見直しが必要と考えられる。次年度の授業内容・方法検討に際しては、LMS 課題と対面または Zoom 授業の接続を、十分に検討していきたい。

以上

- 添付資料 1.授業展開案（6月8日現在）
 2.授業アンケート（2010～2020年度比較）
 3.授業アンケート（Zoom利用・LMSのみ比較）
 4.データ集

報告書作成：明星教育センター
 （石野由香里・太田昌宏・菅原良・鈴木浩子・高橋南海子・平塚大輔・南愛）

添付資料1 2020「自立と体験1」授業展開案（6月8日現在）

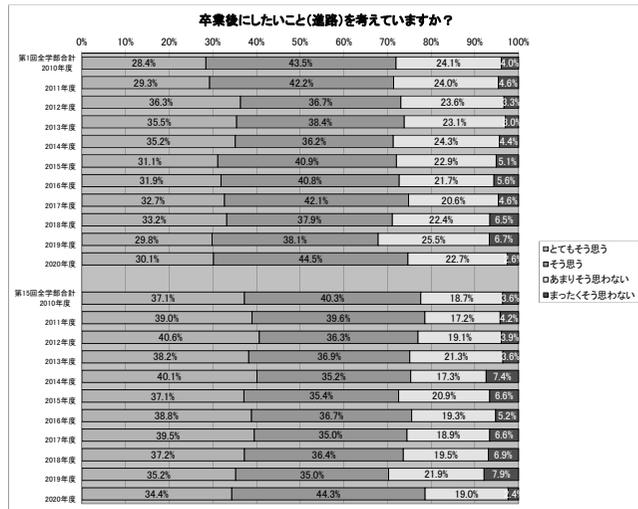
「2020年度「自立と体験1」Zoom利用について（基本の考え方）」と合わせてご覧ください。				
授業日	授業名	元の授業日	LMSでの授業内容	Zoomでの授業内容(例)
4/24_25	オリエンテーション①	1	・PROGのWeb受験 ・ポートフォリオ学習（自立と体験1について） ・授業アンケート回答	LMSのみ実施
5/1_2	オリエンテーション②	1	・ポートフォリオ学習 ・LMSに振り返り入力	
5/8_9	新しい環境で他者と出会う 大学での学びを考える	2 3	・ポートフォリオ学習 ・LMSに振り返り入力	
5/15_16	明星大学を知る	ローテ	・ポートフォリオ学習 ・動画①視聴(明星大学の歴史と現在) ・大学のホームページ検索 ・動画②視聴(学長メッセージ)	
5/22_23	聴いて相手を理解する	4	・ポートフォリオ学習ほか ・他者紹介以外の授業内容を学習する ・この回以降に他者とLMS上で交流する内容が入るため「相手を理解する」質問するを学習する	
5/29_30	ルールとマナーを考える①	6	・ポートフォリオ学習ほか(掲示板等の活用も検討) ・身近な場面/キャンパス内のマナーを考える ・ルールとマナーについて考えを深める ・社会的なルールとマナーについて考える	
6/5_6	自分や相手の大切さを知る	ローテ	・ポートフォリオ学習ほか ・自分や相手を大切に ・メッセージについて知る ・ケースで考える	
6/12_13	ルールとマナーを考える②	6	・レポート課題ほか ・現在の社会状況(新型コロナウイルス等)に関し「ルールとマナーを考える①」での学習内容を参考に考察するなど	【準備】 ・学生への告知、状況の把握 ・利用できない学生への対応
6/19_20	明星大学を紹介する	ローテ	・私の学科の特徴について情報交換 ・高校生に明星大学を紹介する記事を書く	【利用例①】 ・Zoom利用に関する練習&アイスブレイク (自己紹介発表リレー・大学でやりたいこと発表リレー)
6/26_27	卒業生から学ぶ	12	・他者のレポートを読んで感想を書く ・卒業生インタビューシート(ポートフォリオ学習)	【利用例①】 ・Zoom利用に関する練習&アイスブレイク (私の好きな〇〇発表リレー、一問一答インタビュー) 【利用例②】 ・私の学科の特徴について、グループW(一問一答インタビュー)
7/8_4	自分の特徴を知る	13	・他者のレポートを読んで感想を書く ・自分の特徴を知る (PROGをLMS上で通知) ・PROGによる自己分析(ポートフォリオ学習) ・相互フィードバック(LMS上)	【利用例③】 卒業生インタビューシート感想共有
7/10_11	これからの大学生活を描く	14	・他者のレポートを読んで感想を書く ・大学生活デザインシート記入(LMS上)	【利用例③】 PROG自己分析共有・相互フィードバック
7/17_18	未来の自分へのメッセージ	15	・他者のレポートを読んで感想を書く ・1回～12回の振り返り ・私の大学生生活重宝 ・まとめ「自立と体験1」アンケート記入	【利用例③】 「大学生活デザインシート」共有 私の大学宣言発表

【Zoomでの授業内容(例)について】
 ※「Zoomでの授業内容(例)」は、一例としての提示です。全てを実施しなくてはならないということではありません。
 ※30分以内のZoom利用を複数回実施することで学生がZoomでの交流に慣れるという効果があります。その際も、開始する授業回を遅らせる、1回おきに利用する等の方法が選択できます。
 ※例えば、【導入】⇒【利用例①】⇒【利用例②】の後、【利用例③】のみを繰り返すことも可能です。各担当教員が無理をせずに、できる範囲・内容・回数でZoom利用を取り入れてください。

以上

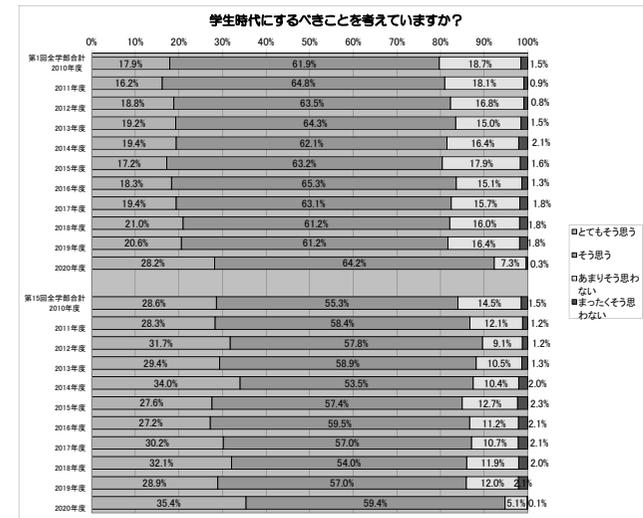
添付資料2「自立と体験1」授業アンケート（2010～2020年度比較）

卒業後にしたいこと(進路)を考えていますか？											
	とてもそう 思う	そう思う	あまりそう 思わない	まったくそ う思わない	合計		とてもそう 思う	そう思う	あまりそう 思わない	まったくそ う思わない	合計
第1回全学部合計 2010年度	543	833	461	76	1913	第1回全学部合計 2010年度	28.4%	43.5%	24.1%	4.0%	
2011年度	574	827	471	90	1962	2011年度	29.3%	42.2%	24.0%	4.6%	
2012年度	692	700	450	63	1905	2012年度	36.3%	36.7%	23.6%	3.3%	
2013年度	723	782	472	62	2039	2013年度	35.5%	38.4%	23.1%	3.0%	
2014年度	664	683	459	83	1889	2014年度	35.2%	36.2%	24.3%	4.4%	
2015年度	642	843	472	105	2062	2015年度	31.1%	40.9%	22.9%	5.1%	
2016年度	661	846	450	117	2074	2016年度	31.9%	40.8%	21.7%	5.6%	
2017年度	676	872	426	95	2069	2017年度	32.7%	42.1%	20.6%	4.6%	
2018年度	684	782	461	135	2062	2018年度	33.2%	37.9%	22.4%	6.5%	
2019年度	584	746	499	131	1960	2019年度	29.8%	38.1%	25.5%	6.7%	
2020年度	603	691	455	52	2001	2020年度	30.1%	44.5%	22.7%	2.8%	
第15回全学部合計 2010年度	637	691	321	62	1711	第15回全学部合計 2010年度	37.1%	40.3%	18.7%	3.6%	
2011年度	709	720	313	77	1819	2011年度	39.0%	39.6%	17.2%	4.2%	
2012年度	708	633	333	68	1742	2012年度	40.6%	36.3%	19.1%	3.9%	
2013年度	672	649	375	63	1759	2013年度	38.2%	36.9%	21.3%	3.6%	
2014年度	685	601	295	127	1708	2014年度	40.1%	35.2%	17.3%	7.4%	
2015年度	676	645	380	120	1821	2015年度	37.1%	35.4%	20.9%	6.6%	
2016年度	728	687	361	98	1874	2016年度	38.8%	36.7%	19.3%	5.2%	
2017年度	668	592	320	112	1692	2017年度	39.5%	35.0%	18.9%	6.6%	
2018年度	587	574	307	109	1577	2018年度	37.2%	36.4%	19.5%	6.9%	
2019年度	596	592	370	133	1691	2019年度	35.2%	35.0%	21.9%	7.9%	
2020年度	517	666	286	36	1505	2020年度	34.4%	44.3%	19.0%	2.4%	

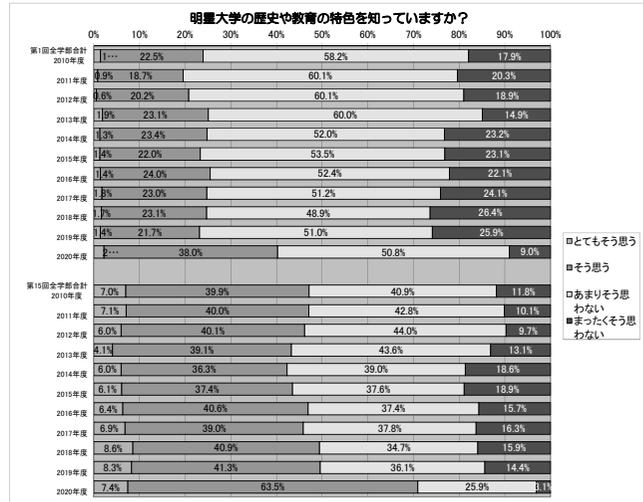


添付資料2「自立と体験1」授業アンケート（2010～2020年度比較）

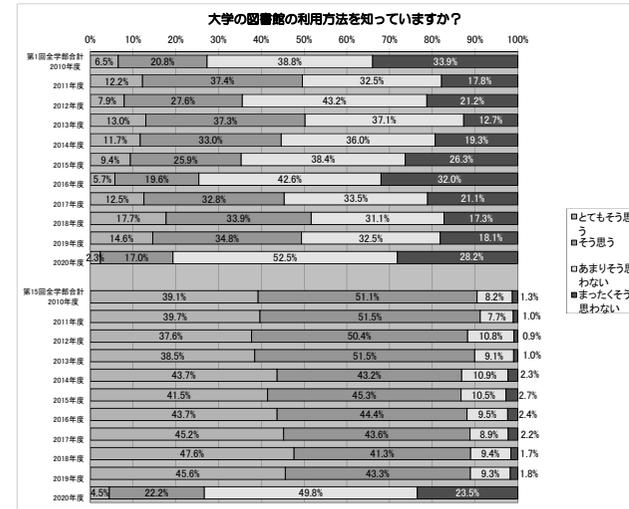
学生時代にすべきことを考えていますか？											
	とてもそう 思う	そう思う	あまりそう 思わない	まったくそ う思わない	合計		とてもそう 思う	そう思う	あまりそう 思わない	まったくそ う思わない	合計
第1回全学部合計 2010年度	342	1183	358	29	1912	第1回全学部合計 2010年度	17.9%	61.9%	18.7%	1.5%	
2011年度	316	1267	354	17	1954	2011年度	16.2%	64.8%	18.1%	0.9%	
2012年度	359	1210	321	16	1906	2012年度	18.8%	63.5%	16.8%	0.8%	
2013年度	392	1309	306	30	2037	2013年度	19.2%	64.3%	15.0%	1.5%	
2014年度	366	1172	310	39	1887	2014年度	19.4%	62.1%	16.4%	2.1%	
2015年度	355	1304	369	34	2062	2015年度	17.2%	63.2%	17.9%	1.6%	
2016年度	380	1357	313	27	2077	2016年度	18.3%	65.3%	15.1%	1.3%	
2017年度	401	1305	325	37	2068	2017年度	19.4%	63.1%	15.7%	1.8%	
2018年度	432	1262	330	38	2062	2018年度	21.0%	61.2%	16.0%	1.8%	
2019年度	403	1199	322	36	1960	2019年度	20.6%	61.2%	16.4%	1.8%	
2020年度	564	1284	146	7	2001	2020年度	28.2%	64.2%	7.3%	0.3%	
第15回全学部合計 2010年度	490	949	249	25	1713	第15回全学部合計 2010年度	28.6%	55.3%	14.5%	1.5%	
2011年度	515	1063	220	21	1819	2011年度	28.3%	58.4%	12.1%	1.2%	
2012年度	553	1007	159	21	1740	2012年度	31.7%	57.8%	9.1%	1.2%	
2013年度	516	1035	184	23	1758	2013年度	29.4%	58.9%	10.5%	1.3%	
2014年度	581	914	178	35	1708	2014年度	34.0%	53.5%	10.4%	2.0%	
2015年度	502	1046	231	42	1821	2015年度	27.6%	57.4%	12.7%	2.3%	
2016年度	510	1115	210	39	1874	2016年度	27.2%	59.5%	11.2%	2.1%	
2017年度	510	963	181	36	1690	2017年度	30.2%	57.0%	10.7%	2.1%	
2018年度	506	851	188	32	1577	2018年度	32.1%	54.0%	11.9%	2.0%	
2019年度	489	965	203	35	1692	2019年度	28.9%	57.0%	12.0%	2.1%	
2020年度	533	894	77	1	1505	2020年度	35.4%	59.4%	5.1%	0.1%	



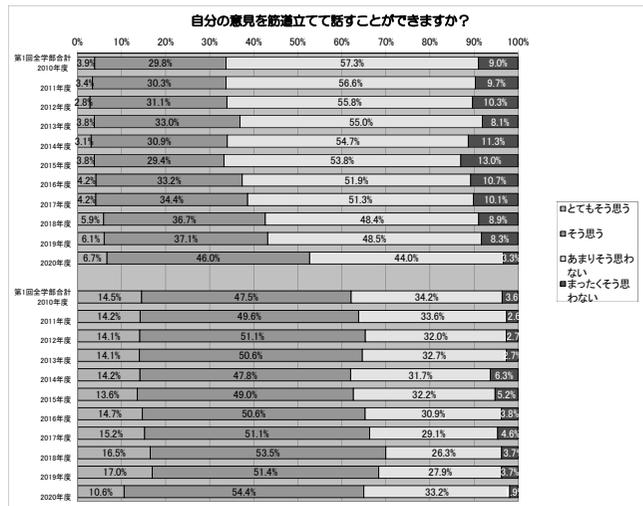
明星大学の歴史や教育の特色を知っていますか？										
	とても 思う	そう 思う	あまり そう 思わない	まったく 思わない	合計		とても 思う	そう 思う	あまり そう 思わない	まったく 思わない
第1回全学部合計 2010年度	28	428	1108	341	1905	第1回全学部合計 2010年度	1.5%	22.5%	58.2%	17.9%
2011年度	17	365	1172	397	1951	2011年度	0.9%	18.7%	60.1%	20.3%
2012年度	11	385	1146	361	1903	2012年度	0.6%	20.2%	60.1%	18.9%
2013年度	39	472	1224	304	2039	2013年度	1.9%	23.1%	60.0%	14.9%
2014年度	25	442	980	438	1885	2014年度	1.3%	23.4%	52.0%	23.2%
2015年度	26	452	1102	476	2056	2015年度	1.4%	22.0%	53.5%	23.1%
2016年度	30	499	1089	459	2077	2016年度	1.4%	24.0%	52.4%	22.1%
2017年度	37	475	1056	496	2068	2017年度	1.8%	23.0%	51.2%	24.1%
2018年度	34	475	1007	543	2059	2018年度	1.7%	23.1%	48.9%	26.4%
2019年度	28	425	998	506	1957	2019年度	1.4%	21.7%	51.0%	25.9%
2020年度	45	760	1016	180	2001	2020年度	2.2%	38.0%	50.8%	9.0%
第15回全学部合計 2010年度	120	685	701	202	1708	第15回全学部合計 2010年度	7.0%	39.9%	40.9%	11.8%
2011年度	129	726	777	183	1815	2011年度	7.1%	40.0%	42.8%	10.1%
2012年度	104	698	766	169	1737	2012年度	6.0%	40.1%	44.0%	9.7%
2013年度	72	687	766	230	1755	2013年度	4.1%	39.1%	43.6%	13.1%
2014年度	102	620	666	318	1706	2014年度	6.0%	36.3%	39.0%	18.6%
2015年度	111	681	684	344	1820	2015年度	6.1%	37.4%	37.6%	18.9%
2016年度	119	759	699	293	1870	2016年度	6.4%	40.6%	37.4%	15.7%
2017年度	116	659	639	275	1689	2017年度	6.9%	39.0%	37.8%	16.3%
2018年度	135	645	547	251	1578	2018年度	8.6%	40.9%	34.7%	15.9%
2019年度	140	699	610	243	1692	2019年度	8.3%	41.3%	36.1%	14.4%
2020年度	112	956	390	47	1505	2020年度	7.4%	63.5%	25.9%	3.1%



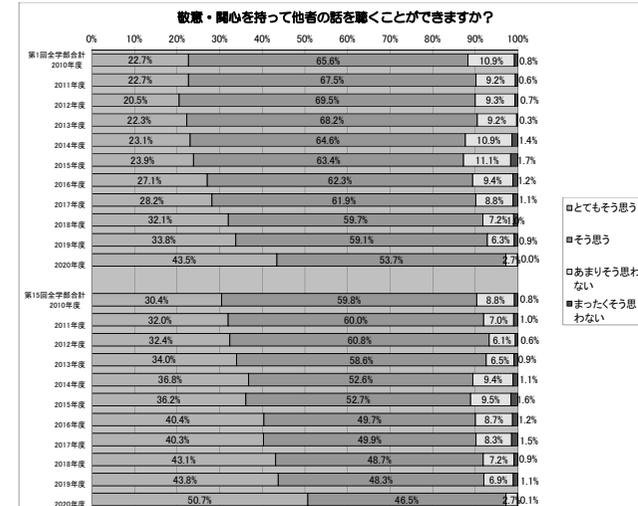
大学の図書館の利用方法を知っていますか？										
	とても 思う	そう 思う	あまり そう 思わない	まったく 思わない	合計		とても 思う	そう 思う	あまり そう 思わない	まったく 思わない
第1回全学部合計 2010年度	125	397	741	649	1912	第1回全学部合計 2010年度	6.5%	20.8%	38.8%	33.9%
2011年度	239	732	637	349	1957	2011年度	12.2%	37.4%	32.5%	17.8%
2012年度	151	526	823	405	1905	2012年度	7.9%	27.6%	43.2%	21.2%
2013年度	264	759	756	258	2037	2013年度	13.0%	37.3%	37.1%	12.7%
2014年度	220	623	680	365	1888	2014年度	11.7%	33.0%	36.0%	19.3%
2015年度	193	533	790	542	2058	2015年度	9.4%	25.9%	38.4%	26.3%
2016年度	119	407	884	663	2073	2016年度	5.7%	19.6%	42.6%	32.0%
2017年度	259	678	693	436	2066	2017年度	12.5%	32.8%	33.5%	21.1%
2018年度	365	699	640	356	2060	2018年度	17.7%	33.9%	31.1%	17.3%
2019年度	286	681	636	355	1958	2019年度	14.6%	34.8%	32.5%	18.1%
2020年度	47	340	1050	564	2001	2020年度	2.3%	17.0%	52.5%	28.2%
第15回全学部合計 2010年度	671	876	141	22	1710	第15回全学部合計 2010年度	39.1%	51.1%	8.2%	1.3%
2011年度	719	933	140	19	1811	2011年度	39.7%	51.5%	7.7%	1.0%
2012年度	655	878	188	16	1737	2012年度	37.6%	50.4%	10.8%	0.9%
2013年度	676	905	160	17	1758	2013年度	38.5%	51.5%	9.1%	1.0%
2014年度	744	735	185	39	1703	2014年度	43.7%	43.2%	10.9%	2.3%
2015年度	754	824	191	50	1819	2015年度	41.5%	45.3%	10.5%	2.7%
2016年度	817	831	178	44	1870	2016年度	43.7%	44.4%	9.5%	2.4%
2017年度	764	736	151	38	1689	2017年度	45.2%	43.6%	8.9%	2.2%
2018年度	750	650	148	26	1574	2018年度	47.6%	41.3%	9.4%	1.7%
2019年度	770	732	157	30	1689	2019年度	45.6%	43.3%	9.3%	1.8%
2020年度	67	334	750	354	1505	2020年度	4.5%	22.2%	49.8%	23.5%



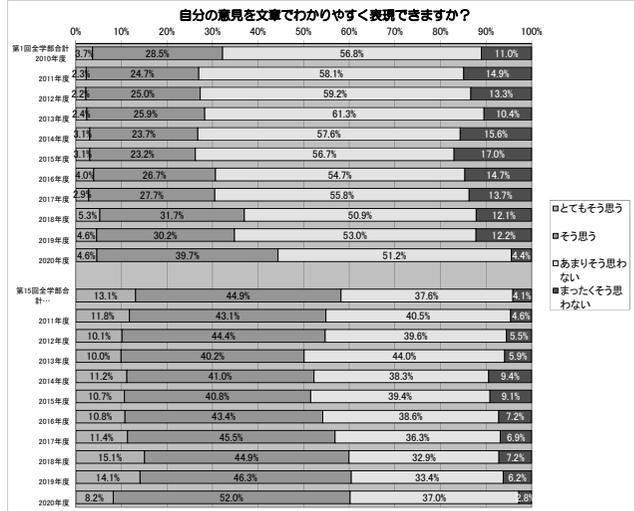
自分の意見を筋道立てて話すことができますか？												
	とても 思う	そう 思う	あまり そう 思わない	まったく 思わない	合計		とても 思う	そう 思う	あまり そう 思わない	まったく 思わない	合計	
第1回全学部合計 2010年度	75	569	1094	172	1910	第1回全学部合計 2010年度	3.9%	29.8%	57.3%	9.0%		
2011年度	66	594	1109	189	1958	2011年度	3.4%	30.3%	56.6%	9.7%		
2012年度	54	592	1063	197	1906	2012年度	2.8%	31.1%	55.8%	10.3%		
2013年度	78	673	1121	165	2037	2013年度	3.8%	33.0%	55.0%	8.1%		
2014年度	58	583	1031	213	1885	2014年度	3.1%	30.9%	54.7%	11.3%		
2015年度	79	606	1109	268	2062	2015年度	3.8%	29.4%	53.8%	13.0%		
2016年度	87	689	1077	223	2076	2016年度	4.2%	33.2%	51.9%	10.7%		
2017年度	86	711	1059	209	2065	2017年度	4.2%	34.4%	51.3%	10.1%		
2018年度	122	756	998	184	2060	2018年度	5.9%	36.7%	48.4%	8.9%		
2019年度	119	727	951	163	1960	2019年度	6.1%	37.1%	48.5%	8.3%		
2020年度	134	920	881	66	2001	2020年度	6.7%	46.0%	44.0%	3.3%		
第15回全学部合計 2010年度	249	814	586	61	1710	第15回全学部合計 2010年度	14.5%	47.5%	34.2%	3.6%		
2011年度	258	902	610	47	1817	2011年度	14.2%	49.6%	33.6%	2.6%		
2012年度	246	891	557	47	1741	2012年度	14.1%	51.1%	32.0%	2.7%		
2013年度	247	889	574	47	1757	2013年度	14.1%	50.6%	32.7%	2.7%		
2014年度	242	816	541	108	1707	2014年度	14.2%	47.8%	31.7%	6.3%		
2015年度	247	891	585	95	1818	2015年度	13.6%	49.0%	32.2%	5.2%		
2016年度	276	947	579	71	1873	2016年度	14.7%	50.8%	30.9%	3.8%		
2017年度	257	863	492	78	1690	2017年度	15.2%	51.1%	29.1%	4.6%		
2018年度	260	843	414	59	1576	2018年度	16.5%	53.5%	26.3%	3.7%		
2019年度	287	870	472	63	1692	2019年度	17.0%	51.4%	27.9%	3.7%		
2020年度	159	819	499	28	1505	2020年度	10.6%	54.4%	33.2%	1.9%		



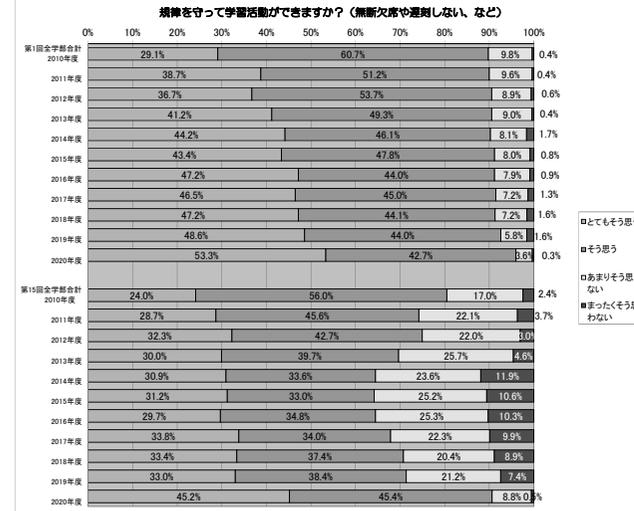
敬重・関心を持って他者の話を聞くことができますか？												
	とても 思う	そう 思う	あまり そう 思わない	まったく 思わない	合計		とても 思う	そう 思う	あまり そう 思わない	まったく 思わない	合計	
第1回全学部合計 2010年度	432	1251	208	15	1906	第1回全学部合計 2010年度	22.7%	65.6%	10.9%	0.8%		
2011年度	444	1318	180	11	1953	2011年度	22.7%	67.5%	9.2%	0.6%		
2012年度	391	1325	177	13	1906	2012年度	20.5%	69.5%	9.3%	0.7%		
2013年度	454	1389	168	6	2037	2013年度	22.3%	68.2%	9.2%	0.3%		
2014年度	436	1219	206	26	1887	2014年度	23.1%	64.6%	10.9%	1.4%		
2015年度	492	1307	228	35	2062	2015年度	23.9%	63.4%	11.1%	1.7%		
2016年度	563	1293	196	24	2076	2016年度	27.1%	62.3%	9.4%	1.2%		
2017年度	583	1280	181	23	2067	2017年度	28.2%	61.9%	8.8%	1.1%		
2018年度	660	1230	149	20	2059	2018年度	32.1%	59.7%	7.2%	1.0%		
2019年度	663	1158	123	17	1961	2019年度	33.8%	59.1%	6.3%	0.9%		
2020年度	870	1075	55	1	2001	2020年度	43.5%	53.7%	2.7%	0.0%		
第15回全学部合計 2010年度	522	1025	151	14	1712	第15回全学部合計 2010年度	30.4%	59.8%	8.8%	0.8%		
2011年度	580	1089	127	18	1814	2011年度	32.0%	60.0%	7.0%	1.0%		
2012年度	564	1059	107	10	1740	2012年度	32.4%	60.8%	6.1%	0.6%		
2013年度	596	1029	114	16	1755	2013年度	34.0%	58.6%	6.5%	0.9%		
2014年度	629	899	161	19	1708	2014年度	36.8%	52.6%	9.4%	1.1%		
2015年度	658	960	173	29	1820	2015年度	36.2%	52.7%	9.5%	1.6%		
2016年度	756	929	163	23	1871	2016年度	40.4%	49.7%	8.7%	1.2%		
2017年度	681	843	141	25	1690	2017年度	40.3%	49.9%	8.3%	1.5%		
2018年度	680	768	114	14	1576	2018年度	43.1%	48.7%	7.2%	0.9%		
2019年度	740	816	117	18	1691	2019年度	43.8%	48.3%	6.9%	1.1%		
2020年度	763	700	41	1	1505	2020年度	50.7%	46.5%	2.7%	0.1%		



自分の意見を文章でわかりやすく表現できますか？										
	とてもそ う思う	そう思 う	あまりそ う思わ ない	まっ たそ う思 わな い	合計		とてもそ う思 う	そう思 う	あまりそ う思 わな い	まっ たそ う思 わな い
第1回全学部合計 2010年度	71	544	1083	210	1908	第1回全学部合計 2010年度	3.7%	28.5%	56.8%	11.0%
2011年度	44	483	1136	291	1954	2011年度	2.3%	24.7%	58.1%	14.9%
2012年度	42	477	1129	254	1902	2012年度	2.2%	25.0%	59.2%	13.3%
2013年度	48	527	1247	212	2035	2013年度	2.4%	25.9%	61.3%	10.4%
2014年度	58	447	1085	295	1885	2014年度	3.1%	23.7%	57.6%	15.6%
2015年度	63	476	1166	350	2055	2015年度	3.1%	23.2%	56.7%	17.0%
2016年度	82	554	1134	304	2074	2016年度	4.0%	26.7%	54.7%	14.7%
2017年度	58	572	1154	283	2068	2017年度	2.9%	27.7%	55.8%	13.7%
2018年度	109	652	1047	250	2058	2018年度	5.3%	31.7%	50.9%	12.1%
2019年度	90	592	1038	239	1959	2019年度	4.6%	30.2%	53.0%	12.2%
2020年度	93	795	1024	89	2001	2020年度	4.6%	39.7%	51.2%	4.4%
第15回全学部合計 2010年度	225	770	644	70	1709	第15回全学部合計 2010年度	13.1%	44.9%	37.6%	4.1%
2011年度	214	783	736	84	1817	2011年度	11.8%	43.1%	40.5%	4.6%
2012年度	176	773	689	96	1734	2012年度	10.1%	44.4%	39.6%	5.5%
2013年度	175	706	773	104	1758	2013年度	10.0%	40.2%	44.0%	5.9%
2014年度	191	699	653	160	1703	2014年度	11.2%	41.0%	38.3%	9.4%
2015年度	194	742	715	166	1817	2015年度	10.7%	40.8%	39.4%	9.1%
2016年度	202	813	723	135	1873	2016年度	10.8%	43.4%	38.6%	7.2%
2017年度	192	768	612	116	1688	2017年度	11.4%	45.5%	36.3%	6.9%
2018年度	238	708	519	113	1578	2018年度	15.1%	44.9%	32.9%	7.2%
2019年度	238	782	563	105	1688	2019年度	14.1%	46.3%	33.4%	6.2%
2020年度	124	782	557	42	1505	2020年度	8.2%	52.0%	37.0%	2.8%

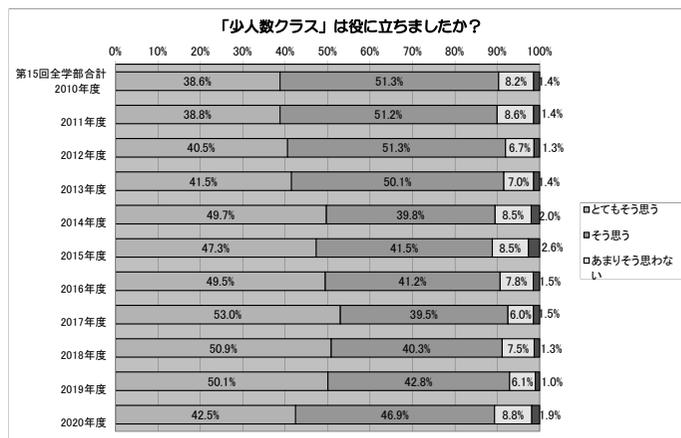


規律を守って学習活動ができますか？(無断欠席や遅刻しない、など)										
	とてもそ う思 う	そう思 う	あまりそ う思 わな い	まっ たそ う思 わな い	合計		とてもそ う思 う	そう思 う	あまりそ う思 わな い	まっ たそ う思 わな い
第1回全学部合計 2010年度	556	1161	187	8	1912	第1回全学部合計 2010年度	29.1%	60.7%	9.8%	0.4%
2011年度	756	1000	188	8	1952	2011年度	38.7%	51.2%	9.6%	0.4%
2012年度	699	1023	169	11	1902	2012年度	36.7%	53.7%	8.9%	0.6%
2013年度	840	1006	184	9	2039	2013年度	41.2%	49.3%	9.0%	0.4%
2014年度	827	862	151	31	1871	2014年度	44.2%	46.1%	8.1%	1.7%
2015年度	886	976	163	17	2042	2015年度	43.4%	47.8%	8.0%	0.8%
2016年度	969	903	163	18	2053	2016年度	47.2%	44.0%	7.9%	0.9%
2017年度	954	924	146	27	2053	2017年度	46.5%	45.0%	7.2%	1.3%
2018年度	969	906	147	32	2054	2018年度	47.2%	44.1%	7.2%	1.6%
2019年度	950	861	114	31	1956	2019年度	48.6%	44.0%	5.8%	1.6%
2020年度	1067	854	73	7	2001	2020年度	53.3%	42.7%	3.6%	0.3%
第15回全学部合計 2010年度	412	960	291	41	1704	第15回全学部合計 2010年度	24.0%	56.0%	17.0%	2.4%
2011年度	519	825	400	67	1811	2011年度	28.7%	45.6%	22.1%	3.7%
2012年度	562	743	383	53	1741	2012年度	32.3%	42.7%	22.0%	3.0%
2013年度	526	697	452	81	1756	2013年度	30.0%	39.7%	25.7%	4.6%
2014年度	527	572	402	203	1704	2014年度	30.9%	33.6%	23.6%	11.9%
2015年度	568	600	459	192	1819	2015年度	31.2%	33.0%	25.2%	10.6%
2016年度	556	651	473	192	1872	2016年度	29.7%	34.8%	25.3%	10.3%
2017年度	571	575	376	167	1689	2017年度	33.8%	34.0%	22.3%	9.9%
2018年度	526	590	321	140	1577	2018年度	33.4%	37.4%	20.4%	8.9%
2019年度	559	649	358	126	1692	2019年度	33.0%	38.4%	21.2%	7.4%
2020年度	680	684	133	8	1505	2020年度	45.2%	45.4%	8.8%	0.5%



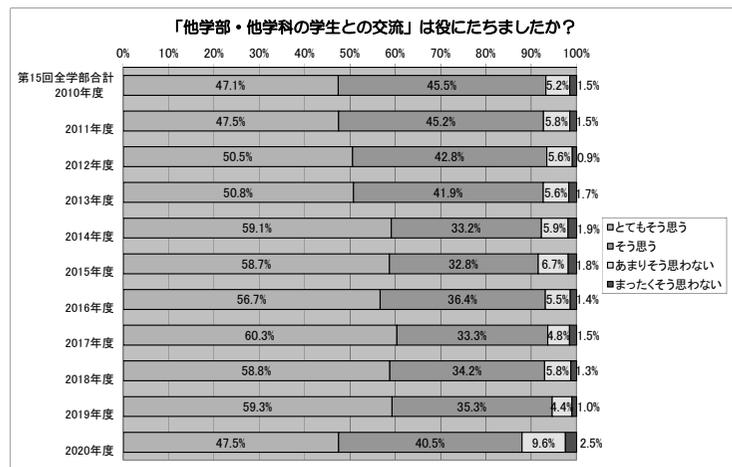
添付資料2 「自立と体験1」授業アンケート (2010～2020年度比較)

「少人数クラス」は役に立ちましたか？										
	「少人数クラス」は役に立ちましたか？				合計	「少人数クラス」は役に立ちましたか？				
	とても 思う	そう 思う	あまり そう 思わな い	まったく そう 思わな い		とても 思う	そう 思う	あまり そう 思わな い	まったく そう 思わな い	
第15回全学部合計 2010年度	662	880	140	24	1706	38.6%	51.3%	8.2%	1.4%	
2011年度	706	930	157	25	1818	38.8%	51.2%	8.6%	1.4%	
2012年度	705	894	117	23	1739	40.5%	51.3%	6.7%	1.3%	
2013年度	729	881	123	25	1758	41.5%	50.1%	7.0%	1.4%	
2014年度	847	677	145	34	1703	49.7%	39.8%	8.5%	2.0%	
2015年度	862	756	155	48	1821	47.3%	41.5%	8.5%	2.6%	
2016年度	925	771	146	28	1870	49.5%	41.2%	7.8%	1.5%	
2017年度	895	667	101	25	1668	53.0%	39.5%	6.0%	1.5%	
2018年度	802	636	119	20	1577	50.9%	40.3%	7.5%	1.3%	
2019年度	847	724	103	17	1691	50.1%	42.8%	6.1%	1.0%	
2020年度	639	706	132	28	1505	42.5%	46.9%	8.8%	1.9%	

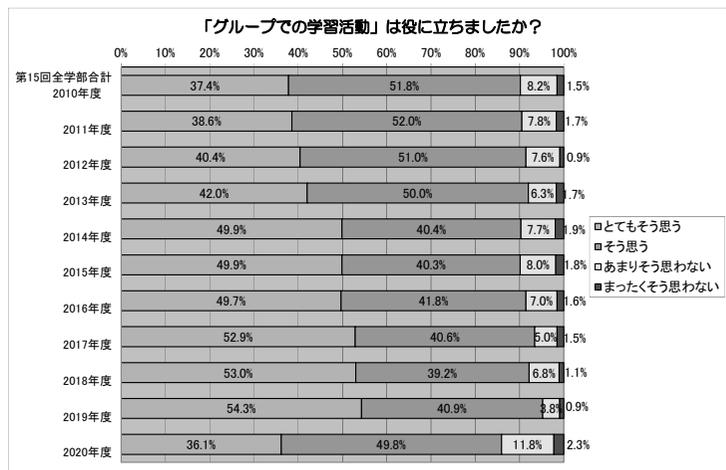


添付資料2 「自立と体験1」授業アンケート (2010～2020年度比較)

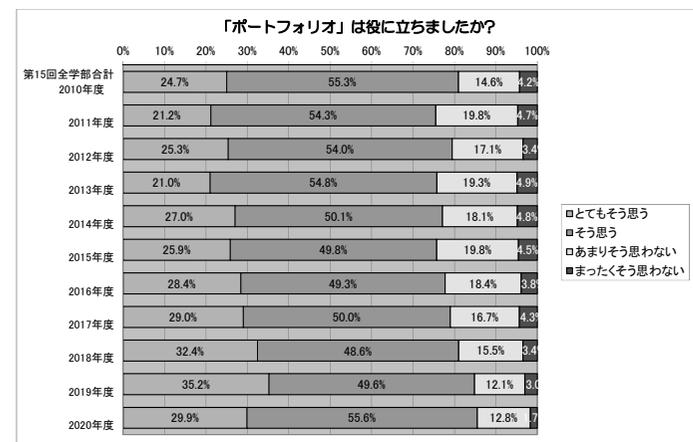
「他学部・他学科の学生との交流」は役に立ちましたか？										
	「他学部・他学科の学生との交流」は役に立ちましたか？				合計	「他学部・他学科の学生との交流」は役に立ちましたか？				
	とても 思う	そう 思う	あまり そう 思わな い	まったく そう 思わな い		とても 思う	そう 思う	あまり そう 思わな い	まったく そう 思わな い	
第15回全学部合計 2010年度	806	780	90	26	1704	47.1%	45.5%	5.2%	1.5%	
2011年度	863	822	106	27	1818	47.5%	45.2%	5.8%	1.5%	
2012年度	880	746	98	16	1740	50.5%	42.8%	5.6%	0.9%	
2013年度	892	735	99	30	1756	50.8%	41.9%	5.6%	1.7%	
2014年度	1009	566	100	32	1707	59.1%	33.2%	5.9%	1.9%	
2015年度	1068	597	121	33	1819	58.7%	32.8%	6.7%	1.8%	
2016年度	1061	682	103	26	1872	56.7%	36.4%	5.5%	1.4%	
2017年度	1018	562	81	26	1687	60.3%	33.3%	4.8%	1.5%	
2018年度	927	539	91	20	1577	58.8%	34.2%	5.8%	1.3%	
2019年度	1003	597	74	17	1691	59.3%	35.3%	4.4%	1.0%	
2020年度	715	609	144	37	1505	47.5%	40.5%	9.6%	2.5%	



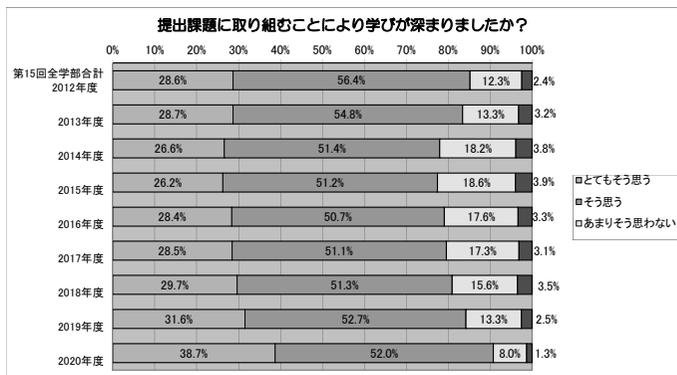
「グループでの学習活動」は役に立ちましたか？										
	とても 思う	そう 思う	あまり そう 思わな い	まったく そう 思わな い	合計		とても 思う	そう 思う	あまり そう 思わな い	まったく そう 思わな い
第15回全学部合計 2010年度	642	889	140	25	1696	第15回全学部合計 2010年度	37.4%	51.8%	8.2%	1.5%
2011年度	701	944	142	30	1817	2011年度	38.6%	52.0%	7.8%	1.7%
2012年度	704	889	133	16	1742	2012年度	40.4%	51.0%	7.6%	0.9%
2013年度	738	878	111	30	1757	2013年度	42.0%	50.0%	6.3%	1.7%
2014年度	850	689	132	33	1704	2014年度	49.9%	40.4%	7.7%	1.9%
2015年度	906	732	146	33	1817	2015年度	49.9%	40.3%	8.0%	1.8%
2016年度	929	781	131	29	1870	2016年度	49.7%	41.8%	7.0%	1.6%
2017年度	893	685	85	26	1689	2017年度	52.9%	40.6%	5.0%	1.5%
2018年度	836	618	107	17	1578	2018年度	53.0%	39.2%	6.8%	1.1%
2019年度	919	693	65	16	1693	2019年度	54.3%	40.9%	3.8%	0.9%
2020年度	544	749	178	34	1505	2019年度	36.1%	49.8%	11.8%	2.3%



「ポートフォリオ」は役に立ちましたか？										
	とても 思う	そう 思う	あまり そう 思わな い	まったく そう 思わな い	合計		とても 思う	そう 思う	あまり そう 思わな い	まったく そう 思わな い
第15回全学部合計 2010年度	424	948	251	72	1695	第15回全学部合計 2010年度	24.7%	55.3%	14.6%	4.2%
2011年度	386	986	360	85	1817	2011年度	21.2%	54.3%	19.8%	4.7%
2012年度	441	941	298	59	1739	2012年度	25.3%	54.0%	17.1%	3.4%
2013年度	369	963	340	86	1758	2013年度	21.0%	54.8%	19.3%	4.9%
2014年度	461	854	308	82	1705	2014年度	27.0%	50.1%	18.1%	4.8%
2015年度	471	907	360	82	1820	2015年度	25.9%	49.8%	19.8%	4.5%
2016年度	533	924	345	72	1874	2016年度	28.4%	49.3%	18.4%	3.8%
2017年度	490	845	282	73	1690	2017年度	29.0%	50.0%	16.7%	4.3%
2018年度	511	766	245	54	1576	2018年度	32.4%	48.6%	15.5%	3.4%
2019年度	595	839	205	51	1690	2019年度	35.2%	49.6%	12.1%	3.0%
2020年度	450	837	193	25	1505	2019年度	29.9%	55.6%	12.8%	1.7%

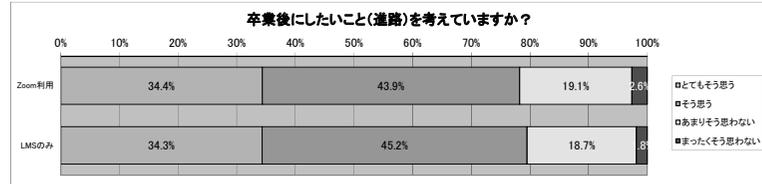


提出課題や先生からのコメントにより学びが深まりましたか？										
	とても 思う	そう 思う	あまり そう 思わな い	まっ たく そ う 思わ ない	合計		とても 思う	そう 思う	あまり そ う 思わ ない	まっ たく そ う 思わ ない
第15回全学部合計 2012年度	499	983	215	42	1739	第15回全学部合計 2012年度	28.6%	56.4%	12.3%	2.4%
2013年度	503	961	234	56	1754	2013年度	28.7%	54.8%	13.3%	3.2%
2014年度	451	871	308	65	1695	2014年度	26.6%	51.4%	18.2%	3.8%
2015年度	474	925	336	71	1806	2015年度	26.2%	51.2%	18.6%	3.9%
2016年度	529	945	327	62	1863	2016年度	28.4%	50.7%	17.6%	3.3%
2017年度	478	859	291	52	1680	2017年度	28.5%	51.1%	17.3%	3.1%
2018年度	464	802	244	54	1564	2018年度	29.7%	51.3%	15.6%	3.5%
2019年度	531	887	223	42	1683	2019年度	31.6%	52.7%	13.3%	2.5%
2020年度	583	783	120	19	1505	2020年度	38.7%	52.0%	8.0%	1.3%

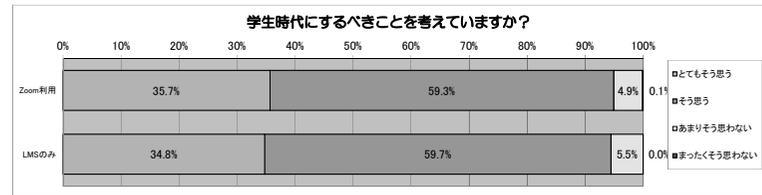


※2015年度までは「提出課題や先生からのコメントにより学びが深まりましたか？」という設問で実施。2016年度から設問の表現をわかりやすく変更。

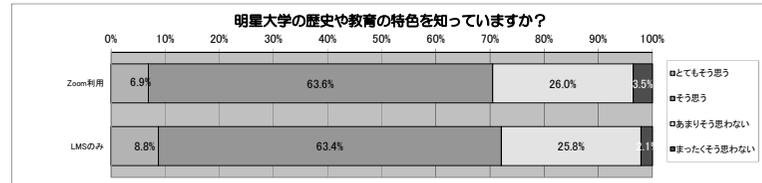
卒業後にしたいこと（進路）を考えていますか？										
	とてもそう 思う	そう思う	あまりそう 思わない	まったくそう 思わない	合計		とてもそう 思う	そう思う	あまりそう 思わない	まったくそう 思わない
Zoom利用	368	470	205	28	1071		34.4%	43.9%	19.1%	2.6%
LMSのみ	149	196	81	8	434		34.3%	45.2%	18.7%	1.8%



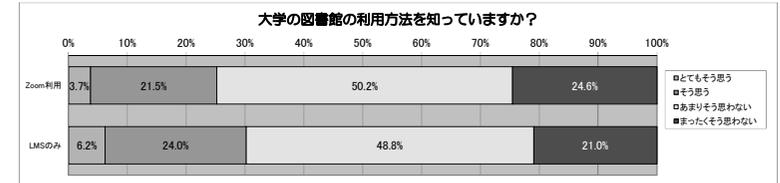
学生時代にすべきことを考えていますか？										
	とてもそう 思う	そう思う	あまりそう 思わない	まったくそう 思わない	合計		とてもそう 思う	そう思う	あまりそう 思わない	まったくそう 思わない
Zoom利用	382	635	53	1	1071		35.7%	59.3%	4.9%	0.1%
LMSのみ	151	259	24	0	434		34.8%	59.7%	5.5%	0.0%



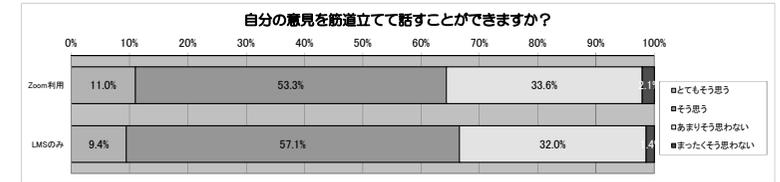
明星大学の歴史や教育の特色を知っていますか？										
	とてもそう 思う	そう思う	あまりそう 思わない	まったくそう 思わない	合計		とてもそう 思う	そう思う	あまりそう 思わない	まったくそう 思わない
Zoom利用	74	681	278	38	1071		6.9%	63.6%	26.0%	3.5%
LMSのみ	38	275	112	9	434		8.8%	63.4%	25.8%	2.1%



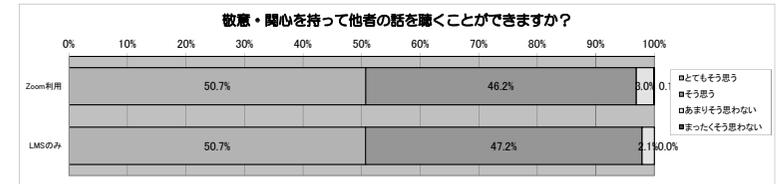
大学の図書館の利用方法を知っていますか？										
	とてもそう 思う	そう思う	あまりそう 思わない	まったくそう 思わない	合計		とてもそう 思う	そう思う	あまりそう 思わない	まったくそう 思わない
Zoom利用	40	230	538	263	1071		3.7%	21.5%	50.2%	24.6%
LMSのみ	27	104	212	91	434		6.2%	24.0%	48.8%	21.0%



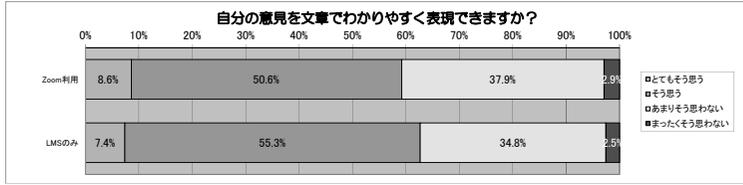
自分の意見を筋道立てて話すことができますか？										
	とてもそう 思う	そう思う	あまりそう 思わない	まったくそう 思わない	合計		とてもそう 思う	そう思う	あまりそう 思わない	まったくそう 思わない
Zoom利用	118	571	360	22	1071		11.0%	53.3%	33.6%	2.1%
LMSのみ	41	248	139	6	434		9.4%	57.1%	32.0%	1.4%



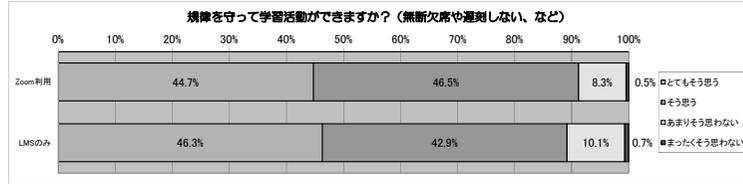
敬重・関心を持って他者の話を聞くことができますか？										
	とてもそう 思う	そう思う	あまりそう 思わない	まったくそう 思わない	合計		とてもそう 思う	そう思う	あまりそう 思わない	まったくそう 思わない
Zoom利用	543	495	32	1	1071		50.7%	46.2%	3.0%	0.1%
LMSのみ	220	205	9	0	434		50.7%	47.2%	2.1%	0.0%



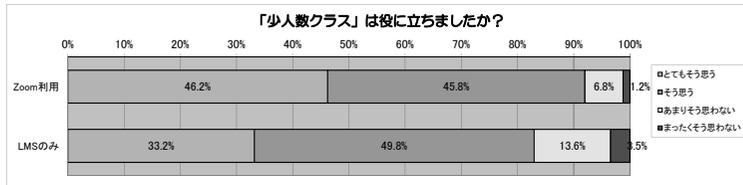
自分の意見を文章でわかりやすく表現できますか？										
	とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない	合計		とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない
Zoom利用	92	542	406	31	1071		8.6%	50.6%	37.9%	2.9%
LMSのみ	32	240	151	11	434		7.4%	55.3%	34.8%	2.5%



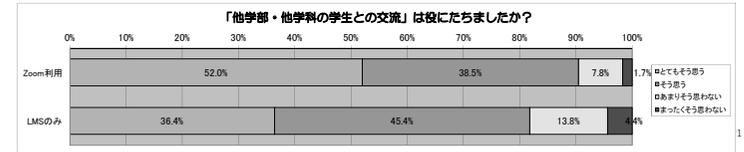
規律を守って学習活動ができますか？(無断欠席や遅刻しない、など)										
	とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない	合計		とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない
Zoom利用	479	498	89	5	1071		44.7%	46.5%	8.3%	0.5%
LMSのみ	201	186	44	3	434		46.3%	42.9%	10.1%	0.7%



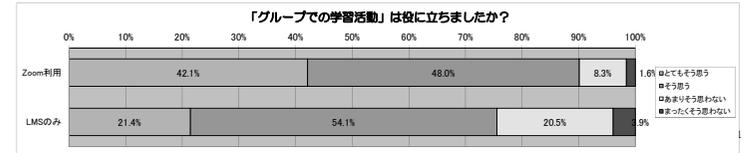
「少人数クラス」は役に立ちましたか？										
	とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない	合計		とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない
Zoom利用	495	490	73	13	1071		46.2%	45.8%	6.8%	1.2%
LMSのみ	144	216	59	15	434		33.2%	49.8%	13.6%	3.5%



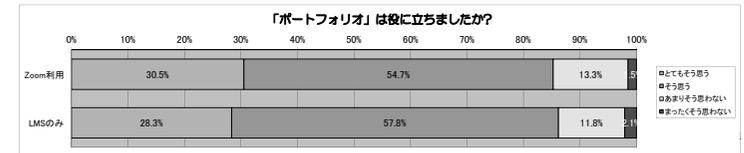
「他学部・他学科の学生との交流」は役に立ちましたか？										
	とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない	合計		とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない
Zoom利用	557	412	84	18	1071		52.0%	38.5%	7.8%	1.7%
LMSのみ	158	197	60	19	434		36.4%	45.4%	13.8%	4.4%



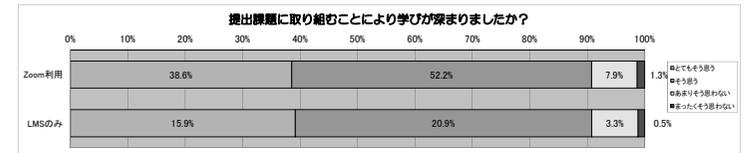
「グループでの学習活動」は役に立ちましたか？										
	とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない	合計		とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない
Zoom利用	451	514	89	17	1071		42.1%	48.0%	8.3%	1.6%
LMSのみ	93	235	89	17	434		21.4%	54.1%	20.5%	3.9%



「ポートフォリオ」は役に立ちましたか？										
	とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない	合計		とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない
Zoom利用	327	586	142	16	1071		30.5%	54.7%	13.3%	1.5%
LMSのみ	123	251	51	9	434		28.3%	57.8%	11.8%	2.1%



提出課題や先生からのコメントにより学びが深まりましたか？										
	とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない	合計		とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない
Zoom利用	413	559	85	14	1071		38.6%	52.2%	7.9%	1.3%
LMSのみ	170	224	35	5	434		15.9%	20.9%	3.3%	0.5%



2020年度 全学共通教育「自立と体験2」実施報告書

Summary (概要)

- ・本年度は新型コロナウイルス感染症の影響のため非対面で14回授業を実施し、8クラスで開講した。履修者は211名で、昨年の288名と比べ26.7%減少した。
- ・単位修得率は90.6%（昨年90.8%）、平均出席率は85.3%（昨年82.5%）であった。
※本年度は、Zoomでの授業出席とLMSでの課題提出をもって出席と見做した。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、授業回が14回になり、授業構成を一部見直した。授業運営は、Zoomを中心としながら明星LMSも併用し、非対面の授業を展開した。
- ・昨年は「持続可能な社会(SDGs)から『食の未来を考える』』と取り組みテーマを絞って共有したが、本年度は「ポスト-with コロナ時代における持続可能な社会のありかた」をベースに、多様な視点から2030年にありたい姿を考える事とし、テーマは各クラス、各グループで設定することにした。
- ・1-4回の導入部分では、未体験の学生も多かったリモート授業におけるグループワークに慣れることを主眼にPBLに入る導入部分として思考の幅を広げたり深めたり、それらを相手に伝えるロジカルシンキングやロジカルライティングの学習を進めた。
- ・5回での「コロナ時代のSDGs」についての外部講師からの講演では、地球規模の課題から学生の身近に起こっている課題の重要性について判り易くご講演いただき、非常に好評であった。
- ・6回目以降のグループワークを軸としたPBLやプレゼンテーションでは、担当教員間で基本的な進め方や各授業回における到達目標は共有しつつも、クラス状況や教員の授業スタイルに合わせて、使用資料やディスカッションのスタイル・発表方法や採点方法についてクラス別にアレンジして進めた。
- ・終了時アンケートによると、97.1%以上の学生が、授業に参加し「良かった」、「とても良かった」と回答し、学生の受講満足度も高かった。特に、教育目標の達成度については、「自分の思い、考えなどを根拠に基づき適切に表現することができた」は、「とてもそう思う」「そう思う」が、全体の87.8%（昨年度86.0%）であった。但し、「専門性を意識して調べることができた」については、「とてもそう思う」「そう思う」が、54.3%と、昨年度（82.7%）から減少している。これは、1年前期のみ修了した履修者が多いので、専門的な学修があまり進んでいないことから、昨年度と比べ授業内での意識付けを強調しなかったことが、専門性の意識に影響したと思われる。学生自由記述欄でも、現時点で専門科目の履修が多くないので、その意識をもつことが難しい旨、回答が散見された。
- ・本年度授業では、与えられた課題ではなく自らの興味や疑問からテーマを設定した結果、多様な視点での気づきや課題形成がなされた。また、複数回の発表や個人発表を盛り込むことで学習サイクルの促進を進められた。また、課題が難しいと感じた学生も多かったが、他学部との話し合いを通して、自分の専門性を考える機会になった学生も見られた。また、達成感やグループワークにやりがいを感じた学生も多かった。一方で、論理構築力を高めたり、各種の情報を咀嚼してより精度の高い発表にする為には、時間や進め方に更なる工夫が必要と考える。また教育目標(行動目標)にもあるように「専門性を意識して」という部分がこちらからも触れる機会が少なかった。
- ・次年度に向けて、今年度の授業実施の中で見えてきた具体的な改善点として、以下を挙げておく。
 - (1) 「導入」(第1～4回)の内容一部見直し
 - (2) 情報収集から活用への導き強化
 - (3) グループワークにおける相互の関わり強化

1. 授業概要

1.1 教育目標

- (1) 自分たちがこれから生きていく社会の未来像を描くという課題に取り組む
- (2) 個々の学生が自らの専門性を意識しながら、学部学科を超えたメンバーと交流し学ぶ
- (3) 社会の課題と自分自身を関連付けさせつつ、大学における学びの基礎となり、日常生活や社会でも求められる汎用技術としての「論理的な思考力と論理的な表現力」を涵養する

1.2 行動目標・到達目標

- (1) 根拠を持って考え、様々な問いを発見することができる
- (2) 専門性を意識して調べることができる
- (3) 根拠に基づく説得力ある表現ができる（書く・話す）
- (4) 社会の課題と自らを関連づけて説明できる

1.3 授業内容及び進め方

2020年度の授業内容は、表1のとおりである。第5回(ゲストスピーカー講演)のみ、全クラス合同で行い、それ以外の回は、発表を含め各クラスの進捗状況を勘案し担当教員毎にグループワークや発表の仕方についてアレンジしながらの授業とした。

すべての授業がZoomを活用して極力リアルタイムで学生と教員、学生同士の交流を図り、授業に関わる事前調査や振り返り、関連情報の活用検討等についてLMSを活用して行った。

表1 「自立と体験2」の授業内容

授業回	項目	主な内容
第1回	オリエンテーション(クラス合同授業)	授業の概要説明
第2回	社会の課題について調べる	SDGs・ポスト-with コロナ時代について調べる
第3回	ロジカルシンキング/ロジカルライティング	ロジカルシンキングの基本(PREP法)
第4回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの基本 オンラインコミュニケーション
第5回	多様な視点を知る(ゲストスピーカー)	テーマ：コロナ時代のSDGs (一般社団法人SDGs ジャパン 長島美紀氏)
第6回	問いを集める	SDGsに関する問いづくり(調査)
第7回	専門の視点で情報を集める	ポスト-コロナ時代に関する問いづくり(調査)
第8回	調査結果を基に持続可能な社会のあり方を描く	ポスト-コロナ時代における持続可能な社会のあり方を決める(調査)
第9回	思考を深める(根拠となる情報を精査する)	ポスト-コロナ時代における持続可能な社会のあり方の根拠となる情報を精査する
第10回	考えを論理的に構成する	グループでプレゼンテーション資料を作成する
第11回	プレゼンテーションの準備	プレゼンテーションの準備とリハーサル
第12回	プレゼンテーション①	クラス内プレゼンテーションと相互評価
第13回	プレゼンテーション②	クラス内プレゼンテーションと相互評価
第14回	これからのプランニング	授業全体を振り返る さらに学びを深めるためのプランニング

授業のルールとして、Zoom 授業に休まず参加すること、授業内での話し合いには積極的に参加すること、毎回の LMS 課題にしっかり取り組むことの 3 点を定め、学生に周知した。成績評価基準は、①Zoom 授業参加と LMS 課題の提出、②プレゼンテーション大会への参加、③授業参加態度の 3 点とし、「合」「否」で評価した。

2. 実施結果

2.1 開講曜日・時限・設置クラス数等

昨年度の履修者実績から、金曜日 1 時限、2 時限ともに各 4 クラスを予定し開講した。但し、新型コロナ禍で対面授業での開講ができず、急きょ LMS と Zoom を活用することとなった。併せて、学事日程の改定から全 14 回の授業となった。

第 1 回目授業は、クラス分けせず LMS 課題のみで実施し、第 2 回目以降から、各クラスに分かれ、Zoom と LMS を併用する形式をとった。なお、Zoom 授業参加と LMS 課題提出をもって出席とした。

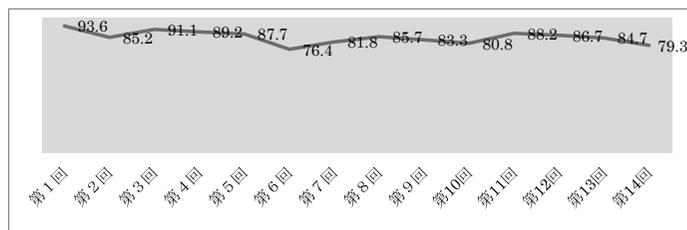
2.2 履修者

履修登録者数は、211 名 (1 時限目 136 名、2 時限目 75 名) で、所属学部学科の内訳は表 3 の通りである。各クラスの履修者は、学籍番号順にクラス分けし、1 時限目が各 30 名程度、2 時限目が 20 名程度であった。※参考：2019 年度 履修者総数 288 名、各クラスの履修者は 1 時限目が各 20 名程度、2 時限目が 30 名程度。

2.3 出席率

平均出席率は 85.3% (2019 年度 82.5%) であった。これは、全 14 回欠席者 8 名を除いた 203 名を対象に算出した。各回の出席率は、図 1 の通りである。

図 1 「自立と体験 2」出席率の推移(2020 年度)



2.4 単位修得率

全履修登録者に対する単位修得率は 86.7% (2019 年度 89.5%)、全 14 回欠席者を除いた単位修得率は、90.6% (2019 年度 90.8%) であった。詳細は、表 2、表 3 の通りである。

表 2 履修登録者数および単位修得者数 (全学生)

全学 部全 学科	履修者数 () 内、全 14 回欠席 者数			単位修得者数			単位修得率 ※全 14 回欠席者を除く		
	1 限	2 限	合計	1 限	2 限	合計	1 限	2 限	合計
	136 (6)	75 (2)	211 (8)	114	70	184	87.7%	95.9%	90.6%

表 3 履修登録者数および単位修得率の詳細

学部・学科・学系	2020 年度入学生 () 内、全 14 回欠席者数				2020 年度以前の入学生 () 内、全 14 回欠席者数				
	1 限	2 限	合計	単位修得率	1 限	2 限	合計	単位修得率	
理工	物理学系		5	5	100.0%		2	2	100.0%
	生命科学・化学系			1	1	100.0%			
	機械工学系	17(2)	4	21(2)	78.9%		1	1	100.0%
	電気電子工学系	3		3	66.7%				
人文	環境・生態学系	1	1	2	100.0%				
	国コミ	2	2	4	100.0%		5	4	80.0%
	日本文化	5		5	100.0%				
	人間社会	10	5	15	86.7%				
経済	1	2	3	100.0%					
経営	22	8	30	96.7%	1		1	100.0%	
情報	29	23	52	96.2%					
教育		8(1)	8(1)	85.7%	9(2)	1	10(2)	50.0%	
デザイン	11	5	16	93.8%	4(1)		4(1)	100.0%	
心理	8	1	9	88.9%	1		1	100.0%	
建築	5(1)	4	9(1)	100.0%	2		2	50.0%	
合計	119 (3)	65 (1)	184 (4)	92.8%	17 (4)	10	27 (4)	85.2%	

※単位修得率は全 14 回授業欠席者を除き算出

2.5 授業概況報告

以下、各授業回のねらいに沿って、授業のポイント・各教員の工夫・そして成果と課題を記す。

(1)1-4 回 (導入)

今回のメインテーマである「SDGs」「ポスト-with コロナ」の基礎知識やロジカルシンキング、プレゼンテーションの基本について学習した。一部の学生においては、全く未体験であった Zoom でブレイクアウトセッションや Google のジャムボード機能を使用してのディスカッションに慣れる事に重点をおいた。成果として、学生は SDGs について全く知らないところから、少しずつ関心をもてるようになってきた。また、主に PREP 法を使いながら論理的な文章や話の進め方を授業並びに LMS を活用して反復したことで一定の基本理解の促進が進んだ。

課題として、そもそも文章の読み込みや情報収集のレベルが浅いため、論理的にまとめる文章やメンバーへの発表が淡泊になる学生も多くいたことが挙げられる。

(2)5 回 (ゲストスピーカー)

今回、「SDGs 市民社会ネットワーク」業務執行理事の長島美紀氏から、①講師自身が SDGs に関わった経緯、②今、世界規模で持続可能な社会を阻害している事例、③学生自身の身近にある事例についてのご講演、及びチャットを活用しての質疑応答を行った。

講演及び用意いただいた映像も、学生の関心を非常に高めるもので、終了後 LMS に提出された学生の振り返りレポートには、具体的な項目別の感想をはじめ「世界の貧困と日本の貧困についてはこれからも

深めていきたい」「長島さんのように職業としてではなくても、一人一人できることがある。小さなことでも毎日積み重ねることでも未来は変わっていくと思えた。」「あたりまえを疑う」という言葉がすごく印象に残った」「後10年で達成されなかったところで、これらの目標を取り下げはならず、取り組み続けなければいけないものであると理解した。」「まだまだSDGsという言葉に馴染みのない人たちが多くいることは間違いなく、そのためにもまずは日本国内でも国民に危機感を植え付けるぐらいの広報を行ったりにしていくべきである」と考える」等、これからの意識や行動につながる感想が多く寄せられていた。

(3) 6-10回（問いを深める、調査）

「問いを深める」事を切り口に思考を広げる、深めることの学習を起点に、各グループで「発散思考」と「収束思考」を繰り返し「ポスト-with コロナ時代における持続可能な社会」をベースに、グループ発表テーマを決めた。

以降、担当教員で共有したツールや進め方を一部アレンジして、クラス教員毎に進め方や使用ツールをやや変えながら、プレゼンテーションに向けての調査や情報精査をグループワーク中心に行った。

※この間の教員個別の工夫の一例として、「YouTube にアップされている模範的なプレゼンテーションを参考とさせ、同アップされている効果的なプレゼンテーションについての説明動画もLMS課題の一部に活用」「社会のあり方の具体的なイメージについてレクチャー」「情報の精度、参考文献の載せ方等について説明を加える」「第4回までのPREP法に加え、ボールパート法を提示しまとめ方のバリエーション拡充」等の工夫を加えた。

成果として、「問いを深める」ことで多角的な視点で事象や与えられ文章を精査する事や論理的にまとめる力の向上には、ある程度寄与したと考えられる。

また、テーマについては多様な視点で提示されていた。(表4)

一方で、多くは1年生であるので、SDGsと各専門分野の連携については、上辺だけで終わっていたり、インターネットに掲載された一次情報のみを繋ぎ合わせるレベルに留まっている事例も散見された。

(4) 11-13回（プレゼンテーションの準備と実施）

昨年は、クラス内発表(予選)後、時限毎に各クラスの代表が全クラスメンバー集合での発表であったが、Zoomを使用して運営上の現実的な問題と各教員ともに「個別に内容の充実を図りたい」との意図からすべてクラス別での発表とした。

※この間も教員個別で発表スタイルや評価(フィードバック)方法についてアレンジした。フリーライダーを作らないためにグループではなく個人発表にしたり、一回目の発表の振り返りを活かして二回目の発表を実施したり、クラス全員でフィードバックシートを活用して得点化をしたりの工夫を行った。

各クラス、プレゼンテーションの前、又は1回目のプレゼンテーションと2回目との間で、他グループや教員からのフィードバックを基に改善や工夫を凝らし完成度を高める事に努めた。

また、対面授業よりも授業外での調査や作成に時間を費やし各種のデータを吟味し、全体に対してより関連性や説得力を高めることにも注力していた。

しかし、一方でグループ内ではフリーライダーの存在やこの段階においても、そもそも情報収集の仕方、グラフの扱い、参考文献の提示の仕方等、意見と事実の記述の仕方、基本的なスキルやPCスキルがない学生も散見された。

(5) 14回 全体振り返り及びこれからのプランニング

13回授業最後まで、発表時間やクラス内メンバーからの相互フィードバックに時間を費やしたクラスも多かったことから、主にグループ別での振り返りやメンバーに対しての個別メッセージ(協働を通じての良かった点やアドバイス)に時間を費やした。

表4 グループ別発表テーマ

グループ別発表テーマ (同一及び類似テーマは省略)
<ul style="list-style-type: none"> ・行動の不自由がなく世界で助け合う社会 ・誰一人置いて行かれない平等な社会 ・未知の問題に順応し常に飛躍しようとする社会 ・自分の生き方を見つけることができる平和な社会 ・皆が協力し合い最低限の健康を与える社会 ・医療が充実した、より平和で暮らしやすい社会 ・健康で平等な社会を相互に共助して生活できる社会 ・脱、一極集中！オンラインを生かした多様な働き方ができる社会 ・場所を選ばず繋がれるリモート社会 ・3次元にとらわれない社会 ・オンラインとオフラインについて臨機応変に望ましいものを選択する社会 ・人種差別がなく、互いに支え合う豊かな社会 ・思いやりと助け合いながら生きていく社会 ・進化し続ける、カメレオン社会 ・科学技術を使用した持続可能な社会 ・制限をなくし、コロナ禍のメリットを生かせる社会 ・誰もがお過ごしやすく、人が人を思いやる社会 ・一人一人の行動や意見(考え)を尊重しあえる社会 ・一人ひとりが問題を他人事で終わらせず、自ら考えて行動する社会 ・一つ一つの国が今よりも協力し合い手を取り合っていく社会 ・諸外国とうまく連携して、医療などで支援しあえる社会 ・若者の自殺がない日本社会 ・自然環境に配慮する社会 ・コロナ禍の差別が発生しない社会 ・貧困(格差)がない社会 ・コロナ禍であっても観光業が安定経営できる社会 ・若者の政治的意見が反映される社会 ・シングルマザーが安定して働ける社会 ・国内の非正規労働者が安定して働ける社会 ・オンライン化により平等に教育を受けられる社会

3. 次年度に向けて

非対面でのグループワークを軸としての授業展開で教員学生共に戸惑いも多かったが、到達目標の学生評価も概ね良く、授業運営に大きなトラブルはなかった。またPBL活動は半数程度の学生にとって難しいものであった一方で、ほとんどの学生が肯定的評価をしており、難易度の高い授業ではあったが学生にとって満足のいくものであったことがわかる。主たるテーマや進め方については、本年度を踏襲しながら、来年度に向けて改善が必要な点としては以下の3点がある。

(1) 「導入」(第1～4回)の内容改訂

本年度は、昨年までの進め方を踏襲しPREP法をベースにまとめ方や発表の仕方の基本を学んだが、思考を広げたり深めるためのアプローチ(フレームワーク)や発表に際してホールパート法の提示もおこない、テーマや状況に合わせて発表に活用できる幅を広げる工夫を検討する。

(2) 情報収集から活用への導き強化

自ら組み立てた課題についての調査プロセスで、単にインターネットをはじめ、容易に入手できる一次情報を羅列することから、複数の情報を組み合わせたり、取捨選択する力やその情報を活用する根拠を明確化できる力を高める。また、情報を活用する際の基本的なルールの再度徹底を行う。

(3) グループワークにおけるメンバー相互関与の強化

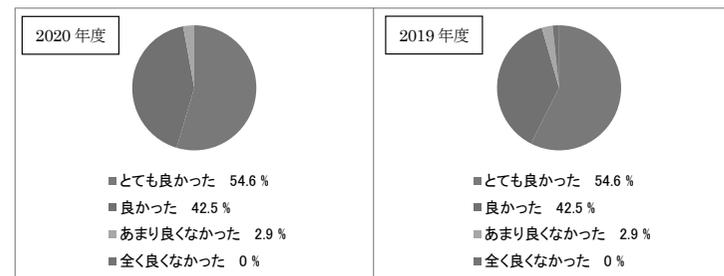
Zoom と LMS の併用により、授業時間外での調査や学習時間が増加したが、ほとんどの学生は、決められた課題やグループ内で与えられた調査にしっかりと取り組んでいた。一方で、それらをグループディスカッションにおいてメンバー間で組み立てる際は相互に意見をぶつけ合ったり、他者への提案を行ったりすることが少ない。今後「より良いものに仕上げる」ため、チームワークの重要性や他者の調査にも関わりあうマインドセットを行う仕掛けを検討する。

以上

資料：授業アンケート (N=173)

【授業全般について】

Q1. あなたはこの授業に参加して、どのように思いましたか。

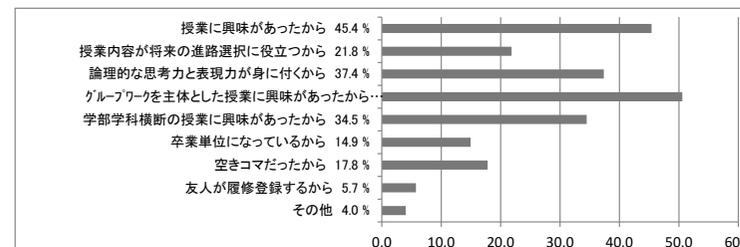


【コメント】

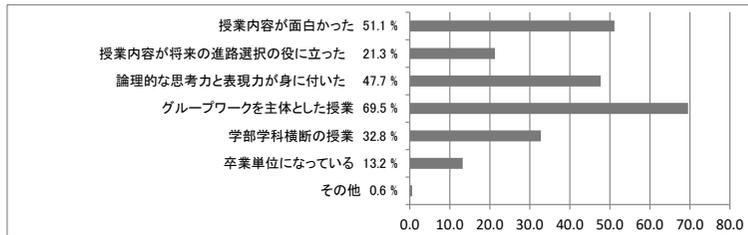
特記すべき学生の自由記入内容は、以下の通りである。

- ・Zoom での講義内容が工夫されていて、スムーズに講義を受けることができた。
- ・対面授業ではないにもかかわらず、毎回他学生と話す機会があり、意見交換もできてよかった。
- ・プレゼンの方法やいろんな意見に触れたり論理的な考えを身につけることができた。
- ・考え方、説得力のある説明の仕方を学べたのは大きいと思った。
- ・SDGs について考え、社会問題などをよく考えるようになった。

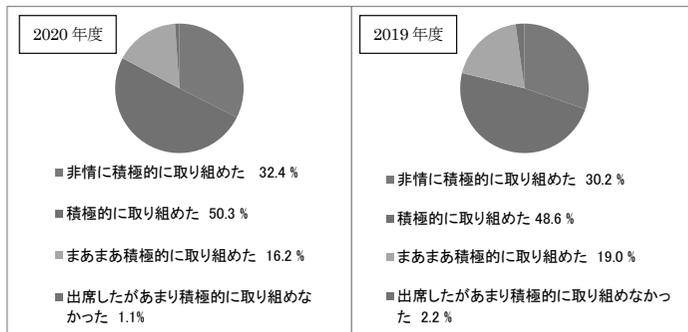
Q2. この授業はどのような理由で履修しましたか。あてはまるものを全て選んでください。



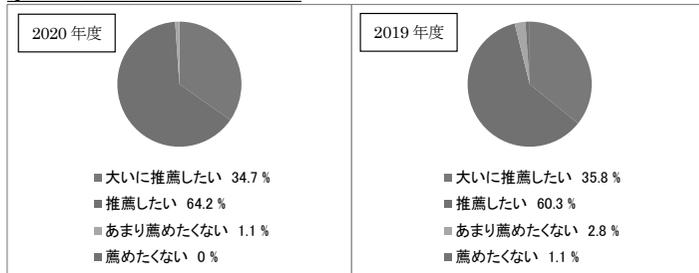
Q3. この授業を履修して良かった点はどのようなことですか。あてはまるものを全て選んでください。



Q4. この授業にどのように取り組みましたか。

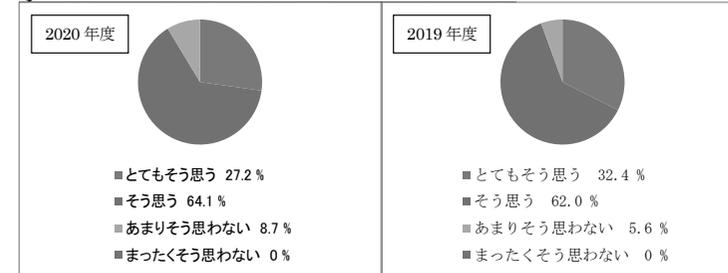


Q5. この授業を後輩にも推薦しますか。



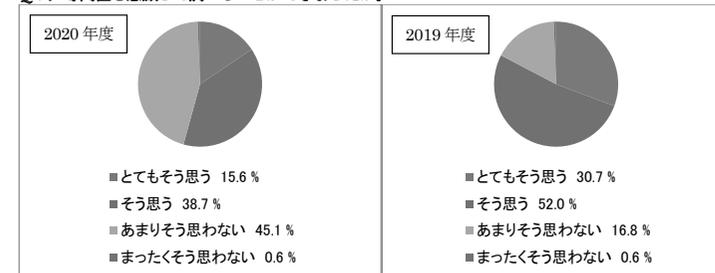
【到達目標について】

Q6. 根拠をもって考え、様々な問いを発見することができましたか。



【昨年比】 差異は、ほとんど見受けられない。

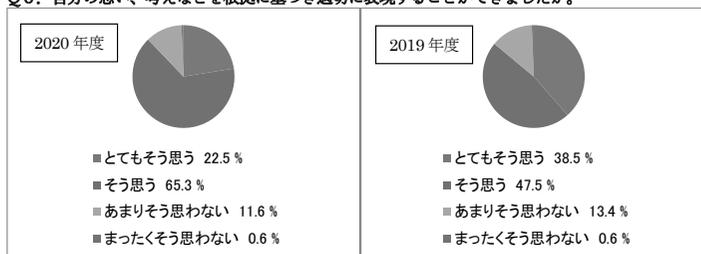
Q7. 専門性を意識して調べることができましたか。



【コメント】

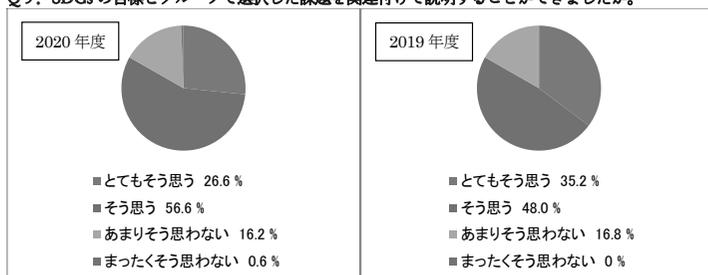
履修者の多くは、1年前期のみ終了した時点での履修者が多いため、専門的な学修があまり進んでいない。そこで、昨年度と比べ、授業内での意識付けを強調しなかったことが、専門性の意識に影響したと思われる。学生自由記入欄にも、現時点で専門科目の履修が多くないので、その意識を持つことが難しい旨、回答が散見された。

Q8. 自分の思い、考えなどを根拠に基づき適切に表現することができましたか。



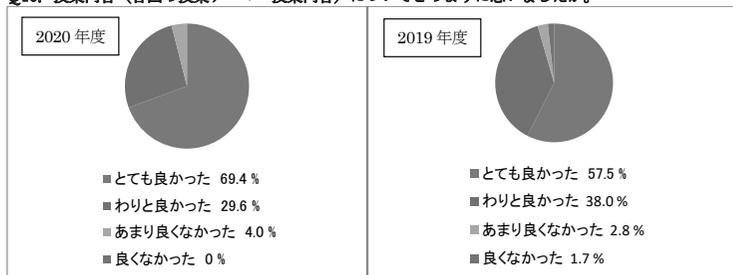
【昨年比】 肯定的な回答比率から、大きな差異は見受けられない。

Q9. SDGsの目標とグループで選択した課題を関連付けて説明することができましたか。



【昨年比】 差異は、ほとんど見受けられない。

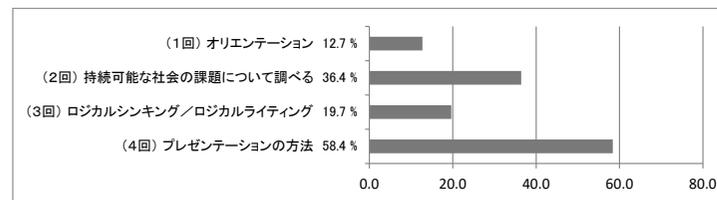
Q10. 授業内容（各回の授業テーマ・授業内容）についてどのように思いましたか。



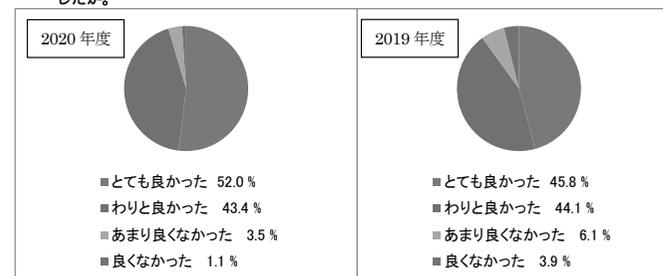
【昨年比】 差異は、ほとんど見受けられない。

Q11. 授業導入部分（第1～4回）について、どの回が印象に残っていますか。

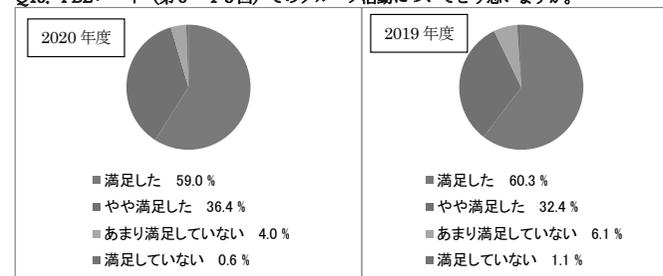
あてはまるものを全て選んでください。



Q12. ゲストスピーカーによる講義（第5回）は、自分たちの課題「社会のあり方」を考える上で役立ちましたか。

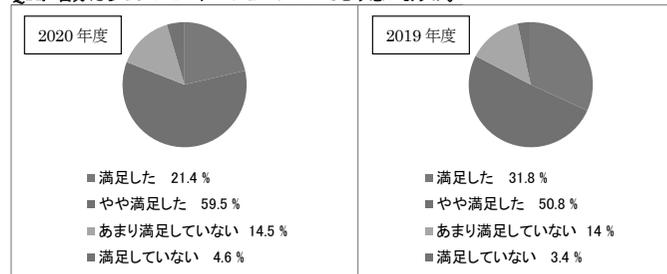


Q13. PBLパート（第6～13回）でのグループ活動についてどう思いますか。



【昨年比】 差異は、ほとんど見受けられない。

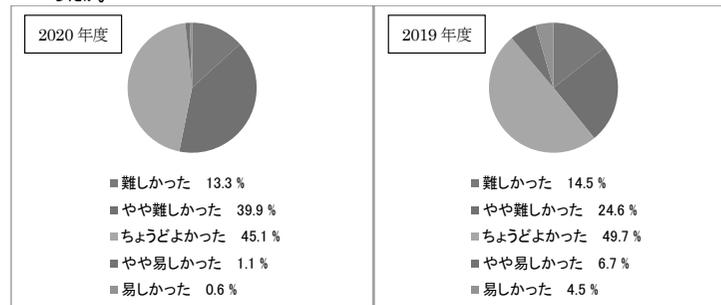
Q14. 自分たちのプレゼンテーションについてどう思いますか。



【昨年比】 差異は、ほとんど見受けられない。

【授業の難易度について】

Q15. 授業全体（導入部分・PBLープレゼンテーション準備～実施）の難易度について、どのように思いましたか。



【コメント】

昨年度より、やや難しかったと感じる学生が多かった。これは、授業形態が、昨年度の対面からオンラインでのプレゼンテーションとなったことが理由と推測できる。

Q16. この授業は、オンライン授業の中で Jamboard などを活用して進めてきました。受講しての感想を教えてください。

【良かった点】

- ・ジャムボードによってグループ内の意見が見やすく、多くの授業で取り入れてもよいと思った。
- ・他のグループの様子も見られてズームのホワイトボードよりもやりやすかった。
- ・24時間いつでも資料を開くことができ、書き込めるのでとても使いやすかった。もし対面であったとしても、従来どおり、大きな方眼紙でまとめるのではなく、オンライン環境を使っていけば現代のIT技術にもより近づけるのではないかとも思いました。

【検討項目】

- ・ジャムボードは、スマホで見る時にアプリを入れないと見られないので、少し苦労した。

Q17. この授業の改善点、要望（こんな内容を取り入れて欲しい等）があれば記入してください。

- ・対面は難しいかもしれないが、何回かは対面で話した方が深く話せたと思いました。
- ・人数がそれほど多い授業ではなかったので、最後の一回だけでも対面で行いたかったです。
- ・第2回目辺りからグループが決まっていると、より深く話しあえたと感じた。しかし、いろいろな人のコミュニケーションも重要だと感じた。
- ・ラインのようなテキストチャット型のアプリの採用。対面でカメラをつけながら喋るのは辛いですが。
- ・関連する様々な分野のゲストスピーカーによる講演が聴きたかった。
- ・自立と体験2を受講した先輩など、SAの方から何かアドバイスがもらえたらよかったですと思いました。
- ・グループで話し合ったり、人前で発表したりする機会が多くあり、主体的な学習で楽しかったです。

以上

2020年度「自立と体験3A」授業実施報告

Summary (概要)

- 授業実施にあたって、新型コロナ感染防止のため、非対面による授業実施となったことから、シラバス記載の内容から大きく変更して実施した。
- 授業内容の大幅な変更、オンライン上でのアクティブラーニング実践のための様々な工夫を行って開講した(明星LMSおよびZoomを活用した授業に変更)。オンライン上での授業であることを考慮して一回完結の授業に変更した。また、参加者一人ひとりにプレゼンテーションを課し単位修得条件とした。プレゼンテーションは、受講学生および授業担当教員から高い評価を得た。
- 2年生後期科目として7クラスを開講した。授業は明星教育センターの5名の教員が担当し、月曜2限は複数クラスを設置した。
- 例年、希望がある学科に対して履修ガイダンスで授業内容の説明を行っていたが、2020年度は新型コロナの影響で実施しなかった。授業内容の説明を行わなかったことの影響から、2019年度と比較して履修者数が減少した可能性がある。
- 終了時アンケートによると、多くの学生が行動目標・到達目標を達成したと考え、授業を通じた能力の伸長及び意識の変化を自覚し、Zoomで実施した授業にもかかわらず満足度の高い授業となった(97%)。
- 終了時アンケートによると、この授業を後輩にも勧めたいとする回答が99%となり授業評価が高いことが示された。
- プレゼンテーションを個人で行わせたことにより、責任をもって質の高いプレゼンテーションができた。また、フィードバックが活発で充実した内容だった。授業全体を通して、関心を持って取り組んでいた様子がうかがわれた。
- 通信環境の問題、パソコンのスペック、学生個人のスキルの問題などにより、個別のフォローが難しかった。
- 非対面授業を実践していくなかで、次の新しい知見が得られた。(1) ZoomおよびGoogle Jamboardを活用して授業を行なったことの利点、(2) 授業への積極的な参加意識の醸成、(3) 学生プレゼンテーションの質の向上、(4) 明星LMSを活用したことによる利点(詳細は5ページ参照)。

1. 授業概要

1.1 教育目標

チームで様々な演習に取り組むことを通じて

- (1) 問題を発見し、課題を設定してその解決に向けて主体的に行動する力を涵養する。
- (2) 社会や自己を知り将来のキャリアを考えるきっかけとする。

1.2 行動目標・到達目標

- (1) 自ら考えて行動し、主体的に学ぶ。
- (2) 問題や問題意識の持ち方を理解し、問題解決の考え方を身に付ける。
- (3) 社会に関心を持ち、自分と結びつけて考える。
- (4) 自分に向き合い、キャリアを考える意識をもつ。

1.3 授業内容

2020年度の授業内容は表1のとおりである。授業実施にあたっては、新型コロナ感染防止のため、非対面による授業実施となり、シラバス記載の内容から大きく変更して実施した(詳細は資料1を参照)。授業実施にあたっての主な変更点は、(1) ZoomとLMSを併用した授業に組み直した。(2) 遠隔環境でも学生が出席しやすい授業であることが重要であると考えたことにより、複数回にまたがる可能性のある授業を1回完結の授業内容に変更した。

また、オンライン上でのアクティブラーニング実践のための工夫としては、(1) 授業の振り返りをLMSのレポートに記入させ、学生が相互閲覧可能とした。(2) 多様な意見に触れ合える機会をつくった。(3) 掲示板・プロジェクト機能を活用し、他者との関わりをつくったことが挙げられる。授業の出席に関しては、Zoomでの授業参加およびLMS課題の提出をもって出席とし、第12・13回に実施したプレゼンテーションを単位修得条件とした。

表1 「自立と体験3A」授業内容一覧(2020年度)

回	授業名	内容
1	オリエンテーション	授業のねらいと内容の紹介 自己紹介
2	自分の問題に向き合う <大学生生活の振り返り>	いままでの大学生生活を振り返る
3	問題解決の方法1 <問題解決とは>	身近な問題を定義する
4	問題解決の方法2 <問題解決の考え方>	問題解決のプロセスを理解する
5	問題解決の方法3 <問題解決を体験する>	問題解決を体験する
6	問題解決のスキル1 <現状の理解>	フレームワークを学ぶ(KJ法・MECE)
7	問題解決のスキル2 <原因の特定>	フレームワークを学ぶ(ロジックツリー)
8	問題解決のスキル3 <解決策の構想>	フレームワークを学ぶ(意思決定のマトリクス)
9	問題解決のスキル4 <自分の問題に当てはめる>	フレームワークを学ぶ(SWOT)
10	問題解決演習1 <問題解決に取り組む>	フレームワークを使ってみる
11	問題解決演習2 <問題解決のブラッシュアップ>	中間プレゼンテーションと相互フィードバック
12	問題解決演習3 <プレゼンテーション>	プレゼンテーションと相互評価
13	問題解決演習4 <プレゼンテーション>	プレゼンテーションと相互評価
14	まとめ <今後の行動を考える>	キャリアデザインの考え方 授業アンケート記入

2. 実施結果

2.1 開講曜日・時限・設置クラス数・履修者数等

2年生後期科目として7クラスを開講した。授業は明星教育センターの5名の教員が担当し、月曜2限は複数クラスを設置した(表2)。

履修登録者数は124名(全欠席者7名除く)となり、2019年度(173名)より49名減少した。例年、希望がある学科に対して履修ガイダンスで授業内容の説明を行っていたが、2020年度は新型コロナウイルスの影響で実施しなかった。その影響から、2019年度と比較して履修者数が減少した可能性がある。

曜日	時限	担当教員	履修登録者数(内全欠席数)	単位修得者数
月	2	高橋	25(2)	21
月	2	鈴木	24(1)	20
月	3	鈴木	23(0)	23
火	1	南	16(2)	11
水	5	菅原	24(1)	21
木	2	太田	13(0)	13
金	4	菅原	6(1)	5
合計			131(7)	116

単位修得率は93.5%(116人)となり、2019年度(76.9%)に比較して16.6ポイント増加した。

3. 授業評価

3.1 教育目標の達成

「行動目標・到達目標」に関し、終了時の授業アンケートにおいて達成度を尋ねた(資料2)。Q6「自ら考えて行動し、主体的に行動することができた」(96%)、Q7「問題や問題意識の持ち方を理解し、問題解決技法を身につけた」(96%)、Q8「自分の思い、考えなどを適切に表現することができた」(92%)のいずれにおいても、「とてもそう思う」「そう思う」を合わせた肯定的な回答が高い割合を示しており、多くの学生が行動目標・到達目標を達成できたと考えていることが示された。

3.1.1 能力の伸長及び意識の変化

「獲得した能力や意識」について、授業で扱ったどの内容が大学生活や将来の役に立つかを尋ねた(Q10)。その結果、「問題解決演習(第11~13回)」(64%)、「問題解決の方法(第3~5回)」(48%)、「問題解決のプロセス(第6~9回)」(45%)、「自分の課題に取り組む(10回)」(45%)の評価が高かった。一方、「オリエンテーション(第1回)」(19%)、「まとめ(第14回)」(26%)は高い評価を得られなかった。

3.1.2 学生の反応

授業に対する満足度について、終了時の授業アンケートにおいて4件法で尋ねた。Q1「あなたはこの授業に出席してどのように思いましたか」に対して「良かった」、「やや良かった」を合わせた回答が97%となり、Zoomで実施した授業でも満足度が高かった(2019年度:99%)。

その理由として、「グループディスカッションがたくさんあり今の時期に他人と話せるというのはとても良かった」、「何かの問題点を見つけたときの解決策の考え方、また物事の考え方が変わったから。今までは自分の中で解決策を見つけて満足して終わってしまっていたが、この授業を履修したことにより、口だけでなく行動に移すべきだと改めて思えたから」、「問題解決の方法を増やせたから。まとめ方に関しては他のジャンルでも活用できると思った」、「みんなと話す機会が毎回あり、共有する時間が楽しかった」、「色々な考えを持っている人と関わることができて視野が広がった」、「自分が持っている課

題について考えることはあまりないのでこのような機会を作ってもらえてとても良かった」、「オンライン授業ではあったがたくさん人と関われたから」、「自身の問題解決という授業に当たり、自分がこのやるべきことが明確になったので授業に参加してよかったと思う」、「普段考えることのない内容に触れることができ、自分の成長につながると思ったから。また、高度な思考と言語化・視覚化することで、より多くの人の意見を聞き、視野を広げることができたから」、「他学部との交流が唯一できる授業だから」、「今まで自分が目を逸らしていた問題に向き合えるようになった」、「オンライン授業であることによって、人と会話をしたり考えたりする機会が大きく減っているなかで、この授業時間は自分にとって有意義な時間だったと感じられたから」、「物事に対する姿勢、考え、問題の解決などをちゃんとした概念などに当てはめ、効率的にできた」、「他学部の方と交流することがオンライン授業ではもちろん、去年の大学に通っていたころでもあまりありませんでした。なので、この授業を取ることで他学部の方と交流できてとても良かったと思う」、「コロナ禍で自立と体験3Aの実施やその講義ならではの経験を得ることは困難であると最初は考えていた。しかし、これまでの講義を受けて、期待していた経験はもちろん、期待以上の経験をすることができた。この状況でもできることがあるということを改めて実感することができたため、参加してとても良かったと思っている」「参加すれば何かしら得られる」「授業が期待以上でとても楽しかった。勉強にもなったうえ、少人数という強みを使って雑談など少人数ならではの良かった」という回答があった(授業終了時アンケートより抜粋)。

Q5「あなたはこの授業を後輩にも勧めますか」に対する「大いに勧めたい」、「勧めたい」の合計が99%(2019年度:99%)であり、学生の受講後の授業評価は高いことが示された。

その理由として、「自分の問題点を見つめる数少ない授業だったため」、「問題解決のスキルは将来的に使うのでその方法を得ることができるから」、「1年生の時に学んだ自立と体験1の授業とは似ているようで違うもので、2年生で学ぶ自立と体験の授業は、自分自身を見つめ直すいい機会になったから」、「自分だけの解決法が学べるので、これからはに向けてとても役立つ授業なのでぜひ履修して欲しい」、「グループワークで問題解決ができるから」、「この授業は、非常に身になる授業だと思ったし、1回1回考えさせられることがたくさんあったから」、「自分を見つめ直すことができるので、何かに悩んでいる後輩など居たらおすすしたい」、「一度はグループワークのスキルを学んで、協力して何かを見つけ出すこととかを知る方が将来この仕事についても役に立ちそうだから」、「他学部の方と交流できる良い機会であること。それだけでなく、自分の学部においても新たな友達ができる。基本的にみんなやる気がある人達の集まりであるから」、「社会に出てから役に立つスキルを身につけることができ、また他学部とグループワークを通じて、様々な意見を聞くことができ、学びに繋がると思うため」、「課題解決のスキルが身につくのは大切だと思うから」、「物事の考え方や解決策の求め方が新たに身につく、卒業後も使えるから」という回答があった(授業終了時アンケートより抜粋)。

取り組み状況については、Q4「あなたはこの授業にどのように取り組みましたか」において、「非常に積極的に取り組めた」、「積極的に取り組めた」の合計が83%(2019年度:79%)となった。

3.1.3 担当教員による評価

(1) 授業の様子と学生の反応

ロジックツリーやKJ法、SWOT分析についてGoogle Jamboard(電子ホワイトボード)を使って授業を行ったが、参加学生は熱心に取り組んでいた。問題解決のプロセスについて、Google Jamboardを活用することで、学生の進捗状況が把握でき、画面を共有しながら全体共有するなどできた点が評価できる。

プレゼンテーションでは、自分の問題についてパワーポイントを使って各自発表させたが、フレームワークの見せ方を工夫している学生が多かった(一方、スキルにはバラツキがあった)。また、プレゼンテーションを個人で行われたことにより、責任をもって質の高いプレゼンテーションができたのではないかと評価できる。発表を聴く際には、関心をもって聴いており、フィードバックが活発で充実した内容だった。また、LMSに毎回の授業で書かせた振り返りがしっかり書けていた。全体を通して、関心を持って取り組んでいた様子がうかがわれ、フレームワークと自分の問題を取

り上げたことによって、授業に対する参加意識が高く、学生にとって手ごたえのある授業となった様子が見られた。

(2) 課題

LMSで提供した資料を事前にプリントアウトすることを前提としていたが、準備する学生が少なく、画面共有しながら丁寧に説明するなど、進行には苦勞した。また、通信環境の問題、パソコンのスペック、学生個人のスキルの問題などにより、Google JamboardやPowerPointの使用が困難な学生があり、フォローに苦勞した側面は否定できない。

また、履修者数が20人以上になると、発表等に時間がかかり、授業運営が難しくなる可能性がある。全体として個人で取り組むワークが多く、チームで協働して進めるグループワークが少なく、グループワークを期待していた学生にとっては不満が残ったようである。学生間の葛藤や協同、達成感など味わうような内容が今後あってもよいのではないかとと思われる。

4. 次年度に向けて

2020年度は、新型コロナウイルスの影響により授業内容を急きょ変更し、非対面授業にて開講したことにより、2019年度の報告書に記載した課題に取り組めたとは言えない。しかし、授業を実践していくなかで次の新しい知見があった。

(1) ZoomおよびGoogle Jamboardを活用して授業を行なったことの利点

対面授業と比較して、教員と学生、学生と学生との距離感(コンタクトの容易性)が近く感じられたようである。また、比較的参加意識の高い学生の受講が促され、積極的な参加に繋がったように思われる。

(2) 授業への積極的な参加意識の醸成

(1)に伴い、発言や質問、学生間の議論が活発に行われやすい雰囲気が醸成されたことなどにより、授業に対して積極的に参加することの障壁が低くなったように思われる。

(3) 学生プレゼンテーションの質の向上

グループワークで取り組ませてきた問題解決の方法を応用し、自分ごととして個人の問題に取り組ませたことにより、結果として深く考えさせることができたように思われる。

(4) 明星LMSを活用したことによる利点

授業時間にとらわれず明星LMSにアクセスできる環境が整えられたなかで、各授業回の振り返りを明星LMSに提出させた結果、提出期限に複数回の推敲を行う学生がみられた。

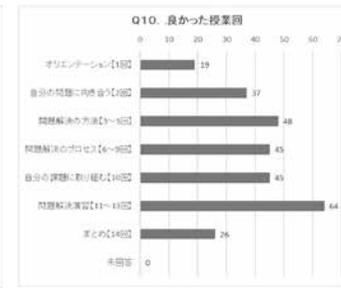
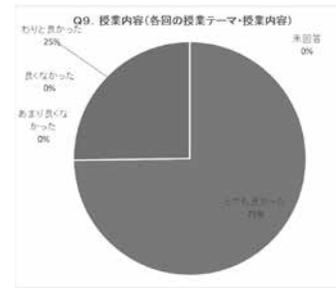
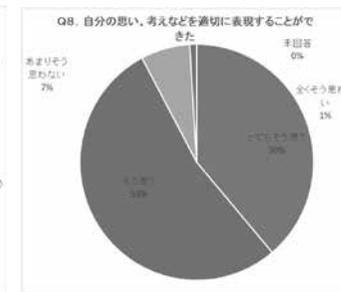
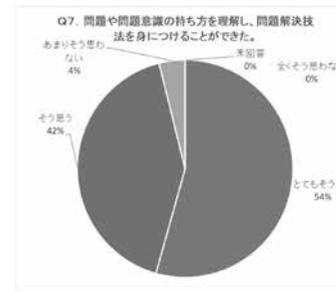
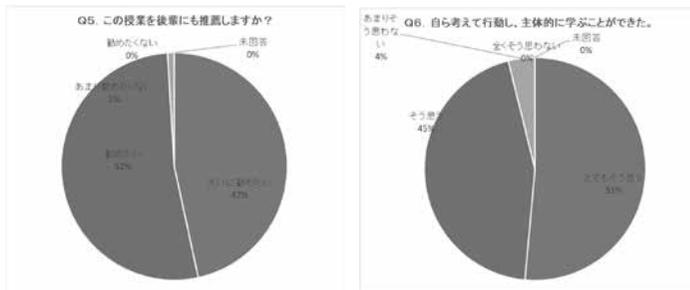
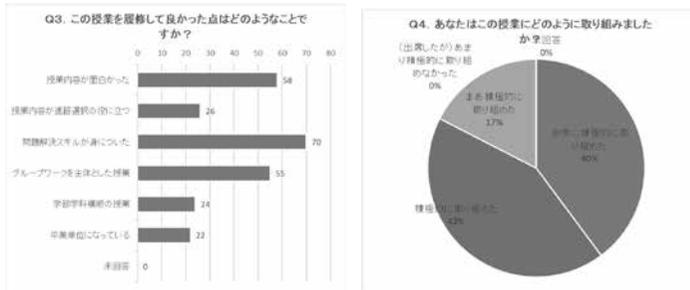
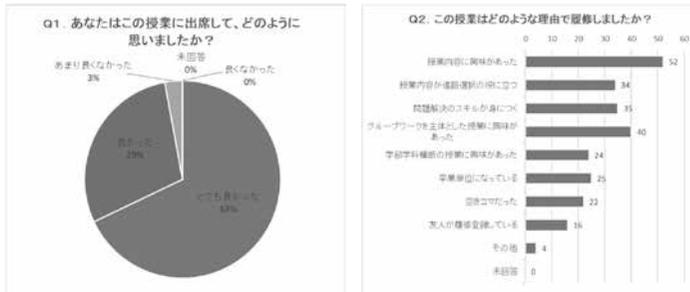
2021年度はオンラインでの実施が決まっているが、上記の4点の効果をさらに大きくしていくための取り組みを行っていきたい。

以上

資料1 非対面授業に伴う授業内容変更点(2020年度)

	授業名(実施)	授業名(シラバス記載)
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	自分の問題に向き合う <大学生生活の振り返り>	社会への関心をもつ
3	問題解決の方法1 <問題解決とは>	問題解決の方法1(問題解決とは)
4	問題解決の方法2 <問題解決の考え方>	問題解決の方法2(問題を見つける)
5	問題解決の方法3 <問題解決を体験する>	問題解決の方法3(課題を探る)
6	問題解決のスキル1 <現状の理解>	問題解決の方法4(解決策を考える)
7	問題解決のスキル2 <原因の特定>	問題解決演習1 (社会の問題を見つける)
8	問題解決のスキル3 <解決策の構想>	問題解決演習2 (社会の問題の課題を探る)
9	問題解決のスキル4 <自分の問題に当てはめる>	問題解決演習3 (社会の問題の解決策を考える)
10	問題解決演習1 <問題解決に取り組む>	問題解決演習4(プレゼンテーションの実践と振り返り)
11	問題解決演習2 <問題解決のブラッシュアップ>	自分に向き合いキャリアを考える1(自分の問題を見つける)
12	問題解決演習3 <プレゼンテーション>	自分に向き合いキャリアを考える2(自分の問題の課題を探る)
13	問題解決演習4 <プレゼンテーション>	自分に向き合いキャリアを考える3(自分の問題の解決策を考える)
14	まとめ <今後の行動を考える>	自分に向き合いキャリアを考える4(プレゼンテーションの実践と振り返り)
15		まとめ(今後の行動を考える)

資料2 授業終了時アンケートの集計結果 (N=103) ※Q2,3は複数回答可



以上

2020 年度「自立と体験4」授業実施報告書

Summary (概要)

- ・本年度は新型コロナウイルス感染症の影響のため非対面で授業を実施し、7クラスで開講した。履修者は90名と昨年度の120名と比べ25%減少した。
- ・単位修得率は94.4%(昨年94.9%)、平均出席率は88.5%(昨年78.9%)であった。
※本年度は、LMSでの課題提出をもって出席と見做した。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により授業回数が13回になったため、教育目標が達成できるように配慮して授業の構成を見直した。また、大学の指針に従い、LMSの活用を基本に、Zoomも併用した非対面型の授業を展開した。
- ・取り巻く環境変化の理解、WEBによる自己アセスメントや経験の振り返りから洞察が深められ、キャリア意識、仕事・職業意欲等の醸成につながった。多くの学生は自分にとってのやりがい、働く意義について理解を深めていたが、自分の生き方や社会に出て働き、貢献できるイメージについてまだまだ考えられない学生もいた。
- ・「働く場や職業の多様性」、「業界や企業研究」「職種研究」及びそれらを深める調査方法を学び、「働く場」の基礎的な部分についての理解を深めた。
- ・現時点での仕事への志向をベースに、多角的に仕事理解を深める目的でジョブインタビューを行った。例年同様、学生からは高評価であった。一方、自粛期間のため、対面でのインタビューが規制されるなど、インタビュー対象者の選定に制約があった。今年度のジョブインタビューが、例年と同じ水準で多角的な学びに寄与したかは疑問が残り、次年度以降の課題と考える。
- ・次年度は、社会的・職業的自立促進科目「自立と体験4」からキャリア形成科目「自立と体験3B」へ変更となる。それを踏まえ、次年度の課題は以下の3点である。
 - ① 明星大学教育新構想に沿っての「自立と体験3B」授業プログラムを再構築する
 - ② 次年度も継続可能性があるオンラインを活用した授業スタイルに合わせて授業目的や授業内容を分かりやすく整理する
 - ③ 自立的に進路を考え、自ら進める態度・思考・行動の育成を図る

1. 授業概要

1.1 教育目標

- (1) 自己実現を目指し、職業を持つ社会人として自立できる能力と意欲を育てること。
- (2) 生涯を通じての継続的な学習意欲と就業力を育てること。
- (3) キャリア教育の最終段階として、具体的に自らの将来像、仕事、就職について考える力と意欲を身につけること。

1.2 行動目標・到達目標

- (1) 自らの課題を設定し、主体的に学ぶこと。
- (2) 就職活動の前提となる意識とスキルを身につけること。
- (3) 社会人の考え方に触れ、働くイメージや就業観を身につけること。
- (4) グループでの話し合いを通じて、自己を見つめ自己表現力を鍛えること。
- (5) 社会人スタートに向け、自ら方向性を見出し具体的な行動への意思が高まること。

1.3 授業内容

本年度はLMSを使用しての非対面での授業進行ではあったが、原則学生に提示したシラバスをベースに自己学習（調査や自己洞察の深耕）での知識の備蓄に努めた

- (1) 取り巻く環境変化理解のため、関連データや参考映像の提示を行った。それらを基に自ら調査の追加や自己の見解をレポートすることにより、単に就職活動期のみならず中期スパンで今後の時代の潮流と自らのキャリアについて考えさせた。
- (2) アセスメントツールの活用や過去の経験から、自らのモチベーションのポイントの理解促進を図り、仕事を選択する際の自己理解促進を促した。
- (3) 働く場の多様性について、視野拡大のために基本的に知るべきことのレクチャーと自己の調査を行うことで、今後 職業選択に向けて自ら行うべきことを整理させた。
- (4) 仕事に関して現段階での興味や関心をベースとして対象者を選定して行うジョブインタビューを通じて、その仕事自体の中身ややりがい苦勞等、リアルに働く実感に触れ、就労観の醸成促進を図った。

2. 実施結果

2.1 開講曜日・時限

3年生前期科目として、明星教育センター特任・常勤教員6名で7クラスを開講した。国際コミュニケーション学科、経済学科、心理学科の3学科は卒業要件単位に認定される科目としている。授業の開講曜日時限は表1の通りである。

表1 開講曜日時限 ()はクラス数

開講曜日時限	教員数	人数	開講曜日時限	教員数	人数
月曜日3限(1)	1名	15	金曜日3限(1)	1名	10
水曜日1限(1)	1名	15	金曜日4限(2)	各1名	26
木曜日2限(2)	各1名	24	全体(7クラス)		90

※履修者人数は、4月22日(月)現在のものである。

2.2 履修者数及び単位修得状況

2020年度の履修者数は、90名であった。昨年度の120名と比べて25%減少した。単位修得率については、履修者90名から全欠席者1名を除いた89名で計算している。学部学科別人数は表2の通りである。単位修得者は84名で、単位修得率は94.4%だった。

表2 学部学科別履修者数と単位修得者数

学部学科名	2020年度		2019年度	
	履修者	単位修得者	履修者	単位修得者
理工学部総合理工学科物理学系	1	1	1	0
理工学部総合理工学科生命科学・化学系	1	1	4	4
理工学部総合理工学科機械工学系	1	1	1	1
理工学部総合理工学科建築学系	0	0	1	1
人文学部国際コミュニケーション学科	28	26	51	50
人文学部人間社会学科	1	1	2	1
経済学部経済学科	47	44	42	41
情報学部情報学科	1	1	1	1
教育学部教育学科	2	2	1	1
経営学部経営学科	1	1	0	0
デザイン学部デザイン学科	4	4	3	2
心理学部心理学科	2	2	6	6
総計	89*	84	115	109
単位修得率	94.4%		94.9%	

2.3 出席率

2020年度は原則として「明星LMS」の課題の提出をもって、授業の出席とした。

2020年度の出席率の平均は88.5%だった。昨年度の78.9%と比較すると9.6ポイント上昇した。最も高かったのは、第1回目の97.8%、最も低かったのは第10回目の79.8%であった。今年度の出席率だけを見ると非常に高い数値だったが、「明星LMS」の課題提出の場合、後日提出されたレポート課題でも出席としているケースもあるため、対面授業での出席とLMS課題提出での出席を、同様に比較することはできないと考えられる。

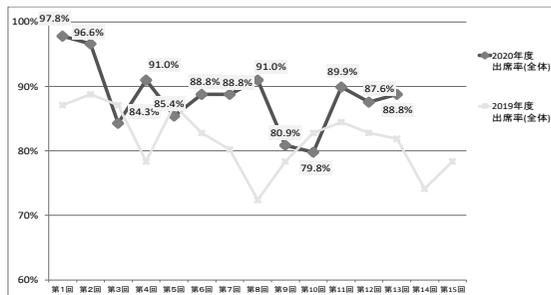


図2 2020年度出席率

3. 授業概況報告

■各回の授業目的に沿っての授業内容と本年度の授業スタイルに照らしての成果と課題をまとめる

授業のねらい	主な授業内容(手法)	概況(成果と課題)
<1-3回> ・オリエンテーション ・現代の「働く環境」「働き方」を考える ・未来の仕事についての視野を広げる	■仕事に関わる「取り巻く環境」を考察 ■それらを考へての多様な働き方とは ・今後すべきことを考へる ※関連資料や指定映像を見て、それらに関連する資料を調査したうえでのレポート提出	(成果) ・単に目先の就活や現状にとらわれず、広い視野で取り巻く環境変化や今後必要とされる能力を俯瞰 (課題) ・WEBでの資料提示により、中途半端な閲覧でレポートに着手している学生も散見された
<4-6回> 【自己理解】 ・現状の自分を知る ・自己の強みや能力について考へる ・仕事の意義について考へる	■多角的に自己理解を深める ※性格やタイプを知るエニアグラムをWEBで実施 ※過去の経験からモチベーションの源泉を知る ※社会人基礎力チェックシートの活用による現状の汎用性ある仕事力を確認 ■「あなたにとって働くとは…」 ※各界で働くひとの記事や資料や画像を提示して ・人生における仕事の意味づけ 「自分が働く意味」を考へさせる	(成果) ・WEBによるアセスメント(エニアグラム)は解説の活用や、メンバー間でLMSでの記述共有を通じて有効 ・また、経験からの自らのモチベーション理解もおおむね自己洞察を深める事が出来ていた (課題) ・社会人基礎力や現時点での自己能力理解についてはやや浅かったり、一部に偏り、社会人スタート準備に向けての行動に移るかは疑問が残る
<8-10回> 【仕事理解】 ・自分の興味関心から仕事を考える。 働くに関する情報収集1・2 <企業研究> <職種研究> ・仕事の中身を知る ・その仕事の特徴を知る	■「働く場」の多様性を理解する ※コンビニエンス等を活用しての職業連鎖や仕事の多様性理解 ■業界や企業研究のポイント理解 ※「働く場」を考へるうえで、何を考へべきか、どのように調査するかを理解促進 ■職種研究 ※実際の仕事内容や求められる能力についての理解促進	(成果) ・働く場の多様性については、日頃意識しない業種や会社等への関心の幅を広げられた。 ・企業調査の仕方のツールや手法の理解促進が出来た (課題) ・企業に関する調査項目について関心が処遇など目先の関心から離れられない学生もいる ・このタイミングでは関心ある業種や職種からのアプローチに依らず広く仕事を知る必要性もある点は今後検討
<7.11-12回> 【自分の興味関心から仕事を多角的に考へる。】 ・ジョブインタビュー1・2 ・自分の仕事観やアピールができる	■ジョブインタビューを通じての就労観の醸成 ・現状、自らの志向をベースにターゲット(インタビューを行う対象者の選定) ・対象者へのアプローチと依頼 ・ジョブインタビュー内容の検討 ・インタビューの実施 ・インタビュー内容の整理と自己の学びを考へる ・メンバーへの発表 ・ジョブインタビューに対する振り返り	(成果) ・発表がWEB上ではあったが、PowerPointの活用等の工夫が見え、またチャット等を通じてクラスメンバーからの意見や質問を通じて、違った仕事についての関心も深まったという点である (課題) ・対面インタビューに制限があった為、対象者の選定やインタビュー内容が例年に比べてやや浅くなっていたメンバーが多かった
<13回> 【総まとめ】 ・今後の方向性を考へる ・アクションプランを作成する	■今までの学びをベースに再度「したいこと」「出来る事」「すべき事」についての再整理 ※今後、自らの価値を高めるために、そしてまず卒業後の働く場を確定させるためにすべき事を具体的に記述 ◇クラス人数により、この回もジョブインタビューの発表に使用し、総まとめは解説のみを行いLMSのレポートの提出としたクラスもある	(成果) ・ZOOMを活用してのメンバー間の意見交換は、回を追う度に活性化され、「これからすべき事」に対して相互に気づきが増えていた。 (課題) ・例年同様、一部の学生は抽象的な内容や精神論的な内容となっており、今後の行動喚起につながるか不安

4. 次年度に向けて

次年度の授業実施に向けて、下記の 3 点について今後検討をしていきたい。

(1) 明星大学教育新構想に沿った「自立と体験 3B」授業プログラムを再構築する

現在進行中の体系的キャリア教育としての「自立と体験 3B」の位置づけと並行し、明星大学教育新構想にある垣根を超える学習「クロッシング」及びウィズコロナ低移動時代を意識してのプログラムを明星教育センター内での議論をベースにプログラム改訂を検討する。

(2) 次年度も継続可能性があるオンラインを活用しての授業スタイルに合わせて授業目的や授業内容を分かりやすく整理する

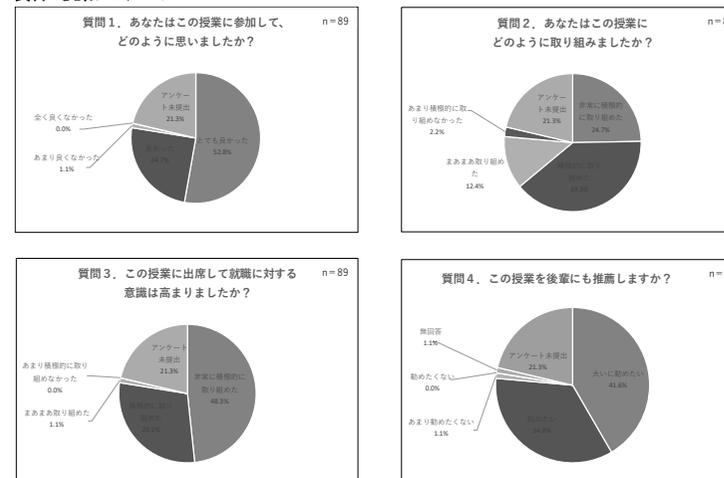
対面授業と非対面授業の併用をベースに LMS の課題等での学びが、有機的につながるような工夫促進や、課題数は減らしても、焦点を絞って、じっくり考える、取り組むという要素等を検討する。

(3) 自立的に進路を考え、自ら進める態度・思考・行動の育成を図る

直近の就職活動が社会を取り巻く環境変化に伴い大きく変容する事が見込まれる中、「個々のメンバーが少しでも自ら納得性の高いスタート地点に立てる」ために自ら何をすべきかを考え且つ行動できるための仕掛けを検討する。

以上

資料：授業アンケート



質問(1) あなたはこの授業に参加してどのように思いましたか？(理由)

- ・就活やこれからの人生について見つめなおし、考えるきっかけとなったため
- ・就職について考える時に、何を調べたり、どんなことを考えるべきかのヒントを得られた。自力だけだと、深く考える機会は無かったと思う。
- ・初めてのオンラインであったが他の授業に比べて比較的不便なく授業ができたと思ったから。また就活における不安を解消できるような活動が出来たと思ったから。
- ・就職活動に向けて何をすればよいか、わからなくて不安だったが、今の時代に、社会に求められる人の特徴などが分かり、それに向かって、自分を成長させようと思うようになったいい機会であったため。

質問(2) あなたはこの授業にどのように取り組みましたか？(理由)

- ・各回のワークシートなどにもしっかりと内容を考えてながら積極的に取り組めた。
- ・レポートも分量や考察の量を意識して、毎回書けた。しかし、毎回の発表ではあまり積極的にはいえなかったと思ったので、「非常に」とはいえないかなと感じた。
- ・就活に対しては真面目に取り組むたいと思っていたため、課題や授業は比較的真剣に取り組んでいたと思う。就活やこれからの人生について見つめなおし、考えるきっかけとなったため

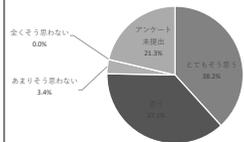
質問(3) この授業に出席して就職に対する意識は高まりましたか？（理由）

- ・授業はじまる前は、仕事について知識もないし、働くことにあまり意味を持たなかった。社会人のメッセージや、ジョブインタビューをして仕事との意識が変わりました。
- ・授業として職業について調べる時間が与えられたため、自分からも行動しなくてはならない気持ちが生えてきた。
- ・自分を見つめなおすことで自分の長所や短所が具体的に理解でき何をすべきか考えることができた。

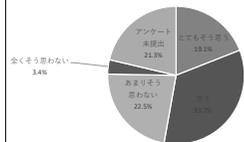
質問(4) この授業を後輩にも推薦しますか？（理由）

- ・自分で調べるだけでは得られないことを知れて、また、同じような状況の学生と関わることで情報はもちろん心境なども共感できる場所があり、良い交流の場となったと感じたため。
- ・自分の事すらまともに認識できていなかったが、私自身、自身の強みや思考の方向性などについて考えて理解していたつもりであった。なのでその自己意識を見直すためにも履修することをお勧めしたい。
- ・なかなかジョブインタビューをする授業は他にないと思うし、直接自分のやりたいお仕事と向き合えるのでとてもいい授業です。

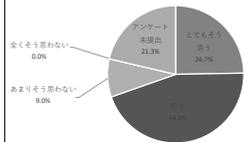
質問5. 授業を通して自分の生き方考えるきっかけになった（1つ選択） n=89



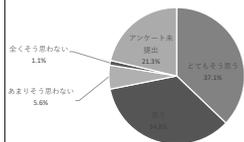
質問6. 自分が社会に出て働き、貢献するイメージが持てた（1つ選択） n=89



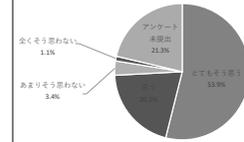
質問7. 社会に出て働くことの中に、楽しさを見つけることができた（1つ選択） n=89



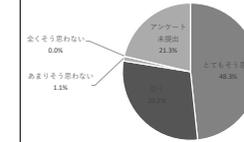
質問8. 様々な仕事について理解が深まった（1つ選択） n=89



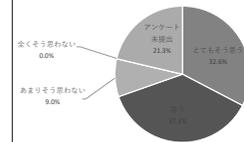
質問9. 自分にあった仕事を探したいと思うようになった（1つ選択） n=89



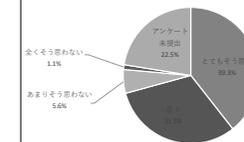
質問10. 自分で考えて行動し、判断することの大切さが理解できた（1つ選択） n=89



質問11. 自分にとってのやりがいや働く意義ははっきりした（1つ選択） n=89



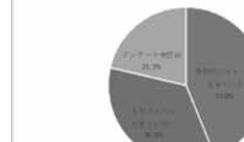
質問12. 自分自身について新たな発見があった（1つ選択） n=89



質問(13) 伸びたと思うスキルについて教えてください。（自由記述）

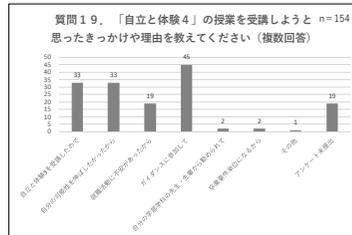
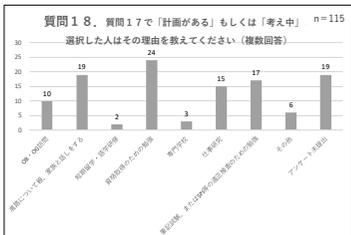
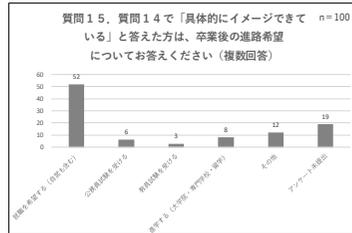
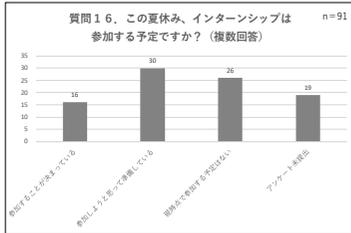
- ・実行力:他の授業でレポート課題の提出などで余裕を持って提出したり、自身で決めていたことを実行できたりしたから。
- ・相手のプレゼンに、多く質問できるようになった。zoomだからというもあるかもしれないが、その人の話す内容が広がるような質問は何かを考えて質問できるようになった。
- ・他の人に自分の意見を分かりやすく伝えようと工夫すること
- ・自己分析・情報収集能力
- ・一つのことに対して深く調べようとする態度や意識

質問14. 卒業後の進路について教えてください n=89



質問17. この夏休み、インターンシップ（仕事研究のためのアルバイトも含む）以外で就職活動のために計画していることはありますか？ n=89





質問(20) Zoomの授業の感想について教えてください。

- 発表などが少し大変だったがZoomでも問題なく進行で来ていたと感じる
- 授業内容の満足感と交通費削減の面に関してとても良かった。ただ気軽に質問をできる時間がないのでそこだけ惜しい。
- 初めてのzoomの授業でしたが非常に分かりやすく、やりやすかったです。おそらく大学で授業をしていたらもっと理解が深まっていたかもしれないですが、zoomでも自分の将来を考えられるように取り組めたと思います。
- 直接会ってなにかを感じることができなかったのですが、zoomでできる範囲でうまくできたと思う!
- 対面よりもやりにくい部分がありました。しかし、時代が変化してオンラインが当たり前になるかもしれないことを考えると、慣れるしかないのかと思っています。
- 他人の雰囲気を感じづらく、やりづらかった。環境が整ってないと厳しいものがある。LMSだけで授業する教科や先生よりは、Zoomを使うほうが良い。
- この先の授業や就職活動においてもZOOMを使うことは増えると思うので、オンラインで人と関わることの慣れに繋がりました。

質問(21) 「自立と体験4」の授業について改善点や要望(こんな内容を入れて欲しい等)があれば教えてください。

- 今回はオンラインだったので無理だと思ったが、将来対面が開始された時に備えて、リクルート会社などの人の話を聞いてみたいと思った。
- 個人的に授業内容がハードに感じました。特にまだ進路を本格的に考えていない人は、なかなかついていけない人もいられるかもしれません。現実的ではないかもしれませんが、初回の時点でどの程度進路について考えているかでクラス分けをして授業をするとうまいのではないかと考えました。
- 自らがインタビューをして発表するのがメインだったと思うが、一回くらい先生が社会人を呼び、色々な質問をする回があってもジョブインタビューをする上で良いのかなと感じた。
- 1つの題材を決めて、グループディスカッションとかがあると、自分的には良かった。
- 就職活動の一環として、ガクチカを実際で作ってみるという内容を取り入れていただけたら幸いです。

「自立と体験4」全体を振り返り、学んだこと、考えたこと

- 仕事や働く前に、その会社が自分とあっていること、会社のことをよく知ることが本当に大切だということを知った。自分のやりたいことと、その会社の方針が合っていること。自分を知る、会社を知る。そこから始まると気づきました。また10年後、その会社があることなど、社会の動きも見ていくことも大切なんだと学びました。
- 今までは会社に就職するということばかり考えていたがそれだけでなく会社に就職するために自己分析をし、様々な業界や業種など情報を分析し、比較しながら自分に合う仕事を見つけることが大切だと学んだ。
- 自分自身が就職活動について考え方が深まりました。例えばジョブインタビューでは、普段聞かないことやアドバイスをもらい、どのような人材が求められているのかなど聞いたのでとても為になりました。
- 自分に何が足りなくてどこを強みとしてやっていけばいいのか分かった。また自分がどのようなことをしたいのかという再確認にも繋がった
- 私はこの自立と体験4の授業で、これからの就職活動において必要となってくるスキルをたくさん学ぶことができましたが、その中で"妥協しないこと"の大切さも再認識できた気がします。毎回のレポートやジョブインタビューを自分のために繋がると思い、妥協せずに取り組んできたつもりです。内容を充実させることは大変でしたが、しっかりと取り組んだ分評価をいただけ、頑張ってよかったと思えました。

2020年度「キャリアデザインA」授業実施報告書

Summary (概要)

- 今年度の「キャリアデザインA」は、オンライン授業実施となったが、授業内容および、講義・個人ワーク・グループワークで進める授業方法は大きく変更することなく、予定通りの授業を実施することができた。オンライン授業実施に伴い、①LMSでの事前課題実施、②オンライン授業（Zoom）、③LMSでの振り返り記入で実施し、オンライン授業参加と振り返り記入をもって、出席と認定する方法を取った。また事前課題の実施、ブレイクアウトセッションでのグループワーク、ジャムボードの活用、チャットによる全体共有等により、対面に近い形で、学生同士の交流を図った。
- 実施結果としては、1クラスで開講し、全欠席者を除く履修者は48名（2019年140名、2018年76名）、平均出席率は87.4%（2019年79.2%）、単位修得率は91.5%（2019年80.7%）であった。出席率、単位修得率ともに、高い数値となった。
- 終了時アンケートでは、授業の到達目標達成である、意識の醸成、キャリアデザインに関する知識・方法の獲得、学習内容の日常生活での活用は95%以上の学生が肯定的に回答し、オンライン授業であっても昨年以上の数値となった。「授業に出席してよかった」「この授業を後輩に推薦したい」に肯定的に答えた学生も、ともに95%以上であり、満足度も高かった。
- 今年度の特徴としては、「役に立ち、スキルが身に付く授業だった」という意見が多かった点である。LMSや事前課題を活用した授業であったこと、講義や個人検討についてはオンラインやLMSで集中して取り組むことができたことにより、知識・スキルの修得という点に関して学生の学習実感が高くなったと考えられる。
- 学部学科や学年の異なるメンバーとの話し合いの効果については、例年同様学生の評価が高かった。対面が良いという意見もあったが、多くの学生がオンラインでの授業参加方法を工夫し、グループワークを楽しんでいた。
- 次年度もオンラインでの実施となる予定であり、今年度トライアルとして実施したオンライン授業を、さらにブラッシュアップし、実践していくことが必要である。

1 授業概要

1.1 教育目標

- (1) キャリアデザインの理論学習に基づき、キャリアの考え方を知る
- (2) 個人ワーク、グループワークを行い、自身の勤労観・職業観を育成する
- (3) 社会に出て働くことのような側面について知る

1.2 行動目標・到達目標

- (1) 卒業後に社会人として活躍していくために必要な意識が醸成される
- (2) キャリアに関する知識や理論を学び、自身のキャリアを考える方法が身につく
- (3) キャリアについての考え方を、他者に説明できる

1.3 授業内容（前年度からの変更点）

2020年度の「キャリアデザインA」はオンラインでの実施となったが、授業内容および、講義・個人ワーク・グループワークで進める授業方法は大きく変更することなく、予定通りの授業を実施することができた。実施にあたって変更・工夫した点は以下の通りである。

(1) 新しい授業内容の追加

シラバス作成時からの変更点として、キャリアデザインに関する新しい理論を取り入れた。第11回「ナ

ラティブアプローチで考える」である。

なお、全14回での授業実施となったことから、第14回ダイバーシティは割愛した。

(2) オンライン授業実施上の工夫

- ・授業は、①LMSでの事前課題実施、②オンライン授業（Zoom）、③LMSでの振り返り記入で実施し、オンライン授業参加と振り返り記入をもって、出席と認定する方法を取った。また事前課題を実施することにより、オンライン授業では主にグループワークに時間を使う構成とした。
- ・オンライン授業では、ブレイクアウトセッションでのグループワーク、ジャムボードの活用、チャットによる全体共有等により、対面に近い形で、学生同士の交流を図った。
- ・授業教材や講義部分の動画は必要に応じてLMS上で共有し、オンデマンド授業の長所を活用しながら授業を行った。通信環境の関係でZoomに参加できなかった学生には、講義部分の動画視聴により出席として取り扱った。

2 実施結果

2.1 開講曜日・時限・設置クラス等

1クラス開講（後期金曜3限）とし、2名の教員による分担で実施した。また明星高校の教諭3名がオブザーブとして参加した。

オンラインでの授業実施に伴い、SAは導入しなかった。

2.2 履修者数

履修者数は48名（2019年度140名、2018年度76名）となった。2019年度の履修者数が140名だったため、履修登録の上限を100名としたが、4月の登録者数も57名にとどまった。詳細は以下表1の通り。履修者48名中、14回全欠席者1名を除いた実履修者数は47名である。47名の学年別内訳は、1年23（84）名、2年21（20）名、3年3（28）名、4年0（3）名であった（括弧内は2019年度人数）。

表1 履修者の詳細

学部学科	1年	2年	3年	4年	合計
理工	物理				
	機械工学	1			1
	生命科学				
	電子電気				
	建築				
人文	環境科学				
	国際コミュ		15	2	17
	日本文化				
	人間社会	2	15	2	19
福祉実践	2				2
情報					
経済	4	3			7
教育	1				1
経営	7	3			10
デザイン			1		1
心理	8				8
合計	23	21	3	0	47

※ 網掛けのセルは、学科科目としての単位認定を行っている学部学科と該当学年。

本科目は自由科目であるが、2019 年度 2020 年度入学の国際コミュニケーション学科、福祉実践学科、経済学部、経営学部、デザイン学部、心理学部および、2018 年度以前入学の国際コミュニケーション学科、心理学部は、科目の読み替えを行っているため、卒業単位に認定される。単位認定される学部学科の実履修者は 44 名で実履修者の 93.6% (2019 年度 79.7%、2018 年度 52.5%)、それ以外の学部学科の実履修者は 3 名であった。

2.3 出席率

Zoom 授業の平均出席率は 87.4% (2019 年度 79.2%、2018 年度 73.0%) であった。最高は 95.7% (第 3 回)、最低は 78.7% (第 6・7・13 回) であった。出席率の詳細は表 2 参照。

例年に比べて高い出席率となっているが、オンラインでの実施であり、そのまま比較することは難しい。学生にとってオンラインでの授業が出席しやすかった、または非対面授業の中でオンライン型の双方向の授業に参加しようという意欲が高かったという可能性が考えられる。

表 2 出席率

1 回	2 回	3 回	4 回	5 回	6 回	7 回	8 回	9 回	10 回	11 回	12 回	13 回
91.5	91.5	95.7	89.4	91.5	78.7	78.7	85.1	91.5	87.2	85.1	91.5	78.7

※第 14 回は Zoom 授業を実施しなかった。

2.4 単位修得率

単位修得者は 43 名で、全欠席者を除く単位修得率は 91.5% (2019 年度 80.7%、2018 年度 75.4%) であった。出席率と共に高い単位修得率となった。

3 授業評価

第 14 回の LMS で、今後の授業改善のための終了時アンケート (記名式) を実施した。回答率は 66.0% (31 名) (2019 年度 50.0%、2018 年度 51.3%、ともに第 15 回授業内で実施) であった。アンケートをもとに学生による授業評価を見ていく。

3.1 教育目標の達成

行動目標・到達目標に関し、達成度を 4 件法で尋ねた。

Q6「キャリアに関する知識や理論を知り、自分のキャリアを考える方法が身についた」に「4: とても思う」「3: そう思う」と肯定的に答えた割合は 100% (2019 年度 84.2%) であった。同様に肯定的な回答は Q7「社会に出て働くことの様々な側面について理解し、卒業後に社会人として活躍するために必要な意識を育成することができた」96.7% (2019 年度 91.5%)、Q8「授業で学んだ知識を他者に説明したり、日常生活で活用できるようになった」96.7% (2018 年度 84.2%) となった。

Q7、Q8 の傾向は昨年と特段大きな変化はないが、Q6 については全員が肯定的に回答する結果となった。非対面授業では、知識や理論を知るといった点について、学生が学習実感を高く感じる可能性がある。

3.2 学生の満足感・反応

(1) 学生の受講満足感

Q1「この授業に出席して、どのように思いましたか」は 96.8% (2019 年度 98.5%)、Q5「この授業を後輩にも推薦しますか」には 96.8% (2018 年度 95.7%) が肯定的に回答し、オンラインでの授業であっても、授業に対する満足度は非常に高かった。

「とても良かった」と回答した学生たちは自由記述欄に「コミュニケーション力が高まった」「これからの人生のさまざまな場面で役に立つ知識を得ることができた」「これからについて真剣に考える機会を頂いたと同時に、オンライン授業という環境の中でも人脈をつくることができた」「違う学年の人と話すこと

ができた」など満足感を感じられる記載をしている。後輩に進める理由としては、「役に立つ」という記述が多かった。

また、Q2「どのような理由で履修しましたか」と Q3「この授業を履修して良かった点はどのようなことですか」を比べると、「授業内容の面白さ」「将来の役に立つ」「スキルが身に付く」「グループ活動」「学部学科混成」のすべての項目で履修理由の回答者数を履修してよかったと感じた回答者数が上回っており、この授業が学生の期待に応えられたと考えられる。「授業内容が将来の役に立つと思った」の回答率は 67.7% (2018 年 44.3%) であった。昨年回答した学生が少なかった「授業を通していろいろなスキルが身についた」は 41.9% (2018 年 28.6%) となり、2020 年度の授業においては、「スキルが身に付く役立つ授業」という評価が得られた。非対面での授業実施により、グループワークと共に個人での学習に意識が向いた可能性もある。

(2) 授業に対する取り組み

Q4「この授業にどのように取り組みましたか」は「非常に積極的に取り組めた」「積極的に取り組めた」が 80.6% (2018 年度 75.7%)、「まあまあ取り組めた」は 19.4% (2018 年度 29.2%)、「(出席したが) あまり積極的に取り組めなかった」と回答した学生はいなかった。「非常に積極的に取り組めた」「積極的に取り組めた」と回答した者の自由記述には、グループワークで発言できた、司会役ができた等を上げている学生が多い。課題への取り組みや事前ワークへの取り組みを挙げた学生は、それぞれ 1 名ずつだった。一方、「まあまあ取り組めた」と回答した者も、グループワークでの行動を取り上げている。

(3) 授業内容・進め方について

Q9「授業内容」(各回の授業テーマ・授業内で取り上げた理論の内容や量・教材)、Q11「授業の進め方」(各回の授業構成・グループワークの内容・時間配分等) はともに、全員が「とても良かった」「良かった」と肯定的に回答した。特に授業内容については、54.8% が「とても良かった」を選んでいる。

Q10「良かった授業回 (複数回答)」では、「第 8 回モチベーション」は 67.7%、「第 9 回働く上でのストレス」は 58.1%、「第 10 回アサーション」は 48.4%、「第 12 回自分の働き方を考える」は 45.2% の学生が選択している。回答数の多い授業の傾向は昨年と同様だが、2019 年度最も回答率が高かったのが「モチベーション」の 47.1% であったので、2020 年度は学生の回答数が大きく増加している。

Q12「良かった授業の進め方」は、「グループワーク (話しあい)」64.5%、「アイスブレイク」58.1% の学生が良かったと答えており、話し合いに対する評価が高い。グループワーク (ジャムボード等を使っての共同作業) は 38.7% だった。ジャムボードについては、他者と意見を共有しやすい有効なツールという意見と、難しい、インターネット環境によっては使えないという否定的な意見に分かれた。講義 (理論・概念・情報など) は 38.7% で 2019 年度の 24.3% と比較して増加しており、ここでもオンライン授業の特徴が見える。

以上、授業内容、進め方については、オンライン授業となっても、昨年以上に学生から高い評価を得ることができた。「対面が良かった」という意見もあったが、学生たちはオンライン授業に慣れ、多くを学び、オンラインでの交流を楽しんでいた様子であった。

3.3 教員から見た授業評価

(1) 学生の様子

担当教員から見ても、学生アンケートの結果通り、学生たちは授業内容に興味を持ち、演習等にも積極的に取り組んでいた。Zoom のブレイクアウトセッションで毎回異なるメンバーとグループになることは、学生にとって負担もあったと思うが、自分なりに工夫してよい話し合いを行おうと努力している様子が見られ、同時にその努力が学習の満足度にもつながったと考えられる。反面、メンバーの組み合わせによっては話し合いが上手くいかないこともあり、オブザーブの教員が参加したグループが「今日は先生がいて

くれたので、今までで一番話し合いが上手くいった」という感想を振り返りレポートに記入することもあった。

アンケートでは、「固定グループがいい」という記述もあったが、多くの学生がグループワークに苦労しながらも、異なる学部学科や学年のメンバーとの交流を楽しんでいたことは印象深い。明星教育センターの授業として、ある程度のクラスサイズで、学部学科学年混合の授業を実施することが、学生のニーズに応えることになったことが分かる。学生アンケートでも「将来に必ず役立つことを、他学年他学部の人と考えることができるとても参考になりました」という記述がある。

(2)授業内容と進め方

今年度の授業の進め方の大きな変更点は、毎回の授業の最後に、次回の授業について説明し事前課題を課した点である。事前に授業で取り上げる内容について準備しておくことが、学生たちの授業の取り組み姿勢を高めた可能性がある。個人で自分のペースで考えることにより、理解度も高まったと考えることもできるだろう。

グループワークについては、「習っている内容は大学生レベルかもしれないが、グループでの話し合いになるとそれ以下のレベルになってしまう」「グループワークの時間が短い」等の意見があった。時間配分やオンライン授業の制約があり、グループワークでの成果等をクラス全体で発表する機会は、殆ど取れなかった。事前課題や個人検討した内容をグループで共有するというワーク指示だけでは、オンラインの場合メンバーによって活力度にばらつきが出てしまう。何らかの成果物やお互いにコメントし合うなど、グループワークのゴールを明確にすることで、さらに良いグループワークが行えると考える。

(3)昨年度の課題への取り組み結果

2019年度の報告書では、次年度の課題として、①グループワークの質を高める働きかけの継続、②SAの活用、③時間配分の見直し（大人数授業に適した運営の検討）を挙げていた。

①に関しては、ブレイクアウトセッションでのグループワークのため学生の様子が見られないというマイナス要素があったが、事前課題により個人で思考する時間を確保する、ジャムボードを活用しグループワークを見る化する等の取り組みを行った。

②のSAは今年度は導入しなかったが、複数教員体制、オブザーブ教員の参加があり、運営上ではSAの役割を果たすことができた。

③の時間配分の見直しについては、Zoomのブレイクアウトセッションの活用により対面授業よりもグループ分けが容易だったため、授業開始までの時間が短縮でき、比較的余裕を持った授業運営が行えた。一方学生アンケートには、前述の通り、グループワークの時間が短かったという記述が複数あり、「もっと話したい」という学生にとっては、物足りないこともあったようであり、この点は改善が必要と考える。

4 次年度に向けて

4.1 オンライン授業のブラッシュアップ

今年度は、前期の授業実践を踏まえて、より良いオンライン授業を実施するためのトライアルという位置づけとなった。全体として学生からの評価も高く、よい授業実践が行えたと言えるだろう。来年度も引き続きオンラインでの授業を実施するにあたり、より質の高いオンライン授業のための、プログラム、授業の進め方のブラッシュアップが必要となる。今年度の学生のアンケート結果も参照しながら、授業改善に取り組んでいきたい。

添付資料：1. 授業実施内容一覧

2. 終了時アンケート結果詳細

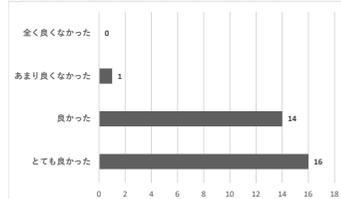
資料1 2020年度「キャリアデザインA」授業内容

回		授業名	主な内容（ワーク）
1	鈴木	オリエンテーション	・オリエンテーション ・授業の進め方練習（ブレイクアウト・チャット）：「キャリア」が付く言葉を考える・「キャリアデザイン」を定義する
2	鈴木	さまざまな働き方	・「仕事」「働くこと」からイメージすること・目的から見る仕事の3つの側面・労働（職業）価値観尺度 ・授業の進め方練習（ブレイクアウト・チャット・ジャムボード）
3	高橋	ライフステージとキャリア	・身近な大人の人生の役割を考える（ライフアルバム） ・あなたの人生の役割を考える（現在から将来へ）
4	高橋	人の生涯に関わる発達	・人の一生における発達を考える・大学入学後の私の変化
5	鈴木	パーソナリティ	・エゴグラムによる自分理解・パーソナリティの特徴をつかむ（長所と短所・短所のリフレーミング）
6	鈴木	コンピテンシー	・自分のなりたい職種に特徴的な「できる人」の条件・汎用能力をセルフチェックする（社会人基礎力【明星大学 Ver.】）
7	高橋	意思決定	・私の意思決定プロセスの分析・ケーススタディ：進路選択に悩む友人へのアドバイス
8	高橋	モチベーション	・モチベーションの高い人の行動や考え方・モチベーションのもとを探そう（モチベーションをあげるためにできること）
9	高橋	働く上でのストレス	・あなたのストレス対処方略（コピング）を知ろう・あなたのサポーターを知ろう・私のストレス分析シート
10	鈴木	アサーション	・アサーティブな表現とは・アサーションに影響する考え方のクセ・アサーティブな伝え方（私メッセージ）
11	高橋	ナラティブアプローチで考える	・過去の経験を振り返る・今の自分を見つめなおす ・大きな夢（キャリアの方向性）を描く 【最終レポート出題】
12	鈴木	自分の働き方を考える	・働き方に関する情報やキャリアの2つの側面を知る ・内的キャリアを考える（キャリアアンカー） ・外的キャリアを考える
13	鈴木	今後の計画を立てる	・目標と計画の立て方 ・これからの計画を立てる
14	高橋	働く若者を取り巻く社会環境	・データの見方（練習） ・データから考える

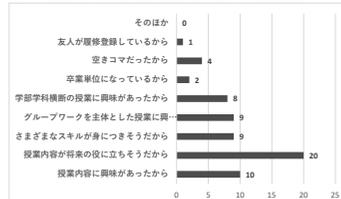
資料2 2020年度「キャリアデザインA」終了時アンケート

履修者47名中31名回答

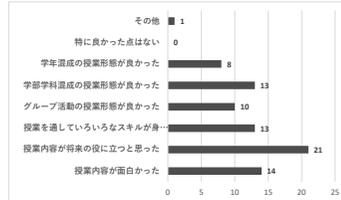
Q1.あなたはこの授業に出席して、どのように思いましたか



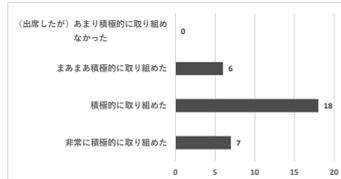
Q2.この授業はどのような理由で履修しましたか？（複数回答）



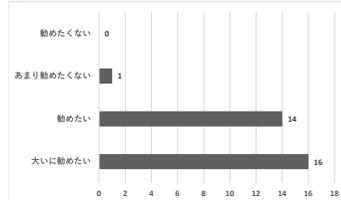
Q3.この授業を履修して良かった点はどのようなことですか？



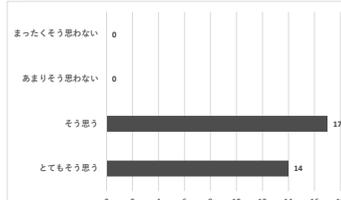
Q4.この授業にどのように取り組みましたか



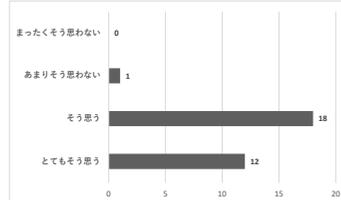
Q5.この授業を後輩にも推薦しますか？



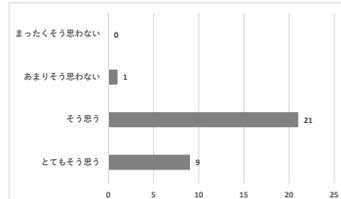
Q6.キャリアに関する知識や理論を知り、自分のキャリアを考える方法が身についた



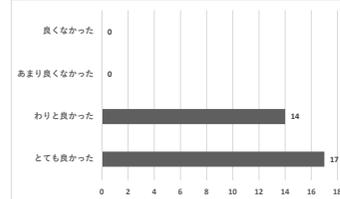
Q7.社会に出て働くことのような側面について理解し卒業後に社会人として活躍するために必要な意識を育成することができた



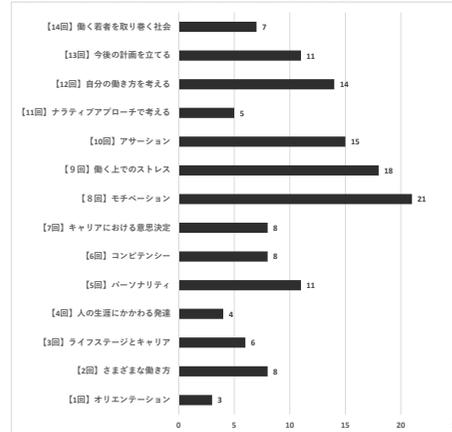
Q8.授業で学んだ知識を他者に説明したり、日常生活で活用できるようになった



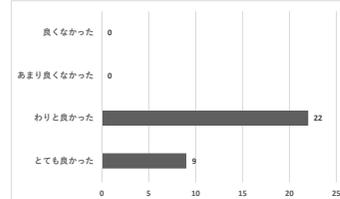
Q9.授業内容（各界の授業テーマ・授業内で取り上げた理論や内容や量）



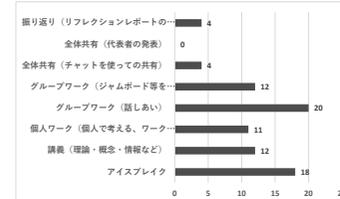
Q10.授業内容（各界の授業テーマ・授業内で取り上げた理論や内容や量）



Q11.授業の進め方(各回の授業の構成、グループワークの内容、時間配分等)



Q12.良かった進め方すべてを選んでください



2020年度「キャリアデザインB」授業実施報告書

Summary (概要)

- ・本年度は新型コロナウイルス感染症の影響のため非対面で授業を実施し、3クラスで開講した。
- ・履修者は76名と昨年度の27名と比べ大幅に増加した。「キャリアデザインB」は2年次以降に修得ができる自由科目であるが、今年度は卒業単位認定の対象となる学科が拡充されたため、履修者の大幅増につながったと考えられる。
- ・単位修得率は88.7%（昨年96.3%）であり、平均出席率は86.6%（昨年86.7%）であった。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により授業回が14回になり、授業構成を一部見直した。授業運営は、Zoomを中心としながら明星LMSも併用し非対面の授業を展開した。
- ・終了時アンケートによると、98.3%以上の学生が行動目標・到達目標を達成したと考え、学生の受講満足度も高かった。
- ・今年度の金融の専門家からの課題では、理想のライフスタイルを話し合い、90歳までの生涯収支試算表をグループで作成するワークを実施した。また、法律の専門家からの課題では、働き方改革から項目の一つを選び、それらを推進するための施策を考えるワークを実施した。どちらも学生にとって難易度の高い課題であったが、自分達の将来に役立つ知識と捉え熱心に取り組んでいた。
- ・専門家から学ぶ2つのテーマ（自分を守る法律・人生に関わるお金）に対する学生の評価は高かった。中でも「ブラックバイトの問題」については関心が高く、自分ごととして考える学生が多かった。
- ・本年度のオンライン授業では、全員の学生がExcelやPowerPointを使って課題を提出するなど従前からの課題であったOAスキルのばらつきが一部解消された面が見られた。一方オンライン授業の課題としてグループ間の関係性構築までに時間がかかり、話が膨らみづらく議論が難しいと感じる場面も見られた。
- ・次年度の課題として、授業内容の更なる充実や授業の進め方についての再検討が挙げられた。

1 授業概要

1.1 教育目標

社会で直面する問題についてのケースワークを行いつつ、チーム活動で多様な考えにふれ、勤労観、職業観を育成するとともに、社会で働く上で必要な基礎的知識を学ぶ。

1.2 行動目標・到達目標

- (1) 生きていく上で必要な、働くに関する法律、労働問題、お金についての基本的な考え方、姿勢を身につけること
- (2) 各課題について、チームで自律的に学習することにより、主体性、当事者意識、現実的対応力を身につけること

1.3 授業内容

授業内容は、表1の通りである。本年度は非対面のオンライン授業のため主にZoomで授業を実施し、明星LMSで事前学習や振り返りをさせ、授業を展開した。前年度からの変更は以下の通りである。

- (1) 中盤以降の2名の専門家へのプレゼンテーションに備えて、導入段階に関連するテーマについて調査・発表する機会を設けた。
- (2) 冒頭で学生に「幸せな人生や理想の働き方」を考えさせ、その後現実的対応力として「人生に関わるお金」「働く上で知っておきたい法律や労働」と順を追って当事者意識を持ち課題に取り組めるような流れに変更した。
- (3) 第3回第4回「新しい時代の働き方の変化」については、こちらが提示した新聞記事を基に自由に「問いづくり」をするワークを取り入れ、自ら関心を持ったことを主体的に調査する流れで構成した。
- (4) 金融の専門家からの課題では、グループで理想のライフスタイルやライフイベントを話し合い、それに伴う実際の収支を調査させ、90歳までの生涯収支試算表を作成するワークを実施し発表した。
- (5) 法律の専門家からの課題では、働き方改革の中から項目の一つを選び、それらを推進するための施策を考えるワークを実施し発表した。

なお、授業の出席に関しては、Zoomの授業参加およびLMS課題の提出をもって出席とし、2名の専門家に向けた課題提出とプレゼンテーションへの参加を単位条件とした。

表1「キャリアデザインB」授業内容一覧（2020年度）

回	授業内容	授業形態
1	オリエンテーション（授業全体の概要・取り組み方）	LMSのみ
2	働くことの意義について考える	Zoom,LMS
3	新たな時代の働き方について（調査）	Zoom,LMS
4	新たな時代の働き方について（発表）	Zoom,LMS
5	専門家から学ぶ（金融の専門家からの講義）	Zoom,LMS
6	働き方や人生に関わるお金について調査し、理解を深める	Zoom,LMS
7	働き方や人生に関わるお金についてまとめ、整理する	Zoom,LMS
8	プレゼンテーション（専門家論評）	Zoom,LMS
9	法律と労働に関わることについて事前調査する	LMSのみ
10	専門家から学ぶ（弁護士による講義）	Zoom,LMS
11	法律と労働に関わることについて調査し、理解を深める	Zoom,LMS
12	法律と労働に関わることについてまとめ、整理する	Zoom,LMS
13	プレゼンテーション（専門家論評）	Zoom,LMS
14	総まとめ	Zoom,LMS

2 実施結果

2.1 開講曜日・時限・設置クラス等

2020年度は3クラス開講（後期金曜4限）、3名の教員で実施した。

2.2 履修者および単位修得率

後期の履修訂正期間を経て、履修者数は76名（内全欠席者5名）となり、昨年度の履修者は27名と比較すると、大幅に増加した。また、単位修得者は63名で単位修得率は88.7%（全欠席者5名を除いた割合）で、2019年度（96.3%）と比較して下降した。

「キャリアデザインB」は2年次以降に修得ができる自由科目であるが、履修人数は卒業単位認定の有無が大きく影響しているといえる。今年度、対象となる学科が拡充されたため、履修者の大幅増につながったと考えられる。

※2018年度以前の入学者はデザイン学科および心理学科で単位認定が可能。

2019年度以降の入学者は、国際コミュニケーション学科、福祉実践学科、経済学科、経営学科、デザイン学科、心理学科で単位認定が可能。

表2 履修登録者数および単位修得率の詳細

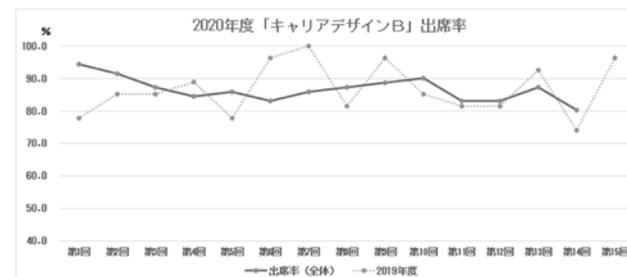
学部・学科・学系		2020年度				<参考>2019年度					
		4年	3年	2年	合計	単位修得率	4年	3年	2年	合計	単位修得率
理工	物理学系		1		1	100.0%					
	生命科学・化学系										
	機械工学系		1		1	100.0%					
	電気電子工学系										
	環境・生態学系						1	1	2	100.0%	
人文	国コミ			16	16	93.8%			1	1	100.0%
	日本文化		1		1	100.0%	1	1	2	50.0%	
	人間社会		1		1	100.0%					
	福祉実践										
経済	経済			20	20	100.0%	2		2	100.0%	
経営	経営			1	1	100.0%					
情報	情報						1		1	100.0%	
教育	教育							1	1	100.0%	
デザイン	デザイン	8	6	11	25	72.0%	1	3	10	14	100.0%
心理	心理			5	5	100.0%		3	1	4	100.0%
建築	建築										
		9	9	53	71	88.7%	2	11	14	27	96.3%

2.3 出席率

平均出席率（全欠席者5名を除く）は86.6%であり、2019年度（86.7%）と比べほぼ同じだった。最高は94.4%（第1回）、最低は80.3%（第14回）であった。出席率（全欠席者5名を除く）の詳細は図1を参照。

図1 出席率（全欠席者5名を除く）

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回
2020年度	94.4	91.5	87.3	84.5	85.9	83.1	85.9	87.3	88.7	90.1	83.1	83.1	87.3	80.3	
2019年度	77.8	85.2	85.2	88.9	77.8	96.3	100.0	81.5	96.3	85.2	81.5	81.5	92.6	74.1	96.3



3 授業評価

第14回授業回で、今後の授業改善のための終了時アンケート（記名式）をLMSで実施した。回答数は60名であった。アンケートをもとに学生による授業評価を見ていく。

3.1 教育目標の達成

行動目標・到達目標に関し、達成度を4件法で尋ねた。

Q5「職業に就いて働いていくために必要な職業や労働に関する様々な基礎的知識を習得することができた」に「とてもそう思う」、「そう思う」と肯定的に答えた割合は100%（2019年100%）であった。

その理由として「生涯取次試算書の作成など、自分が将来どのようなプランを立てて考え、行動するかや専門的用語を学ぶことができたから」「法律を絡めて、自分が今後どのような環境を作っていけばいいかイメージすることができたため」「給料などで疑問点があったら自己解決できるから、また給料の未払いなども自分でわかるようになるから」などの記載があった。中には「必要な知識をすべて得たとは思わず、これからも調べ、学んでいかなければいけないと感じるため」と授業後も継続して学び続けることの重要性について述べた学生も見られた。

Q6「社会に出て働くことの様々な側面について理解し、卒業後に社会人として活躍するために必要な意識を育成することができた」に「とてもそう思う」、「そう思う」と肯定的に答えた割合は98.3%（2019年89.5%）であった。

その理由として「テレワークや副業・兼業など多様な働き方が求められる現在、今後も変化していくと思われる働き方に関する社会問題について考えることができたから」「社会人として活躍するには会社という団体のなかでいかに自分の役割を早く見つけ積極的に行動できるかということが必要になってくると思うのでグループワークを通してそれらの意識を育成することが出来たと思う」「法律やお金の知識は社会にでて確実に必要な知識だという意識を持つことができたから」という記載があった。以上のことから多くの学生が行動目標・到達目標を達成できたと考えられる。

3.2 学生の満足感・反応

(1) 学生の受講満足感

授業に対する満足度について4件法で尋ねた。Q1「あなたはこの授業に出席して、どのように思いましたか」に対して「とても良かった」「良かった」を合わせた回答が98%（2019年度98%）であった。その理由として「この授業を受けていなければ、自主的に学ぶことはあまりないようなテーマを扱ったと

思うから。この授業を受けて得をしたと感じたから」 「このコロナ禍によって、コミュニケーションが低下したという自分の現状を知ったうえで、知識として知るだけでなく、自分で考えさせられることで、有意義に時間を過ごせたと思う」という記載があった。

Q2「この授業を履修して良かった点はどのようなことですか(複数回答) では、「授業内容が将来の役に立つから」が73.7%、「専門家の話を聞き知識を得られた」が70.0%、「話し合いやチーム活動、プレゼンテーションなど様々なスキルを学べた」が48.3%であった。

Q5「この授業を後輩にも推薦しますか」に対する「大いに勧めたい」「勧めたい」の合計が95% (2019年95%)と回答し、例年通り授業に対する満足度は高いものとなった。Q5の推薦理由には、「社会に出る前にサポート制度やセーフティネットの存在を学ぶことは必要」「学部に関係なく働き始めた時に最低限分かっておきたいことを教えてくれる」など学生自身が将来に向けて必要な知識を学んでいることを認識している様子がうかがえた。また、「他学部と関わることができる数少ない授業」「人と協働して考える良い機会」「色々な考えの人がいて新しい発見ができる」など他学部と協働したグループワークの重要性を実感する記載もあり、学生の授業内容の評価や肯定的な反応が見て取れた。

(2)授業に対する取り組み

Q4「この授業にどのように取り組みましたか」において「非常に積極的に取り組みたい」「積極的に取り組みたい」の合計が85.3%(2019年度84.3%)、「まあ積極的に取り組みたい」が15.0%(2019年度15.8%)、「出席したがあまり積極的に取り組みなかった」1.7%(2019年度0%)となった。積極的に取り組みなかった理由として「オンラインの課題の存在を忘れてしまう」「回線が故障して入れないときがあった」などの記載があった。

(3)授業内容について

Q9「授業内容(各回の授業テーマ・内容)についてどのように思いましたか?」に対する「とても良かった」「割と良かった」の合計は98.3%であった。良かった内容の授業回については、第9回「ブラックバイト問題について考える」が61.7%、第10回-第13回「法律と労働について」48.3%、第5回-8回「人生に関わるお金について」38.8%と例年通りお金や法律と労働に関する関心が高いことが見て取れる。中でもブラックバイト問題については、直面する問題であるだけに自分ごととして考える学生が多かった。

Q10「授業の進め方はいかがでしたか(各回の授業構成、グループワークの内容、時間配分)」において「とても良かった」48.3%、「割と良かった」41.7%、「あまり良くなかった」8.3%、「良くなかった」1.7%であった。自由記述欄には、「グループワークが多いのが良い」「とても興味のある内容だった」「テーマはすごく難しかった」などグループ活動に対する肯定的な意見やテーマについて興味が湧く内容であった反面難しかったと感じる学生も多かった。また、良くなかった理由として、「グループワークの時間がもう少し欲しかった」など与えられた課題に対して話し合いまとめる時間が少ないことを指摘する記載もみられた。

3.3 教員から見た授業評価

(1)オンライン授業に対する学生の取り組み

オンライン授業中、安定した出席率を維持し、明星LMSの事前学習なども真面目に取り組んでいた。従前からの懸案事項であったOAスキルのばらつきについて、今年度は全員がExcelやPowerPointを使って専門家から出された課題を提出することができていた。また昨年度までの課題であった調査内容の充実についても事前学習を活用することで例年よりも調査内容を深めることができていた。一方でオンライン授業の課題としてグループ間の話し合いにおいて関係性構築までに時間がかかり、話が膨らみづらく議論が難しいと感じる場面も見られた。

(2)テーマに対しての学生の関心

例年通り、「人生に関わるお金」「法律と労働について」などのテーマに対する学生の関心は高かった。学生のアンケートからは、授業で話し合う内容や専門家から出された課題に対して「難しかった」と回答する学生が多かったが、将来に向けて必要で役立つ知識と捉え、熱心に取り組んでいた。

4 次年度に向けての課題

4.1 授業の内容の更なる充実

労働環境の変化や働き方改革など授業で扱うテーマについて、学生の知識量に差が見られ、その後のグループワークが上手く進まず専門家へ向けたプレゼンテーションでは質的なばらつきが見られた。学生同士話し合わせる前に社会情勢等を知るための事前学習の充実や新聞記事の活用などこれまで以上に丁寧な導入を考えたい。

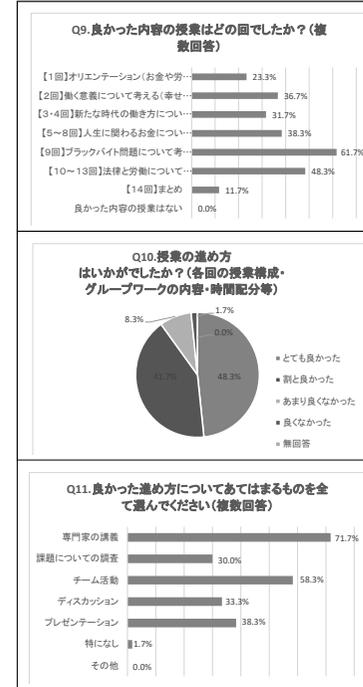
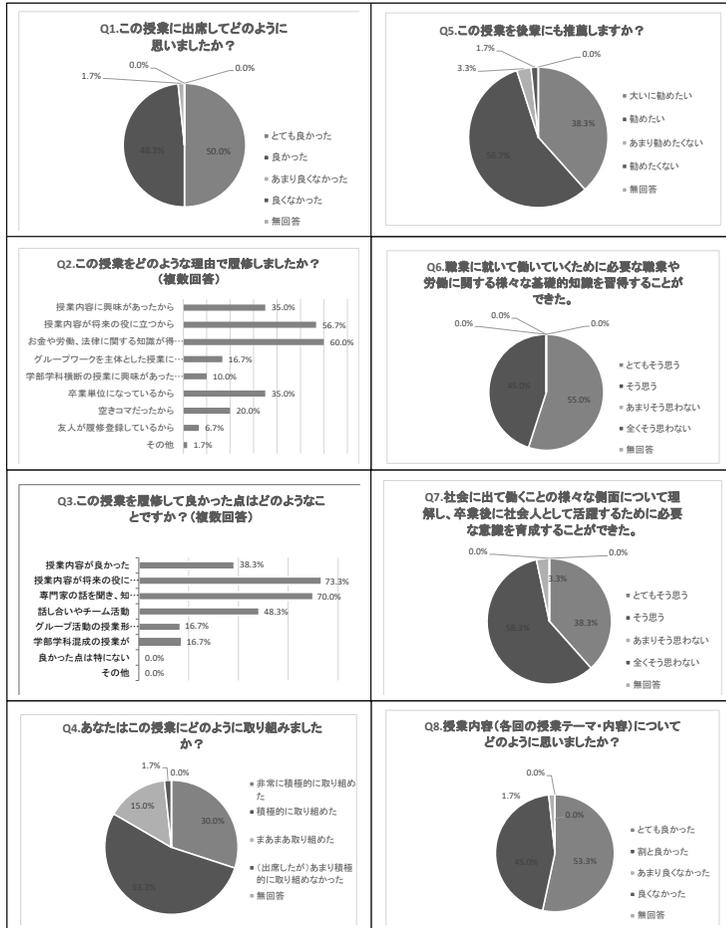
4.2 授業構成の検討や討議の進め方の工夫

本年度は課題の難易度の割にグループで話し合う時間が少なく、授業後アンケートからも「時間がもっと欲しかった」という意見が多かった。次年度は課題について取り組む時間を増やすなど授業全体の構成を検討したい。また、学生の傾向として自分の意見を主張することや討議が苦手な学生が多みられたため、労働問題に関わる問題についてディベートの手法を用いるなど工夫していきたい。

添付資料：1. 終了時アンケート結果詳細

以上

資料1 終了時アンケート結果詳細 (N=60)



2020年度 明星教育センター 自校教育事業報告

1. 明星大学資料図書館（15号館）明星資料展示室展示

2020年度の明星資料展示室展示は、新型コロナウイルス拡大の影響により、資料図書館内の企画展の中止に伴い、明星資料展示室の企画展も新規の展示活動は中止とした。現在、常設展と準企画展「明星大学明星教育センター設立10周年記念 明星教育の実践をめざして—明星教育センターのあゆみ—」（2020年3月～）は継続しており、資料図書館開館時には、自由に観覧できるようになっている。

2. 自校史資料の収集・整理状況

明星大学明星教育センターは、「学校法人明星学苑の建学の精神に基づく明星大学の教育の理念及び目的（以下「明星教育」という。）に関する研究・啓発・広報活動、並びに、明星教育の具現化及び学生の社会的・職業的自立促進等に関する教育研究活動を実践すること」（明星大学明星教育センター規程第2条）を目的としている。明星大学の教育的特色である「明星教育」を明らかにし、研究・啓発・広報活動に繋げるため、自校教育では、明星大学の理念や沿革・教育活動に関わる歴史資料を収集し、過去・現在・未来をつなぐ貴重な資料として、整理・保存を行っている。

■2020年度 受入資料（2020年2月11日時点）

●2020年8月11日 退職教員（児玉三夫・近藤一二・銅直勇）関連資料 7点（大学関係者寄贈）

●2020年7月29日 学友会関連資料 27点（学内関係者）
 周年関連資料 5点（学内関係者）
 その他（学内刊行物等） 17点（学内関係者）

上記、56点の資料の寄贈があった。資料は、整理・保存処理後、受入台帳に登録を行った。

■資料整理状況（2020年2月11日時点）

受入台帳登録数の総数は、6,397件であった。

■『体験教育』テキストデータ化

収集・整理した資料は、収集した資料を公開・研究での活用を目的として、資料のデジタルデータ（PDF）をテキストデータ（Word）化に変換する作業を行っている。現在は、明星大学の母体である明星学苑発行の『体験教育』（1929（昭和4）年創刊）のテキストデータ化を進めている。

テキストデータ化の対象号は、以下のような内容が含まれるものとする。

- ①明星学苑・明星大学創立者 児玉九十・明星大学第2代 児玉三夫の教育理念
- ②明星学苑・明星大学の源流である明星実務学校・旧制中学校時代のもの
- ③明星大学の歴史に関わるもの
- ④明星学苑・明星大学の年史編纂等に使用される見込みのある号（周年行事等）も対象とする。

上記を踏まえ、2020年1月までの作業実数は、以下の通りである。

保有デジタルデータ	テキスト化対象	完了数	未完了
600	500	113	387

テキスト化したデータは、2023年に迎える明星学苑100周年事業の一環である明星学苑100周年史編纂や展示資料の解説などの情報発信として使用している。